

〈史料紹介〉

## 下京中大坂町年寄山中家文書

母 利 美 和

本稿では、平成二十六年度に京都女子大学図書館が購入した「下京中大坂町年寄山中家文書」の調査成果として、文書群七六一点の特徴を紹介する。

本学では、随時寄せられる古書情報をもとに、教育・研究への活用をはかるため、京都を中心に畿内近国に関する古文書を収集してきており、これらの古文書について、古文書調査・整理を実施し、整理が終了したものを公開できるよう努めている。本稿もその一環として、紹介するものである。

この文書は、近世京都、下京中大坂町（烏丸五条下ル）の年寄を勤めた山中治兵衛家に伝来した文書群である。山中家の家業は、江戸時代中期から幕末期にかけて山田屋を称した扇屋であり、京都扇屋仲間の古株三十三軒（住吉組）の構成員として株仲間の年行事も勤めた。また、中大坂町を中心に多くの借家を所持し、広範に金銀貸し付けもおこなった有力町人である。近世後期から幕末期にかけては、中大坂町の町年寄を勤め、明治六年（一八七三）には戸長に任じられる。扇屋の経営は明治期も続き、「△二店」（山二店）の符牒を用いている。史料の伝存状況から見て、明治二十年代頃までは、経営が継続された

ものと考えられる。

ただし、本学が所属する「下京中大坂町年寄山中家文書」は、当家伝来文書の一部と考えられ、他の一部は仏教大学附属図書館に「京都中大坂町山中家文書」として所蔵されており、すでに扇屋経営・扇屋仲間に関する研究も見られる<sup>(1)</sup>。

### 一 文書調査の経緯

**文書収集の経緯** 本学所蔵の史料は、一般の古書市場に出されたものを古書肆から購入したものであり、伝来経緯は不明であるが、山中家から市場に出され分割されたものと推測される。

**調査整理の経緯** 本調査は、平成二十九年度（二〇一七）の大学院授業において、一部ラベル貼付・調書作成の作業を開始していたが、平成三十年度に本学の研究経費助成「京都女子大学所蔵山城国山中家文書の調査・整理」（研究代表母利美和・共同研究者梅田千尋）を得て本格的に実施し、本学大学院生を中心として、一部有志大学生も参加し調査をおこなった。調査期間は、平成三十年（二〇一八）四月から平成三十一年三月までである。

調査に協力した学生は次の通りである。

文学研究科	博士後期課程	史学専攻	林原由美子
同	博士前期課程	史学専攻	武藤 真由
文学部	史学科日本史コース	佐藤 寛子	
同	史学科日本史コース	檀上 遼	

本学の図書館では、史料購入後に全点の図書登録受け入れ作業として、朱の館蔵印を押したラベル貼付がおこなわれたが、その際、史料の形状により、一紙物、縦帳、横帳のように形態で仕分けをおこない、四区分に仕切りを入れた文書保存箱に収納したようである。その際、紙縫紐、包紙などによる一括関係は崩されなかったが、形態による仕分けの過程で伝来当初の文書保存序列（史料保存状態における上下の位置関係など）は崩された可能性が高い。もちろん文書群が古書市場に出された場合、当初の文書保存序列が崩れるケースは多々ある。本文書群もすでに市場に出された段階で、いくつかに分割されているようである。通常の学術的な史料調査では、文書の現状保存が重視されるが、本文書群の調査ではやむを得ず、図書館から引き渡された段階での四区分による仕分けにより、調査作成を進めることとした。

この現状は、本学が入手した当時の伝来状況を伝えるものであると考えられないが、個々の文書配列の現状における関係性も無視できないため、まず、四区分の仕切りごとに1〜4を頭番号とする和紙の文書ラベル貼付によりナンバリングをおこなった。紐や袋による一括関係は現状のままとし、現状での上位置にある文書から順に付箋を挿入し、一紙類から順次、「一〇」、「一一」のように調査番号を与えることとし、文書に巻き込まれたものなどは枝番号を付して、できるだけ現状

をとどめることにした。本目録における調査番号の表記は、「一」の場合、1001となっている。

つぎに、個々の区分ごとに調査カードによる調査作成をおこなった。調査カードへの採録データは、原題・年紀・差出・宛所・形状・頁数・紙数・紙質・包紙上書・一括関係を記録した上で、内容の概要を把握するため百字程度の内容を略記して採録した。その後、区分ごとに表計算ソフトにより調査データを入力し、文書の分類をおこなった。調査番号は目録では略記し「調番」「枝番」の欄に記している。

分類により編年整理した上で、各分類ごとに001から始まる整理番号を付与した。整理番号は目録中では略記し「整番」の欄に記している。文書群ごとの分類・概要は、以下の解題で述べる。

## 二 文書群の解題

**文書群の名称** 当文書群は、年紀の明らかなものでは、元禄三年（一六九〇）から明治二十三年（一八九〇）の史料が見られ、山中家が担った中大坂町年寄の役儀に関する史料、当家の家業である扇屋経営・扇屋仲間に関する史料、山中家の家族・家政に関する史料が含まれている。とりわけ本学の所蔵文書中では、町役人としての年寄・戸長としての職務に関する史料群が七六一点中、四九九点にのぼり、幕末・維新期の町役人として、町共有文書を引き継いだことが想定されること、また先述した仏教大学附属図書館所蔵の「京都中大坂町山中家文書」との区別のため、「下京中大坂町年寄山中家文書」とすることにした。

**文書群の分類** 「下京中大坂町年寄山中家文書」の分類は、山中家

【表①】文書群の分類と史料点数

大分類	小分類	点数
I 町奉行		63
II 御用米会所		1
III 悲田院		2
IV 隋心院		2
V 尾張殿御用所		1
VI 中大坂町	1 人別改	32
	2 人別送り	259
	3 家屋敷	79
	4 町自治	17
	5 願書	1
	6 金融	18
	7 稲荷信仰	2
	8 救恤	1
	9 教育	1
	10 町代改儀一件	13
	11 不明	3
	(小計)	426
VII 山中家	1 地下官人	2
	2 扇屋仲間	14
	3 扇屋経営	10
	4 金融	52
	5 某証文	2
	6 家族・親族	6
	7 中路一件	16
	8 家政	24
	9 書状	2
	10 信仰	6
	11 教養・文化	62
	(小計)	196
VIII 近代	1 戸長	9
	2 扇屋経営	32
	3 金融	7
	4 借家経営	1
	5 社会貢献	1
	6 家族・親族親族	2
	7 家政	13
	8 書状	4
	9 信仰	1
	10 教養・文化	1
	(小計)	71
	合 計	761

がおかれた社会関係・役務などから、I 町奉行（中大坂町と京都町奉行所等との関係に関する文書）、II 御用米会所（御用米会所関係）III 悲田院（悲田院発給文書）、IV 隋心院（小野御殿名目金関係）、V 尾張殿御用所、VI 中大坂町（町運営に関する文書）、VII 山中家（山中家の家業、家政、家族に関する文書）、VIII 近代（明治五年以降の文書）の八つの大分類をおこない、さらに、VI 中大坂町・VII 山中家・VIII 近代については、表①のように小分類をおこなった。大分類・小分類の詳細は、各分類ごとの解説を参照されたい。

### 各分類の概要

#### I 町奉行

京都の町を支配・統制する町奉行は、洛中の各町・洛外の町続き、周辺の近郊村に対して、幕府触や京都町奉行管轄の洛中・洛外を対象とした触を發布した。触は、町奉行から町代を通じて各町に伝達され

るが、中大坂町の史料には、これら町代から伝達された近世後期から維新後までの触写や、触内容を承諾する触請書、町から町奉行に提出した届書など六十三点が伝存する。触写は、天保九年（一八三八）閏九月の「町触写」（整番005）から明治元年（一八六八）の「御触書之写」（整番059）がある。京都町奉行から発せられた触は、『京都町触集成』（以下『集成』と略記）により近世前期から明治四年までの触が、三条衣棚町文書・三井本店文書・町代古久保家文書に伝存する触留から編集・刊行されたが、幕末期の触に関しては未収録のものが多く、本文書群の触写の中にも、『集成』に未収録の触が多数確認される。

#### II 御用米会所

豊臣秀吉創建の方広寺の東に位置する大仏堺内馬町鐘鑄町の大坂屋五兵衛から御用米会所宛の文書一点である。差出・宛名のみが伝存し、

本文が欠失するため文書内容は不明である。中大坂町・山中家との関係不明のため、独立して分類した。

### III 悲田院

洛外の非人支配を担った悲田院会所の発給文書である。整番〇〇は本紙を欠き内容不明であるが、整番〇〇は刑事事件の吟味筋に際して、町役に対する「宿扶持代金」請求に関するものである。

### IV 随心院

随心院は、京都市山科区小野にある真言宗善通寺派大本山の寺院であり、真言宗の事相<sup>じさう</sup>における東密二流の一である小野流の開祖として知られる仁海開基の寺院。当寺の位置する小野地区は、小野氏の根拠地とされ、江戸時代には「小野御殿」とも称された。本分類の二点は、両通とも「天真院様」から小野御殿へ寄付した「御知行米代御修復金」を名目とした運用資金の貸し付けに関するものである。天真院とは、豊臣秀勝を父に、お江を母とする豊臣完子<sup>みづな</sup>と考えられ、慶長九年（二六〇四）に九条忠栄の正室となる人物である。史料は文政十年（二八二七）のものであるので定かではないが、天真院寄付の「御知行米代御修復金」が、いわゆる名目金として貸付運用されていたと推測される。

### V 尾張殿御用所

中大坂町の南に位置する「鍵屋町」の丹波屋伊助に宛てた「尾張殿御用所」の発給文書である。尾張殿御用所とは尾張藩の京都における物資調達（呉服所）や朝廷・公家への取次をになう御用達町人と考えられるが詳細は不明である。本史料一点は、丹波屋からの上納金請取書である。

## VI 中大坂町

1 人別改 文政二年（一八一九）から明治五年（一八七二）までの中大坂町の人別改帳である。洛中に残る各町の人別改帳では、家並み順ではなく、宗旨別に記載される例が確認<sup>②</sup>され、本文書群でも宗旨別に記載される「宗門帳」が見られる。人別改めは、毎年九月に実施されるが、翌年二月に、その後の異同について改め加筆し町奉行に提出されるが、町側には正本と同様に押印した「控」が伝存する。本文書群では、こうした通例の「宗門帳」<sup>③</sup>以外に、毎月二日に住民の所在確認をおこなった「毎月人別改帳」と題する記録が、一年ごとに伝存する。

人別改を毎月実施した例として、津山藩における文化十三年（一八一六）から慶応三年（一八六七）年までの「懐胎届人別出生死毎月改帳」が報告されているが、京都での事例は本例以外に管見の限り確認できていない。この改帳は町奉行に提出したものではなく、町独自に作成されたものと考えられ、その意図したところは不明であるが、公儀への届けとしての「宗門帳」とは異なり、町側が町役負担など町自治のための住民把握手段として実施されていた可能性がある。人別改帳は散逸するものも多いが、「宗門帳」では十五年間分、「毎月人別改帳」では十七年間分が伝存する。

2 人別送り 中大坂町への転居・転住、他町村への転出にともなう人別送り状、転居・転住にともなう借家請状や宗旨請状を分類した。年紀の明らかなものでは、文化六年（一八〇九）から慶応三年（一八六七）までのものがあり、年紀不明のものを合わせて二五九点と、本文書群のなかで最も多くの割合を占める。借家請状の中には整番〇〇

のように、家請人・引受人・借り主の署判が見られるものがあり、家請人の事例では、整番〇〇の場合「烏丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛」、整番〇〇の場合「東洞院上数珠屋町下ル町 家請人 河内屋宗儀」、整番16の場合「魚之店諏訪町西へ入町 家請人 鳥羽屋直吉」が署判するが、これらの人物は身元引請人としての「引取人」に替わり、経済的信用保証をおこなっていると考えられ、とりわけ「竹村屋清兵衛」が「家請人」となる事例は多く、安政六年（一八五九）から慶応元年（一八六五）にかけての借家請状（整番207、246）のほとんどの「家請人」となり、独占的な状況が見て取れる。中大坂町との特異な歴史的背景による関係があったものと考えられよう。

**3 家屋敷** 中大坂町における家屋敷の売買・譲渡に関する文書である。明和四年（一七六七）の沽券改写を除くと、年紀が明らかなのは、寛政元年（一七八九）から明治三年（一八七〇）までのものがあり、年紀不明のものを含め七九点である。家屋敷の売買・譲渡の際には、所有権の来歴を明確にするため、明和四年の沽券改における割印をはじめ、以後の売買・譲渡証文の写が添付されている。

**4 町運営・自治** 中大坂町と近隣町との間の取り決め、中大坂町中での申し合わせや取り決め、町役負担、町入用に関する文書一七点である。整番001、002は、元禄三年（一六九〇）に烏丸五条下ル二丁目の四つ辻に面する鑑（鍵）屋町・下大坂町・上大坂町・横諏訪町との間で交わされた取り決めであり、本文書群で最も古い史料である。両通とも署判のある原本であり、四つ辻での口論や捨物の処理方法、公儀への届出方法が規定されている。

**5 願書** 弘化四年（一八四七）に町奉行から町へ貸し下げられた金子に対する返納のための上納金について、支払困難者の分割上納願書としての口上書雛形一点である。

**6 金融** 天保十五年（一八四四）の、「町儀出銀」「町分積銀」などの貸し付けや、「持前講」など中大坂町中での講金貸し付けに関する文書十八点がある。

**7 稲荷信仰** 中大坂町は伏見稲荷社の氏子区域であり、文化四年（一八〇七）から明治十年（一八七七）までの稲荷社神事社納金の集金通一点、文政二年（一八一九）の稲荷社本社・檜皮寄進の集金帳一点がある。

**8 救恤** 万延元年（一八六〇）の、囲米に関する役人名前、年番交替までの手順、年番町の勤務内容などについて記した御用留一点である。

**9 教育** 明治三年の下京十六番組小学校の積立金請取通一点である。

**10 町代改儀一件** 文化十四年（一八一七）四月から、町組が町代の専横を訴えて起こした訴訟事件（町代改儀一件）に関する文書十三点である。町代は町奉行から発せられる法令・触の伝達、町から出される請願・届出の提出、上下京の町人を代表した町年寄とともに出府する將軍への年頭拝礼、町人役の徴収、火災・闕所・見廻などの出役を勤め、公事・訴訟日には交替で奉行所内の町代部屋に出仕して事務処理の補佐を行うなど、町奉行の事務と密接な関係にあった。しかし、町代の給料としての役銀は町人負担であり、町組に雇われる立場であったが、町奉行事務の一部代行などにより、町奉行の権威を傘にした専横や、世襲による職務怠慢などの弊害がおこるようになった。町



代改儀一件は、こうした町代の専横に反感を持った町組が、町代と町組との関係改善を訴えた訴訟事件であった。

この事件は、文政元年（一八一八）十二月に町組側の主張がほぼ認められ結審するが、これに関する研究では、事件の経緯を記した詳細な史料紹介はおこなわれていない。本文書群の史料は、文化十四年三月の町組から町代への申し渡し、町奉行への訴訟言上、町代からの返答書、町組側から町奉行への返答書、関係証文・触書の写、町奉行の御前における町組・町代双方への取り調べ返答書、結審後の済状、町代の結審に対する請状と詫証文、事件後の家売買に関する触書など、事件経緯の全貌を示す史料であると考えられる。

## VII 山中家

**1 地下官人** 幕末期の慶応四年（一八六八）、山中家の当主治兵衛は、地下官人の官務壬生家の家来となり、「山中主殿」を名乗り、帯刀人となる。整番〇一は、その際の帯刀人届書、整番〇二は、御所御用に際して用いる桃燈と、御用外の平生に用いる桃燈の絵図である。

**2 扇屋仲間** 京都の扇屋仲間は、扇地紙の調達に関して、京都紙漉との争論を寛政十年（一七九八）頃から繰り返す。整番〇一は、文化十年（一八一三）に大坂安地紙の購入をめぐり双方の示談により作成されたもので、扇屋仲間の内、住吉組（古株三十三軒）による申し合わせ、寛政・享和期の町奉行への済状写である。整番〇二以降では、扇屋仲間における住吉組と平扇屋との田舎地紙の取り次ぎをめぐる内部争論、扇子骨仲間との係争、仲間寄合の約定などが見られる。扇屋仲間関係の文書については、本学のものとは十四点と数少ないが、仏教大学附属図書館所蔵の「京城中大坂町山中家文書」と併せて分析が進

められることを期待する。

**3 扇屋経営** 扇屋としての山中家（山田屋）の経営に関する文書十点。扇の代銀、諸勘定書、集銀帳、扇取引に関する書状などが見られる。

**4 金融** 山名家が個人・寺院等へ貸し出した貸借関係の文書五十二点。整番〇四の「関東御寄付祠堂金」や整番〇一以降に見られる「御役所御用金」などは、名目金貸付の運用と考えられ、山中家がこれを引き請け、貸し付け運用していたものと考えられる。

**5 某証文** 前欠・本文欠失のため対象不明の証文二点。

**6 家族・親族** 山中家の家族・親族の縁組・勘当・手切れや、家族間の金銭貸借に関する文書六点。

**7 中路一件** 整番〇一の包紙に「中路一件書類」と墨書され一括された十六点の文書。整番〇二には、「柿沢お仙」と「中路」の「引合わけ（縁談力）」と記されており、この「引合わけ」に山中家が関与したものと考えられる。

**8 家政** 山中家の家計・家財・家屋敷普請などに関する史料と、扇屋経営以外の借家経営に関する史料など二十四点。

**9 書状** 目的・対象が明確でない山中家宛の書状二点。

**10 信仰** 伊勢暦・御守・御符など六点。

**11 教養・文化** 書画、和歌・俳諧・詩文などの文芸作品、写本など六十二点。

## VIII 近代

**1 戸長** 明治六年（一八七三）から明治十五年までの戸長・戸長役場に関する文書九点。山中治兵衛は、明治維新後は中大坂町の町年

寄から下京区二十四区中大坂町の戸長として町の代表者としての活動を引き継いでおり、戸長としての届書・願書の綴り、戸長改正にともなう心得書、区長から戸長宛の通達、町有の借家・借地関係書類、小学校や民費の支出簿などがある。

**2 扇屋経営** 近世における山中家の家業扇屋は、明治二十三年頃までは継続されており、これら経営に関する取引先と交わされた書状、注文書、諸勘定書など三十二点がある。整番001の「直入控」<sup>(註)</sup>は、明治二年からの記載があるが、明治十七年まで書き継がれているため、ここに分類した。

**3 金融** 明治六年、明治九年、明治十七年の金銭貸借関係文書七点。整番002～004、006・007では、地所と建物を抵当に一八五円と、かなり高額な借り入れ金をしており、扇屋経営上の資金調達の可能性も考えられる。

**4 借家経営** 借家経営の家賃収納帳簿一冊。

**5 社会活動** 学校建設資金の寄付褒賞状。ただし、山中家宛ではない。

**6 家族・親族** 明治七年に山中治兵衛の養女となった高津ふさの送籍に関する文書二点。

**7 家政** 屋敷地改修にともなう官地道路妨害の始末書や諸勘定書、金銭出入帳など十三点。

**8 書状** つね・光寿（家族・親族カ）からの書状二通。

**9 信仰** 伊勢皇太神宮への神饌料請取書一点。

**10 教養・文化** 明治六年に静岡県で設立された旅行組合「一新構社」の宿紹介状と考えられる宿札一点。

## おわりに

以上、文書群の調査経緯や概要・分類について紹介してきたが、前述のように本文書群は中大坂町の山中家文書の一部であり、仏教大学附属図書館所蔵文書と併せて参照されることをお勧めする。今後、これらの文書群が関係する史料と合わせて、有効に研究・活用されることを願っている。本文書群の今後の史料公開は、史料保存状態が比較的良好であるため、大部な勘定帳簿など以外は、全史料のデジタル写真撮影を実施したため、原本閲覧の必要性がある場合を除き、デジタル画像での公開となる。本学での閲覧は、関係機関と調整の上、平成三十一年度からとなる予定である。

## 注

- (1) 尾脇秀和「京都扇屋仲間と紙漉兄頭部―扇地紙をめぐる「由緒」と「渡世相互」―」（『日本史研究』六六九号、二〇一八年）。
- (2) 「京都醍醐町文書」（『史窓』六九号、二〇一一年）。
- (3) 年次によつては「町内人別改帳」「毎月二日連判帳」と題される。沢山美果子「近世日本における出産と身体観に関する研究―津山藩領内を中心に―」（『科研費報告書 一九九九年』）。
- (5) 秋山國三『公同沿革史』（元京都市公同組合連合会、一九九四年、後に『近世京都町組発達史 新版公同沿革史』（法政大学出版局、一九八〇年）として再刊される）、杉森哲也「町組と町」（高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門Ⅱ 町』東京大学出版会、一九九〇年）、塚本明「町代―京都町奉行所の「行政官」として―」（京都町触研究会 編『京都町触の研究』岩波書店、一九九六年）など。

## 下京中大坂町年寄山中家文書目録

## 凡例

一、本目録は、京都女子大学図書館所蔵「下京中大坂町年寄山中家文書」七六一点の目録である。

一、史料上の異体字・合字・略字などは、原則として常用字体に改めた。

一、破損・虫損・抹消などにより判読不明な文字は、□・「」などにより表した。

一、目録欄の「整番」は、本目録による分類ごとの整理番号である。

一、「調番」「枝番」は、初期調査において付与した調査番号である。

一、「年月日」は、文書上の年紀とし、記録等で記載年代の幅のあるものは最初の年紀のみを記した場合がある。また、年紀のない文書で年代を推定できるものは（ ）内に表した。

一、「文書名」は、原則として原題を記し、原題のないものは文書名を付与し「」内に記した。また、補足する場合は（ ）内に記した。

一、「差出↓宛名」は、はじめに文書発給者もしくは記録者を示し、「↓」を付した後に、文書の宛名・宛所を記載した。発給者または宛名・宛所が複数ある場合は、適宜冒頭数名を記した上で、他何名と略記した場合がある。

一、「形状」は、用紙における縦紙・切紙・折紙の区別をしたうえで、

紙継ぎの継印のある続紙と、継印のない継紙の区別を「縦紙続紙」「縦紙継紙」「切紙続紙」「切紙継紙」と記した。また、冊子の形状は「縦帳」「横帳」などと表記し、帳ハズレの場合も、本来の形状を記した。表紙のない冊子、紙縫等による仮綴冊子は「仮綴」と記した。

一、「員数」は、冊子の場合は冊、一紙文書・巻紙・続紙文書は通、仮綴文書は綴などと記した。

一、「内容」は、文書の内容を略記し、現状での紙縫・包紙・巻込などによる一括関係、前欠・後欠などの伝存状況などの情報を【備考】以下に示した。

一、本文書目録の作成は、母利および本学大学院生林原由美子・武藤真由が中心に行い、予備調査段階では本学大学生佐藤寛子（現京都大学大学院生）・檀上遼が参加協力した。



## 1 町奉行 (触・触請状など)

整理・調査・校書	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	分量
001	1085 02	享保17年霜月12日 一札(借屋請御触請状連 印控)	伊右衛門(印)・七兵衛(印)・三右衛門 (印)、他14名(17名)→鳥丸通中大坂町 年寄六左衛門殿・町中参	御公儀より仰せ出された借家請の御触は承知。是迄 通り借家請人の際、判料一切請取らず親類縁者請印 する旨を届ける。【備考】裏継印無。1085-4をうけ の請状。	堅紙 1通 続紙 (2紙)		27.7* 59.1
002	1085 04	享保17年子12月3日 一札(借屋請人判料二付 請状連印控)	森佐兵衛(印)津国屋七兵衛(印)他21名 →年寄六左衛門殿・五人組庄右衛門 殿・同伊兵衛殿・同嘉兵衛殿	借屋請人のごことについての請状。御触にある請人仕 方覚書は承知しており、これまで家請人をしていた のは確かな人々なので判料を永々出すのは不勝手 であり、今まででしてきた様にしたい。町中家持借屋一 同の印形あり。【備考】裏継印有。	堅紙 1通 続紙 (2紙)		28.0* 65.0
003	4092	文化15年寅正月29 日 作恐口上書(御所方・堂 上方御用達改め二付)	鳥丸五条下ル二丁目 年寄伝左衛門→ 御奉行様	御所方や堂上方で御用達を勧め、提灯を請けている 者が町内には一切いないことを記す口上書。	堅紙 1通		24.5* 34.1
004	4009	天保7年申7月12日 作恐口上書(町内大判所 持者二付)	鳥丸五条下二丁目 山田屋治兵衛(印)→	大判所持の者お尋ねの処、14、5年前、近江屋佐 の世話により同人の本家近江屋喜兵衛方にて引替 したが、外に所持していない。年寄伊兵衛の奥書有。	切紙 1通		24.3* 34.0
005	1085 41- 05	(天保9年)閏4月 【町触書付】	(京都町奉行)→	①櫛・弁・かんざし・きせるなど、金銀を用いるこ と停止、②百姓・町人所持の金銀の品を金銀座に差 出すこと、③町方の金銀の品所持届出の催促。【備 考】『集成』11巻267、287、294に同じ。	切紙 1通 続紙 (3紙)		24.3* 98.5
006	1085 41- 02	(天保9年)7月(7日) 【町触書付】	(京都町奉行)→	「此度御男子様敬遊御誕生、松平亀五郎様と奉称之 旨…」近來金相場次第第二引下ヶ渡世柄ニ寄難儀い たし…」【備考】『集成』11巻282、284に同じ。	切紙 1通 (1紙)		22.2* 9.5
007	1085 39	(天保9年)7月 【町触書付】	(京都町奉行)→	当年(天保9年)閏四月に触れた百姓町人金銀之品を 用いること停止二付、心得違いのため少しも隠れる ことのないように座方へ出ること。品を出せば相当 の代金を差し出す。【備考】端裏「鳥丸雪路や丁下 丁」。『集成』11巻287に同じ。	切紙 1通 (1紙)		24.9*
008	1085 41- 03	(天保9年)7月 口達之覚(町触書付)	(京都町奉行)→	町々踊の儀弔慎むよう。【備考】端裏「鳥丸雪路屋 丁下丁」。『集成』11巻285に同じ。	切紙 1通 (1紙)		6.0*2 19.9*
009	1085 41- 04	(天保9年)7月 覚(町触書付)	(京都町奉行)→	間部下松守殿御初入につき、日刻刻限通りに御れに あるべき町方の者は、茶屋四郎次郎方へ、日限前に 届けること。【備考】端裏「鳥丸雪路や丁下丁」。 『集成』11巻286に同じ。	切紙 1通 続紙 (2紙)		22.0
010	1085 41- 11	(天保9年)7月 【町触書付】	(京都町奉行)→	大判は、享保度吹替以来、年数がたち、焼失など減 少したので、此度吹増命じられ、新古取交せ通用す べきこと。【備考】端裏「鳥丸雪路や町下丁」。 『集成』11巻288に同じ。	切紙 1通 (1紙)		6.2*2 2.1
010	1085 41- 11	(天保9年)7月 【町触書付】	(京都町奉行)→	大判は、享保度吹替以来、年数がたち、焼失など減 少したので、此度吹増命じられ、新古取交せ通用す べきこと。【備考】端裏「鳥丸雪路や町下丁」。 『集成』11巻288に同じ。	切紙 1通 (1紙)		6.2*2 2.1
011	1085 41- 06	(天保9年)8月27日 【町触書付】	(京都町奉行)→	広幡前内大臣殿薨去につき鳴者停止。【備考】『集 成』11巻292に同じ。	切紙 1通 (1紙)		6.5*2 4.2

整理番号	調査時期	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
012	1085 40	(天保9)戊午10月	〔金銀之品停止につき町触書〕	大坂組三町鳥丸通下大坂町 年寄茂助 印・同通中大坂町 年寄与兵衛 印・同通上大坂町 年寄権兵衛 印 →	吉延町入の金銀品使用を停止・回収・換金を命じる町触。大坂組三町の順達。【備考】『集成』11巻298に同じ。	堅紙 1通 (2紙)	24.8* 48.8	
013	1085 41- 01	(天保9年)10月	〔町触書付〕	(京都町奉行)→	「風立候間」の火の元触。天保9年のものか。	切紙 1通 (1紙)	24.5* 5.3	
014	1085 41- 07	(天保9)戊午10月	〔町触書付〕	(京都町奉行)→	文政度吹直被仰付候小判・壹歩判并真字草字式歩判の引賃について。【備考】端裏「鳥丸雪駄や町下町」。『集成』11巻297に同じ。	切紙 1通 (1紙)	24.1* 11.2	
015	1085 41- 08	(天保9)戊午10月	〔町触書付〕	(京都町奉行)→	茶屋四郎次郎、当四月江戸大火の節類焼につき、江戸年頭献上物の入用差支え、市中より銀120匁目前貸のこと。【備考】端裏「鳥丸雪駄や町下町」。『集成』11巻296に同じ。	切紙 1通 (1紙)	24.1* 17.0	
016	1085 41- 09	(天保9)戊午10月	〔町触書付〕	(京都町奉行)→	寺社境内、其外所々法会場等二而、市掛煮売・水茶屋渡世の仲ヶ間の者共の冥加銀について。【備考】端裏「中大坂町」。『集成』11巻301に同じ。	切紙 1通 (2紙)	20.9* 20.6	
017	1085 41- 10	(天保9)戊午10月	〔町触書付〕	(京都町奉行)→	道中筋宿々井川場の内困窮につき人馬賃銭・船賃銭・川越賃銭の割増を申し渡す。【備考】端裏「中大坂町」。『集成』未収録。	切紙 1通 (3紙)	21.0* 39.9	
018	1085 41- 09	嘉永2年西正月	御触書	中大坂町	相楽大隅守(茂正)京都町奉行就任二付出札など、嘉永2年正月から12月までに出された御触書留帳。所司代・町奉行関係から組間に至るものまで。	堅紙 1冊 (28丁)	24.8* 17.7	
019	1085 41- 09	嘉永3年戌正月	御触書之写	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	嘉永3年正月から同年12月晦日までの御触書留帳。末尾に、正月付で、内侍所繕入参詣触あり。	堅紙 1冊 (44丁)	24.9* 17.1	
020	1085 41- 09	嘉永4年亥正月	御触書之写	鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛	嘉永4年正月から同年12月までの御触書留帳。	堅紙 1冊 (42丁)	24.2* 16.3	
021	1085 41- 09	(嘉永4年)4月5日	〔株仲間再興ニ付問屋仲ヶ間取調雛形〕	藤沢徳次郎→	株仲間再興につき、問屋・仲ヶ間取調への雛形触。来ル11日迄に、月番町へ取集め、拙者方へ差し出すこと。【備考】4069-11に挿入。	堅紙 1通 (2紙)	24.1* 53.9	
022	1085 41- 09	(嘉永4年)亥9月	〔東御役所に宗門帳納めニ付書付〕	→	宗門帳を来ル7日朝5時に東御役所へ納めるようにと記す。抜み込まれた部分に同様の内容が写されている。【備考】端裏「中大坂町」。4069-11に挿入。	切紙 1通 (1紙)	24.1* 7.0	
023	1085 41- 09	嘉永5年正月	御触書之写	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	嘉永5年正月から同年12月24日までの町触留帳。	堅紙 1冊 (61丁)	23.5* 17.5	
024	1085 41- 09	嘉永7年正月	御触書之写	中大坂町 年寄治兵衛→	嘉永7年正月から同年12月までの御触書留帳。本文墨付は62丁。	堅紙 1冊 (67丁)	23.6* 17.4	
025	1085 41- 09	安政2年正月	御触書之写	中大坂町 年寄治兵衛→	安政2年正月から同年12月までの御触書留帳。本文墨付は34丁。	堅紙 1冊 (69丁)	23.7* 17.0	
026	1085 41- 09	(安政6年～)	〔諸證文・触書写綴〕		安政6年から万延元年に起こった世上の諸情報や触等を抜き書きする。酒造に関する触など京都近辺の情報や井伊掃部守殿死など江戸の情報など様々。	堅紙 1冊 (27丁)	24.3* 16.8	
027	1085 41- 09	万延元年11月9日	御触字	鳥丸通 中大坂町	万延元年11月9日から文久元年12月までの御触書留帳。	堅紙 1冊 (37丁)	24.4* 16.6	
028	1085 41- 09	文久2年正月	御触書之写	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	文久2年正月から同年12月までの御触書留帳。	堅紙 1冊 (30丁)	23.8* 16.9	

整理番	開書	技番	年月日	文書名	書出→宛名	内容	形状	頁数	法量
029	4077		文久3年正月	御触書之写	烏丸通中大坂町 年寄治兵衛	文久3年正月から同年12月までの御触書留帳。正月3日「一橋中納言…」、正月「今度攘夷御一決…」正月「東洞院三条下ル町 教諭所…」、2月「是迄寺社并町方…宗門人別取調…」など『集成』未収録のもの	堅帳 1冊 (61丁)	17.3* 24.5	
030	4078		文久4年正月	御触書之写	烏丸通中大坂町 年寄治兵衛	文久3年12月から、元治元年12月までの御触書留帳。	堅帳 1冊 (49丁)	25.0* 17.3	
031	4113		慶応2年正月	御触書之写	烏丸通中大坂町	慶應元年12月から同2年12月までの御触書写。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	堅帳 1冊(44丁)	24.1* 16.5	
032	2093	01	(慶応2) 寅年8月	【町触綴】	(京都町奉行)→	慶応2年8月～11月の触留・御断書控など綴り。【備考】紙縫一括2093-1～7。	切紙 反綴 1綴(12丁)	25.1* 42.5	
033	2093	02	(慶応2) 寅年9月	【町触綴】	(京都町奉行)→	慶応2年9月の触留・町代より廻状など綴り。『町触集成』未収触有り。【備考】紙縫一括2093-1～7。	切紙 反綴 1綴(7丁)	25.5* 24.9	
034	2093	03	慶応2年寅9月	【町触綴】	(京都町奉行)→	將軍上洛につき寄宿・賄い方など町代より中大坂町年寄治兵衛宛申通書、寄宿人数届雛形、御断書など綴り。【備考】紙縫一括2093-1～7。	切紙 反綴 1綴(7丁)	27.0* 19.5	
035	2093	04	(慶応2) 寅年11月22日	【諸藩止宿者取調二付届書控】	藤村亀之丞→	諸藩止宿の姓名取調につき町触、地車侍(特効)の者品替につき呼出状の2通貼付。【備考】2紙糊貼。紙縫一括2093-1～7。	切紙 1通(2紙)	24.2* 11.8	
036	2093	06	(慶応2) 寅年11月27日	【極難渋人御尋二付返答書控】	中大坂町 年寄治兵衛→	上大阪町・下大阪町・下平野町の極難渋人有無尋ねへの返答書控え。家名賞書貼付。【備考】2紙貼付。紙縫一括2093-1～7。	切紙 1通(2紙)	16.0* 22.5	
037	2093	05	(慶応2) 寅年11月	御断書(諸藩止宿者取調二付控)	烏丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛→	御上洛御供向の旅宿人数を、一町限に取調べるよう命じられたので、有無を取調べ、書付を当町で取集め、明後18日昼迄に拙宅へ差出すこと。【備考】2117-1～14。	切紙 1通 (1紙)	24.3* 12.8	
038	2117	14	(慶応3) 年正月16日	【町触写】	藤村亀造→	御上洛御供向の旅宿人数を、一町限に取調べるよう命じられたので、有無を取調べ、書付を当町で取集め、明後18日昼迄に拙宅へ差出すこと。【備考】2117-1～14。	切紙 1通 (1紙)	24.7* 10.1	
039	3075		(慶応3年) 2月28日～5月25日	【町触留】	(京都町奉行→)	卯年の二月から五月までの触留。大行天皇の盃号が孝明天皇に決まったこと、米師などが未曾有の高値となり困窮者へ御救として粥を炊くことなど16点の触留。2枚目、6枚目、10枚目、11枚目、13枚目は『集成』未収録。	切紙 1綴 (16通)	26.1* 33.0	
040	2117	13	(慶応3) 年3月12日	【町触写】	藤村亀造→当町中大坂町	路頭に立つ程の窮難人のあるを一町限に有無を取調べ、書付を当町で取集め今日中に拙宅へ返事すること。【備考】2117-1～14。	切紙 1通 (1紙)	24.3* 17.0	
041	2117	12	(慶応3) 年3月20日	【町触写】	藤村亀造→	御上洛御供向の旅宿を動めた町方は、当2月中の御断代の書付を差出すよう命じられたので、一町限で取調べ当町で取集め明日中に拙宅へ返事すること。付紙有。【備考】2117-1～14。	切紙 1通 (1紙)	24.3* 17.2	
042	2117	10	(慶応3) 年4月朔日	【町触写】	藤村亀造→	山科より日目の岡新道往還を新規に付替るので、東山永観堂禅林寺のことで出張するので、その方角の町の年寄五人組の内、一人、前書の刻限(四月一日朝六時より四時迄)に出張所へ出頭するよう、組の行事町から通達すること。【備考】2117-1～14。	切紙 1通 (1紙)	15.8* 21.2	

原書・開書・校書	年月日	文章名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
043 1083	(慶応3年)5月	[町触留]	(町奉行)→	慶應3年5月～8月に差された御触の御触留。【備考】ほぼ『集成』13巻収録分と一致。慶喜の代書祝儀についての記事は『集成』未収録。	切紙 1綴(12 紙)	26.6*	33.6
044 2117 08	(慶応3)年6月11日	[町触写]	藤沢徳次郎→	去賓間5月以来、市中帳家・寺院に寄宿した賄代、その外、その宿主、または町内での損失の有無を取調べ、明12日中に書出し、明日中に拙宅へ差出すこと。帳はがれか。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	24.5*	17.2
045 2117 07	(慶応3)年6月12日	[町触写]	藤沢徳次郎→当町中大坂町	(御上洛の)御旅宿を勤めた者の取調書付けはの難形を示し、一町限に有無取調べ、来月16日迄に取集め拙宅へ差出すこと。仮綴の帳はすれか。【備考】2117-1～14。	豎紙 (1紙)	24.5*	34.2
046 2117 06	(慶応3)年6月17日	[町触写]	藤沢徳次郎→当町中大坂町	寺社方と地藏堂物入番部屋普請の願済の有無、願い出すに取違があったものについて、一町限りに巨細取調べ、有無共に当町で書付を取集め、明後19日迄に拙宅へ差出すこと。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	25.0*	16.7
047 2117 09	(慶応3)外年6月	口達(町触写)	樋口町→大坂三町組御当町	上町代(田内)米三郎・下代(藤村)亀造らが願書により歎願するのは、去子年の類焼により差繰り御用のため他借金により仮家宅のどころ、物価高値のため難渋するので、其御町に軒役相応に御助成を願っており御取計い願う。【備考】2117-1～14。	豎紙 (1紙)	23.9*	34.0
048 2117 03	(慶応3)卯年7月3日	[町触写]	藤村亀造→上大坂町	諸大名・旗本の用達を勤める者は、昨12月から此節まで品替り、新規用達などを取調べるようになじられたので、有無を書付、当町で取集め、明後5日中に拙宅へ差出されたい。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	16.1*	10.4
049 2117 04	(慶応3年7月頃)	御断書(御触返答書写)	(中大坂町)→	諸大名・旗本の御用達取調べにつき、当町内は御座なく御断り申し上げる。2117-3に対する返答写。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	16.0*	6.3
050 2117 05	(慶応3)卯年8月8日	[町触写]	町代藤沢徳次郎→	当正月より御賄勘定書紛失につき改、正月方六月晦日迄御上洛御供御宿をした賄勘定書を差出すよう命じられ、洩れがないよう一町限に取調べ、来る12日迄に当町で取集め、拙宅へ御差出されるように。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	24.5*	12.5
051 1056	(慶応3)卯年8月	[町触留綴]	(町奉行)→当町下大坂町	慶応3年8～11月の町触・諸向達の留。物価・流通など。9月の「上様」呼称改称、11月17日付の午車余荷出銀等【集成】未収録。【備考】紙綴一綴。	切紙 (22枚)	24.5*	45.4
052 2117 01	(慶応3)う年9月6日	再達(町触)	川西九町組之内樋口町→大坂三町御組御当町	先達で通達した上下町代共に類焼助成につき、定て当人から御願い出る筈だが、今に御沙汰がない由、急々御助成を違わすよう御取扱いくれられ、いずれ近日当人どもが再願い罷出るので宜しく御願いする。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	23.9*	13.3
053 2117 02	(慶応3)年9月12日	[町触写]	藤村亀造→	当時、地事所持のもの一町限に取調べ、有無の書付を早々当町へ取集め、当町より明13日中に拙宅へ差出すように。奥に取調書付の難形を記す。【備考】2117-1～14。	切紙 (1紙)	24.4*	34.3

整理番号	調査校番号	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
054	2117	11	(慶応3年) 口上(町触写)	藤村電造→	建仁寺新地三ツ盛町の宇野周助という者が、小児虫、その外妙薬を売弘めるので、程能く取計い、精々売捌ける様に御頼みする。決して紛わしき儀ではないので、御組町へ早々に通達をお頼みする。 【備考】2117-1~14。	切紙1通 (1紙)	24.5* 8.2	
055	4043		(慶応3年) 午 [町触綴]	(京都町奉行) → (中大坂町、他)	慶應3年に出生した洛中洛外、上下京三役、中大坂町等に出された町触の写。市中警固や市中見廻り等を記す。また明治元年の「海外諸国江学科修行～」の項目等『集成』未収録有。	切紙1綴(23 綴)	24.3* 54.7	
056	1086	01	慶応4年正月 [触留綴]	(京都町奉行)→	慶応4年正月～3月の町触など30件余写。鳥羽伏見戦後の市中取締所布達など。【備考】紙綴一括。	切紙1綴 (18通)	24.6* 55.4	
057	4114		慶応4年正月 御触書	鳥丸通中大坂町	慶應4年正月から2月までの御触書写。朱筆によるふり仮名加筆あり。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	堅綴1冊 (28丁)	24.2* 16.9	
058	2106		慶応4年3月～閏4月 [町触綴]	(京都町奉行)→	慶応4年3月、断浪方用閑採用から閏四月賀幣定価吟味迄の触留綴。『集成』未収録のもの多し。 明治元年2月から同年3月までの御触書留帳。【備考】表紙、1月分欠。	切紙1綴 (50枚)	24.3* 66.8	
059	4072		(明治元年)辰2月 (御触書之写)			堅綴1綴 (32丁)	24.4* 17.2	
060	4128		明治3年正月 御所御達写	鳥五南 山中家	明治3年3月から、明治12年11月までの、大政官・留守官からの達書の写。墨付36丁。	横綴1冊 (65丁)	14.3* 39.5	
062	2018		辰正月(年日未詳) [町触写]	(京都町奉行)→御取締役所	御触写。伏見辺不容易な形成につき老幼産婦病人等は立退用意すること。壮年無病の者は狼に同様しないように。【備考】正月4日付の上大坂町年寄普兵衛の奥書あり。前欠。	切紙1通 (1紙)	24.1* 27.8	
063	2093	07	(年未詳)11月朔日 御用書(御救粥頂戴者取調二付順達書控)	藤沢徳次郎→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛 印・楊梅通室町 東入、他5町順達	町々にて御救粥頂戴の者の有無取調につき順達。【備考】紙綴一括2093-1～7。	切紙1通 (2紙)	15.8* 32.3	

II 春日院

整理 調査	校番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
061	3086	寅年7月4日	寛(悲田院宿扶持料勘定二付)	悲田院会所(印)→御町役	宿屋安次郎様しき吟味筋にて悲田院御預けとなった際の宿扶持代金請求書。5、6月分の飯料・最初雑用など計9匁1分8厘8毛。	切紙1通 (1紙)	16.0* 39.7	
064	4153	(年月日未詳)	[某書封紙]	悲田院会所→鳥丸雪踏屋町下ル町 御町役	悲田院会所から鳥丸雪踏屋町下ル町の町役宛への文書の封筒。	封筒1封	18.6* 5.0	

III 御用米会所

整理番号	調査校番号	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4001	(年月日未詳)	[某証文附簡]	大仏堺内馬町鹽竈町 大坂屋五兵衛 (印)・妻ぬい(印)→御用米会所	差出と宛名のみ、本文欠。裏紙印・裏書有。「宮十丸」「□□□」「河庄」。後欠。	切紙1通 断簡(1紙)	33.0*	11.9

IV 小野御殿

整理番号	調査校番号	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4014	文政10年亥12月	奉願御銀之事(小野御殿御修復金二付)	新町通魚之店上 近江屋小兵衛(印)・同丁 絵皮屋次助(印)、他2名印→小野御殿 御貸附御支配所	銀200目の借用証文。小野御殿→大仏院様より御寄附の御知行米代御修復銀の内、拠無き要用のため通判を以て借用する。返済期限は来年子5月25日ま	綴紙1通 (1紙)	33.1* 47.2	



整理番号	整理年	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
002	4017	文政10年亥12月	泰福御金之事(小野御殿御修復金二付)	大仏下町伏見海道東入 かん尾藤三郎(印)・妻(印)・伴寛兵衛(印)他4名→小野御殿 御貸付御支配所	金箱7両2歩の借用証文。小野御殿へ大仏院様より御寄附の御知行米代御修履金の内、拠無き要用のため連判を以て借用することを記す。	堅帳1通(1紙)	32.9*	46.9

V 尾張藩

整理番号	整理年	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	3029	午年10月7日	寛(金子請取証文)	尾張殿御用所(印)→瀬屋町室町東へ入ル丹波屋伊助へ	金七両を上納され、請け取った。	切紙1通(1紙)	18.1*	11.3

VI 中大坂町 1 人別改

整理番号	整理年	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	4111	01	文政2年卯9月 浄土・門徒・禪・時・日蓮宗門人別改帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄伝左衛門(印)・五人組治兵衛(印)・同善兵衛(印)→御奉行様	文政2年の宗派ごとの人別改帳。39家分の記載がある。【備考】4111-1～4紙縫一括。	堅帳1札(18丁)	24.0*	17.3
002	4111	02	文政4年巳9月 浄土・門徒・日蓮・禪・時・宗門帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄治兵衛(印)・五人組善兵衛(印)・同与兵衛(印)→御奉行様	文政4年の宗派ごとの人別改帳。38家分の記載あり。	堅帳1冊(20丁)	23.6*	17.3
003	4111	03	文政5年午9月 浄土・門徒・日蓮・禪・時・宗門帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄治兵衛(印)・五人組善兵衛(印)・同与兵衛(印)→御奉行様	文政5年の宗派ごとの人別改帳。39家分の記載あり。異動加筆あり。	1冊(21丁)	23.6*	17.4
004	4111	04	文政6年未9月 浄土・門徒・禪・時・宗門帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄次兵衛(印)・五人組善兵衛(印)・同与兵衛(印)→御奉行様	文政6年の宗派ごとの人別改帳。37家分の記載あり。	堅帳1冊(20丁)	24.1*	17.3
005	4102		弘化2年巳9月 浄土・門徒・時・(日蓮)宗門人別改帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄喜兵衛(印)・五人組伊兵衛(印)・同文三郎(印)→御奉行様	弘化2年の宗派ごとの人別改帳。【備考】弘化3午年2月、加筆あり。表題の「日蓮」は朱筆。	堅帳1冊(27丁)	24.4*	17.0
006	4101		弘化3年午9月 浄土・門徒・日蓮・時・宗門人別改帳(控)	(鳥丸通五条下ル式町目)中大坂町年寄喜兵衛(印)・五人組伊兵衛(印)・同文三郎(印)→御奉行様	弘化3年の宗派ごとの人別改帳。【備考】弘化4年2月、加筆あり。	堅帳1冊(28丁)	24.0*	17.5
007	4106		弘化4年未9月 浄土・門徒・日蓮・時・宗門人別改帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町年寄喜兵衛(印)・五人組伊兵衛(印)・同文三郎(印)→御奉行様	弘化4年9月の宗派ごとの人別改帳。【備考】弘化5午年2月、加筆あり。	堅帳1冊(25丁)	24.1*	17.0
008	4105		嘉永3年戌 町内人別改帳	鳥丸通中大坂町年寄治兵衛	健屋喜兵衛や山田屋次兵衛をはじめとする中大坂町45家の嘉永3年1年間の人別改帳。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	1冊(47丁)	24.6*	17.1
009	4112		嘉永4年亥正月 毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町年寄作兵衛	嘉永4年の鳥丸通中大坂町の毎月人別改帳。月ごとに押印し、異動を加筆。	堅帳1冊(50丁)	24.8*	16.7
010	4055		嘉永4年9月 浄土・門徒・日蓮 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町	浄土宗15軒・門徒16軒・日蓮宗1軒の宗旨改帳。生国・旦那寺移動記載有り。奥に、嘉永5年2月に改めた異同追記あり。	堅帳1冊(23丁)	24.2*	17.3
011	4054		嘉永5年正月 毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町年寄治兵衛	山田屋治兵衛家以下、中大坂町の住人40戸の戸主・家族の人名、年齢を毎月改め、押印。転宅の異同の記載あり。	堅帳1冊(44丁)	23.7*	17.2

整理番号	調査	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
012	4053	嘉永6年正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	山田屋治兵衛家以下、中大坂町の住人35戸の戸主、家族の人名、年齢を毎月改め、押印。転宅の異同の記載あり。	堅帳 1冊		24.6*
013	4052	嘉永7年正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	山田屋治兵衛家以下、中大坂町の住人25戸の戸主、家族の人名、年齢を毎月改め、押印。転宅の異同の記載あり。	堅帳 1冊		23.8*
014	4064	安政2年卯正月	毎月人別改帳	中大坂町 年寄治兵衛	山田屋治兵衛や西村屋栄五郎をはじめとする中大坂町39軒分の人別改めを記録したもの。安政2年正月から12月まで。	堅帳 1冊		23.6*
015	4056 03	安政2年9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛五人組栄五郎同善兵衛→御奉行様	浄土宗41人、門徒12人の宗旨人別改、増加5人分さらに4人分1綴。【備考】朱筆「安政三辰年二月」	堅帳 1冊		23.5*
016	4099	安政3年辰正月	毎月人別改帳	中大坂町 年寄治兵衛	【備考】紙縫一括4056-1~3。 計39家の安政3年分の毎月人別改帳。家ごとに家族のな前と年齢を記す。出生や死亡等があった場合は、その旨記載。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	堅帳 1冊		24.0*
017	4056 02	安政3年9月	浄土・門徒・真言宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛五人組栄五郎同善兵衛→御奉行様	浄土宗48人、門徒59人、真言宗1人の宗旨人別改、増加14人分一綴。【備考】朱筆「安政四巳年二月」紙縫一括4056-1~3	堅紙 1冊		23.0*
018	4115	安政4年正月	毎月人別改帳	中大坂町	14軒分、月毎印有り。【備考】裏表紙に「年寄治兵衛」。	堅帳 1冊		24.2*
019	4116	安政4年巳正月	毎月二日連判帳	鳥丸通中大坂町	中大坂町41軒分の戸主のみの人別改帳。住人当人が押印する。	堅帳 1冊		24.0*
020	4056 01	安政4年9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛五人組栄五郎同善兵衛→御奉行様	浄土宗44人、門徒56人の宗旨人別改、増加6人翌年分1綴。【備考】朱筆「安政五午年二月」貼紙「町」	堅帳 1冊		24.0*
021	4124	安政5年9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄栄五郎(印)・五人組治兵衛(印)・同善兵衛(印)→御奉行様	【備考】紙縫一括4056-1~3。 家数17軒。安政5年9月改め分に翌年2月増減改め分付記。表紙朱筆で「安政六年二月」と補筆。【備考】袋有「安政五年九月(「万延式酉年二月」と朱筆)」「宗門帳鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町」。	堅帳 1冊		23.7*
022	4123	万延元年9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄栄五郎(印)・五人組治兵衛(印)・同善兵衛(印)→御奉行様	家数17軒万延元年9月改め分に2月迄増加分を付記。表紙日付に朱筆で「萬延式酉年二月」と補筆。【備考】袋有「万延元申年九月(「万延式酉年二月」と朱筆)」「宗門帳鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町」。	堅帳 1冊		24.3*
022	4123	万延元年9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄栄五郎(印)・五人組治兵衛(印)・同善兵衛(印)→御奉行様	表紙日付に朱筆で「萬延式酉年二月」と補筆。【備考】袋有「万延元申年九月(「万延式酉年二月」と朱筆)」「宗門帳鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町」。	堅帳 1冊		24.3*
023	4122	文久元年酉9月	浄土・門徒 宗門人別改帳(控)	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄栄五郎(印)・五人組治兵衛(印)・同善兵衛(印)→御奉行様	文久元年9月に行った宗門人別改と、文久2年2月までに増えた人別分を記す。文久2年2月時点で惣人数40人。内男19人、女21人。【備考】封筒・表紙ともに朱筆で「文久二戌年二月」と加筆。封筒「宗門帳文久元酉年九月(未)文久二戌年二月 鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町」。	堅帳 1冊		23.9*
024	4125	文久2年正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町	家持5軒住家29軒計34軒につき、月毎に押印。家族異動の記録あり。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	堅帳 1冊		24.0*

整理番号	整理	年月日	文書名	書出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
025	4117	文久3年亥正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	44軒分の月毎の人別改め。毎月押印、異動の加筆あり。	縦帳	1冊 (47丁)	24.1* 18.0
026	4120	文久4年子正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	44軒分の人別改め。毎月、当人の押印と、異動の加筆あり。	縦帳	1冊 (47丁)	24.9* 17.1
027	4108	元治2年正月	[毎月二日連判帳]	鳥丸通中大坂町	毎月2日に中大坂町中の住民を確認するため各世帯主が連判する。原題は「毎月二日連判帳」。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	縦帳	1冊 (7丁)	24.3* 17.2
028	4119	元治2年正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町	中大坂町20件分の人別改帳。毎月当人の押印と、異動の加筆有り。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	1冊 (27丁)		24.6* 17.3
029	4118	慶応2年正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛	22軒分、当人による月毎の押印有、異動加筆あり。	縦帳	1冊 (24丁)	24.5* 16.5
030	4157	慶応2年9月	宗門帳 町控 [宗門帳 町控袋]	鳥丸通五条下ル中大坂町	袋のみ。	袋	1枚	29.7* 17.8
031	4103	慶応3年丁卯正月	毎月人別改帳	鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛	中大坂町21家に対する人別帳。慶応3年の正月から12月まで各家の印が押され、変更があつた場合はその旨を記載し、転居した場合は名前の上に貼紙した。【備考】裏表紙「年寄治兵衛」。	1冊 (23丁)		24.5* 17.3
032	4104	明治5年正月	毎月人別改帳	下京六番組鳥丸通中大坂町 年寄平兵衛	町内全世帯の毎月の居住、移動確認のため集印帳。【備考】裏表紙「年寄平兵衛」。	縦帳	1冊 (20丁)	25.0* 17.0

Ⅵ 中大坂町 2 人別送り

整理番号	調査	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	1085	43	文化6年4月11日	宗旨寺請証文	知恩院御門末 四條真守町 正覚寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通五條下ル式丁目鍵屋いち、代々浄土宗二付寺請証文。【備考】包紙「寺請証文 正覚寺」。	縦紙	1通	28.2* 37.1
002	2112		文政12年6月	一札之事(若狭屋和助借請錢返済二付)	松屋権兵衛(印)・万屋長兵衛(印)→山田屋次兵衛殿	貴殿から若狭屋和助が借請けた錢14貫文は、我等が交渉し、毎月500文宛返済することを承知したので、毎月500文宛請取り、貴殿へ渡すこととする。	縦紙	1通	25.4* 34.2
003	2100		天保4年卯7月	宗門證状(藤や利兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 西洞院菅丁目 円成寺(印)→年寄・町中参ル	鳥丸五条下ル式丁目山田屋又三郎(借家、藤や利兵衛・仲・娘の3人が円成寺の門徒であることを示す証状。	縦紙	1通	27.8* 40.2
004	1085	49	天保10年亥2月	借屋請状之事(近江屋弥兵衛借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・東洞院五条下ル三丁目 引請人 松屋武兵衛(印)・借り主 近江屋弥兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄与兵衛殿・町中参ル	中大坂町天満屋与兵衛家に仕立物職渡世の近江屋弥兵衛借宅二付請状のこと。同通に引請申証文之事を列記する。差出3名同じ、宛名天満屋与兵衛。【備考】裏紙有。端裏「天与借家 近江屋弥兵衛」。	縦紙	1通	27.8* 82.2
005	3045		天保10年9月	人別送り一札	京都鳥丸通五条下ル式丁目中大坂町 年寄——印→大坂安土町三丁目年寄吉野家得兵衛殿	中大坂町岩田屋六左衛門借屋近江屋伊兵衛殿のみか、大坂安土町瀬屋屋助借屋平野屋忠兵衛へ嫁付につき、人別送る。	縦紙	1通	23.9* 32.4
006	2075		天保11年子3月	借屋請状之事(水口屋徳兵衛借宅二付)	東寺内魚店室町東江入町 家請人 鳥羽屋直七(印)・鳥丸通鍵屋町下ル町 引受人 水口屋甚兵衛(印)・借り主 水口屋徳兵衛(印)→鳥丸通五條下式町目中大坂町 年寄与兵衛殿・町中参ル	中大坂町の丹波屋善兵衛家に水口屋徳兵衛、借宅につき請状。奥に家主の丹波屋善兵衛にあてた「引請申証文之事」を記す。【備考】裏紙有。端裏「丹せん借や 水口や徳兵衛」。	縦紙	1通	27.6* 78.2

整理番号	開書	校番	年月日	文書名	書出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
007	1085	09	天保11年10月	借屋請状之事(河内屋岩次郎借宅二付)	東洞院上珠数屋町下ル町 家請人 河内屋宗義(印)・大佛境内葉鐘町 引請人 大和屋弥兵衛(印)・借り主 河内屋岩次郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中参ル	大満屋与兵衛方へ借宅している河内屋岩次郎につき身元請状・通紙で家主大満屋与兵衛宛証文あり。 【備考】裏紙印有、端裏「天与借屋 河内屋岩次郎」。	縦紙 1通 (2紙)	27.7* 82.2	
008	3035		天保14年6月	人別送り一札(控)	鳥丸五条下ル式町目年寄喜兵衛 印→西寺内新町七条上之町年寄喜右衛門殿	中大坂町内山田屋つるの家に借宅する出村清右衛門、今度七条上之町の大坂屋きと殿家に借宅替のため、人別送る。 山田屋三郎家、近江屋藤兵衛は、当院門徒である。	切紙 1通 縦紙 (2紙)	24.4* 17.9	
009	1077		天保14年7月	寺請状之事(近江屋藤兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御一家 間之町五条上 発願寺(印)→年寄・町中	喜美須屋藤右衛門と家族計7名の人別改につき宗門手形。	縦紙 1通 (1紙)	27.8*	
010	2069		天保14年7月	御年宗門手形(喜美須屋藤右衛門家族宗旨二付)	本願寺御門跡御一家発願寺(印)→年寄町中	喜美須屋藤右衛門と家族計7名の人別改につき宗門手形。	縦紙 1通 (1紙)	40.7 23.7*	
011	1042		天保14年8月	寺請状之事(丁字屋長兵衛・宗旨二付)	四条裏寺町而山末 西林寺(印)→年寄・町中	鳥丸五条下式町目山田屋ししか家に住む丁字屋長兵衛一家が浄土宗であることの寺請状。	縦紙 1通(2紙)	25.1* 25.1*	
012	2057		天保14年8月	宗旨寺請状(丹波屋新兵衛借宅二付)	六角通大宮西へ入 而山末 光明院(印)→年寄・町中へ参ル	鳥丸通雪駄屋町下ル中大坂町の石見屋六左衛門殿家に借宅している丹波屋新兵衛・妻・父母等繼0人が浄土宗で当寺檀家である旨の寺請証文。	縦紙 1通 (1紙)	28.1*	
013	2060		天保14年8月	寺請状(水口屋徳兵衛借宅二付)	知恩院末 万寿寺西洞院東入町 大泉寺(印)→年寄・御中	丹波屋喜兵衛の貸家水口屋徳兵衛・妻・娘婿人の寺請状。	縦紙 1通 (1紙)	28.0* 40.7	
014	2068		天保14年8月	宗旨請状之事(登屋孫八借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 鳥丸通松木町 即現寺(印)→年寄・町中	鳥丸通五条下ル式町目、岩田屋六左衛門借家、登屋孫八と家族計5名寺請につき。	縦紙 1通 (1紙)	28.3* 41.1	
015	2070		天保14年8月	宗旨請状之事(升屋智誓借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 六条万屋町 徳応寺(印)→年寄・町中	中大坂町山田屋つるの借家の升屋智誓、宗旨請状。	縦紙 1通 (1紙)	28.2* 40.8	
016	2114		天保14年8月	宗旨請状之事(飛騨屋卯兵衛借宅二付)	知恩院末大雲院塔頭 智徳院(印)→年寄・町中	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町山田屋つるの借家の飛騨屋卯兵衛・母きくは、当寺檀家に紛れない。	縦紙 1通 (1紙)	28.0* 40.5	
017	2125		天保14年8月	宗旨請状(近江屋為人借宅二付)	年寄喜兵衛 印→伏見海道本町九丁目 年寄平右衛門殿	鳥丸通五条下ル式町目中大坂町山田屋つるの借家の為人・妻・仲3人の宗旨請状。	縦紙 1通 (1紙)	27.7* 40.0	
018	3034		天保14年8月	人別送り一札(控)	年寄喜兵衛 印→伏見海道本町九丁目 年寄平右衛門殿	天満屋ちよ借屋近江屋良平、本町九丁目大文字屋平右衛門借屋へ受宅につき、人別送る。	切紙 1通 (1紙)	24.3* 21.4	
019	1075		弘化2年巳正月	人別送り一札(村田順道借宅二付、控)	鳥丸五条下ル町 中大坂町 年寄喜兵衛 印→室町綾小路下ル白樂天町 年寄権兵衛殿	当町内山田屋文三郎家の村田順道がそちらの町内へ借宅したいと申出たのでそちらの人別に差加えを依頼。	切紙 1通 (1紙)	23.8* 32.8	
020	2020		弘化2年巳正月	宗旨請状之事(原清兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 鳥丸通松木町 即現寺(印)→年寄・町中	山田屋治兵衛借家の原清兵衛・妻・仲・娘、計7人の山田屋つるの借家の天正寺屋与六、今度其御町役屋宗助家に受宅につき、人別送る。	縦紙 1通 (1紙)	28.3* 38.5	
021	2080		弘化2年乙巳正月	送り一札之事(野原清衛一・受宅二付)	鳥丸五条下ル式町目 中大坂町 年寄五兵衛(印)→鳥丸五条下ル式町目中大坂町 御年寄・御町中参	中大坂町山田屋つるの借家の天王寺屋与六、今度其御町役屋宗助家に受宅につき、人別送る。	縦紙 1通 (1紙)	24.3* 34.5	
022	3032		弘化2年2月	人別送り一札(控)	鳥丸五条下ル式町目中中大坂町年寄喜兵衛 印→年寄弥兵衛殿	中大坂町山田屋つるの借家の天王寺屋与六、今度其御町役屋宗助家に受宅につき、人別送る。	切紙 1通 (1紙)	24.8* 34.4	
023	2096		弘化2年巳3月17日	送り状之事(柏屋栄蔵引越二付)	不明門通下平野町 年寄(印)→鳥丸五條下ル式町目 中大坂町 御年寄・町中 江	当町内内の美濃屋宗助借家の柏屋栄蔵が中大坂町へ引越し二付、送り状の事。	縦紙 1通 (1紙)	24.7* 32.4	
024	3037		弘化2年3月	人別送り一札(控)	年寄喜兵衛 印→鳥丸五条上ル町年寄六兵衛殿	覚町内丹波屋善兵衛家に借宅する大塚屋金三郎が、この度、其御町加賀屋いわ殿家に借宅したく申出たので、人別送る。	切紙 1通 (1紙)	24.8* 26.1	

整理番号	調査年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
025	1085	32	弘化2年巳8月5日 人別送り一札(美濃屋清 助・借宅二付控)	鳥丸通五条下式町目 年寄喜兵衛 印 →不明門通玉屋町 年寄仁兵衛殿	天満屋・上の家に借宅している美濃屋事助弟美濃屋 清助が、玉屋町中屋七平の家に借宅することに付、 人別送りのこと。	切紙 1通 (1紙)	24.0* 17.3	
026	1022		弘化2年8月 宗旨請状之事(柏屋栄蔵 借宅二付)	本願寺御門跡御役寺六条上錫屋町 圓 徳寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通雪敷屋町下ル山田屋次兵衛借家の柏屋栄蔵一 家四人の宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	28.1* 40.4	
027	2113		弘化2年12月 宗旨請状之事(山城屋熊 借宅二付)	惣本山知恩院御門末 京極通四条南 浄 教寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通雪敷屋町下ル中大坂町山田屋治兵衛借屋の、 山城屋熊の宗旨は代々浄土宗当寺旦那に紛れない。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 40.3	
028	2162	04	弘化2年巳12月 人別送り一札之事(山城 屋吉兵衛・妹とま借宅二 付)	上大阪町 年寄利兵衛(印)→鳥丸通中 大坂町 御年寄喜兵衛殿	上大阪町山城屋吉兵衛・妹とま二付、中大坂町山田屋 次兵衛家に借宅するため、人別送り状の事。【備 考】包紙一括2162-1～10。	切紙 1通 (1紙)	31.5* 24.7	
029	2077		弘化3年2月 宗旨請一札之事(伊勢屋 藤七借宅二付)	本山光明寺末 栗田御領南西庵子町 城 安寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通五条下ル式町目借家伊勢屋藤七と母計2名 寺請につき。	堅紙 1通 (1紙)	27.7* 40.2	
030	1079		弘化3年午4月 送り一札(近江屋久兵衛 ・妹宅二付)	東洞院松原上ル燈籠町 年寄治兵衛 (印)→鳥丸五條下ル式丁目年寄喜兵衛 殿	当町内万屋勘兵衛家に借宅している近江屋久兵衛に ついて、変宅になるので今後は当町内宗門から除 き、そちらに加えて下さい。	堅紙 1通 (1紙)	24.7* 33.7	
031	2126		弘化3年丙午4月 宗門請状(近江屋久兵衛 借宅二付)	本願寺御門跡御一家 東中筋花屋町上 ル 光親寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通五条下ル式丁目天満屋伊兵衛貸家の近江屋久 兵衛と妻2人に対する宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	28.1* 41.0	
032	1012		弘化3年5月27日 [松皮屋文助・人別送り一 札差出寛]	山田屋つるの借や内 松皮屋文助→三条 通堀川東橋詰町 年寄新兵衛殿	人別送り状を差し出した際の略記寛。	切紙 1通 (1紙)	25.5 *8.2	
033	3036		弘化3年5月 人別送り一札(控)	鳥丸通五条下式町目年寄喜兵衛(印)→ 六条通堀川東橋詰町年寄新兵衛殿	中尾大坂町山田屋つるの借屋松皮文助・母いと、東橋 詰町丹波屋与兵衛借屋へ変宅につき、人別送る。 【備考】変宅先主名掛紙にて訂正。	切紙 1通 (1紙)	25.5* 26.2	
034	1082		弘化3年丙午6月 人別送り一札(吉村屋甚 助召遣手助借宅二付)	西寺内北小路通高雄町 年寄七郎兵衛 (印)→年寄喜兵衛殿	吉村屋甚助の召遣い字助が、山田屋文三郎家に借宅 する野原清春市に引取られることについての人別送 り状。	堅紙 1通 (1紙)	24.9* 33.2	
035	2048		弘化3年未8月 人別送り一札(丹波屋善 兵衛・娘つね縁付二付、 控)	京丸丸五条下ル式町目 中大坂町 年寄 喜兵衛 印→下鳥羽村 庄屋系右衛門 殿・御役人中様	勢里川町利兵衛方へ当町(中大坂町)丹波屋善兵衛実 姉つね縁付に付、下鳥羽村の人別に加えること。 【備考】弘化3年は午年。	切紙 1通 (1紙)	24.5* 21.6	
036	3059		弘化3年午9月 人別送り一札	年寄喜兵衛 印→佛具屋町通上若宮町 御町役人中様	当町山田屋つるの借宅に在る岡本屋嘉兵衛・母いし の二人が、そちらの町家に借宅したいと申出てきた ので、人別を送る。	堅紙 1通 (1紙)	24.0* 32.5	
037	1085	33	弘化3年11月 人別送り一札(寺田屋こ と借宅二付控)	鳥丸五条下ル式町目 年寄喜兵衛→天 使突抜彦町目 年寄与兵衛殿	中大坂町内天満屋与兵衛母改め寺田屋こと二付、此 度天使突抜一町目の近江屋うめの家に借宅のため人 別送り。	切紙 1通 (1紙)	23.2* 33.2	
038	2102		弘化3年午11月 人別送り一札(天満屋与 兵衛借宅二付控)	鳥丸五条下式町目 年寄喜兵衛→油小 し中金仏町 年寄重五郎殿	天満屋与兵衛・妻・娘らが天和屋喜左衛門の家に借 宅するため、人別送りの控。	堅紙 1通 (1紙)	23.4* 33.1	
039	2143		弘化3年午11月 送り手形之事(越後屋久 兵衛・兄新助借宅二付)	鳥丸通二條殿町 年寄市兵衛(印)→鳥 丸通下大坂町 年寄喜兵衛殿	当町内の越後屋久兵衛の兄新助について、この度そ ちらの町へ別宅するので、人別を送る。	切紙 1通 (1紙)	22.7 28.5	
040	3049		弘化3年11月 人別送り一札	年寄喜兵衛 印→天使突抜彦町目 年寄 与兵衛殿	天満屋与兵衛母、改寺田屋こと、近江屋うの借屋へ 変宅につき送り一札、移転先不明の天満屋本人送り 一札もあり。	堅紙 1通 (1紙)	23.2* 33.2	
041	1027		弘化3年午1月 宗旨請状之事(松坂屋佐 兵衛借宅二付)	惣本山知恩院御門末大雲院中 是住院 (印)→年寄・町中参	鳥丸通五條下ル式町目中大坂町山田屋文三郎殿家に 借宅している松坂屋佐兵衛は代々浄土宗で当院檀那 であることを証明する。	堅紙 1通 (1紙)	28.3* 40.7	



継書	開書	校書	年月日	文書名	書出・宛名	内 容	形状	頁数	法量
042	2074		弘化4年3月	人別送り一札(因幡屋与市要宅二付控)	鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町(印)→榎木屋細小路東江入東魚屋町 年寄喜兵衛殿	大坂町西村屋栄五郎家に借宅の因幡屋与市、榎木町高嶋屋儀右衛門家に要宅につき人別送り。	堅紙1通(1紙)	25.1*34.8	
043	1078		弘化4年末8月	人別送り一札(丹波屋善兵衛実娘つね縁付二付、控)	鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町年寄喜兵衛印→下鳥羽村 庄屋系右衛門殿・御横人中	当町内丹波屋善兵衛実娘つねが勢里川町利兵衛殿方へ縁付に付、当町人別から除き、今後はそちらの人別差加えを依頼。	堅紙1通(1紙)	24.2*33.9	
044	2146		弘化4年9月	人別送り一札(中村屋兵助娘う縁付二付)	高倉通夷川下ル式町目 年寄甚助(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄喜兵衛殿	天満屋与兵衛殿の借家に住む越後屋新助殿の方へ此度中村屋兵助の娘うたが縁付することによる人別送り状。	堅紙1通(1紙)	28.0*41.3	
045	1085	53	弘化4年末11月	【引取証文断簡】	(前欠)引取人 美濃屋三右衛門(印)・家請人 竹村屋清兵衛(印)→(宛所欠)	【引取人 美濃屋三右衛門(印)】「家請人 竹村屋清兵衛(印)」とあり。「弘化四年未十一月」とあり。2枚。紙縫に用いる。	堅紙断簡(2紙)	(20.3*10.1)	
046	1085	31-1	弘化5年申正月	人別送り一札(越前屋甚四郎借宅二付控)	鳥丸五条下ル式町目中 中大坂町 年寄喜兵衛印→東洞院五条下ル式町目福嶋町 年寄重兵衛殿・御町中	当町山田屋つる所持の借家に住む越前屋甚四郎が、福嶋町の健屋万助の家に借宅に付人別送り写。【備考】1085-31-2-3巻き込み一括。	切紙1通(1紙)	24.5*16.8	
047	1085	31-3	弘化5年申2月	【丹波屋太助人別送り添書】	一仏具屋町魚之棚上ル上若宮屋町 年寄久兵衛殿	家主井筒屋六右衛門に借宅している丹波屋太助の人別送り添書。中大坂町から人別送り一札差し出したにつき。【備考】1085-31-1に巻き込み一括。	切紙1通(1紙)	16.0*11.2	
048	2139		嘉永元年申6月	宗門請状(大坂屋うた借宅二付)	惣本山知恩院御門末 京極通四条下ル大雲院塔塔頭 南昌院(印)→年寄・町中	鳥丸五条下ル式丁目天満屋伊兵衛借家の大坂屋うたとその母ふさは、代々浄土宗で当院檀那である旨の宗門請状。	堅紙1通(1紙)	27.9*40.7	
049	2120		嘉永元戊申7月	宗旨請状之事(近江屋やす借宅二付)	本願寺御門跡御末寺 六条間之町天神町 光久寺(印)→鳥丸通健屋町上ル町 年寄・町中	其町内の西村屋栄五郎借家、近江屋やすは、当寺の檀家い紛れないという旨の宗旨請状。	堅紙1通(1紙)	27.8*40.2	
050	2157		嘉永元年申7月	人別送り一札(近江屋やす借宅二付)	六條健屋町 年寄庄兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄喜兵衛殿	健屋町内近江屋らつに永々奉公した近江屋やすが、中大坂町内西村屋栄五郎家に借宅するので人別送る。	切紙1通(1紙)	25.0*24.9	
051	3062		嘉永元年8月	一札	大坂屋うた(印)→鳥丸通中大坂町年寄喜兵衛殿御町中	御町人別改め御尋ねに付、私共は元町の人別に加入のため、御町人別から除くよう願ひ。	堅紙1通(1紙)	24.0*34.5	
052	3061		嘉永元年申9月	人別送り一札(控)	鳥丸五条下ル式町目中 中大坂町年寄喜兵衛印→祇園町北町年寄治兵衛殿	中大坂町の丹波屋源七方へ祇園町の天満屋伊兵衛娘いとが養子になるため、人別送りの事。	切紙1通(1紙)	24.4*21.8	
053	1058	19	寛政元年霜月	寺請状之事(山田屋次兵衛宗旨二付)	知恩院末五条上徳寺中 徳林院(印)→年寄・町中	鳥丸通五条下ル式丁目住居の山田屋次兵衛は、浄土宗の当院の旦那に紛れない。	堅紙1通(1紙)	28.2*41.4	
054	2047	01	嘉永元年申12月	人別送り一札(舟屋伊兵衛外変宅二付、控)	鳥丸通五条下ル中大坂町 年寄喜兵衛→西堀川出水上ル町 年寄・五人組御町中	当町の舟屋伊兵衛外3人が亀甲屋七左衛門方へ引取られることになったので、今後は人別をそちらの御町に差加えて下さい。	切紙1通(1紙)	25.0*25.4	
055	1085	31-2	(嘉永元年)	【人別送り添紙】	→東洞院五条下ル式町目福嶋町 年寄重兵衛	1085-31-10の人別送り一札の添書。宛名と「家主健屋万助、其外二町中へ」とのみ。【備考】1085-31-1に巻き込み。	切紙1通(1紙)	15.4*9.0	
056	1013		嘉永2年2月	送り一札(紅粉屋善兵衛転宅二付)	間之町通松原上ル箱荷町年寄(印)→鳥丸五条下ル式町目中 中大坂町 年寄喜兵衛殿	紅粉屋善兵衛、中大坂町へ転宅二付、人別加入下さる。	堅紙1通(1紙)	24.9*33.5	
057	1041		嘉永2年3月	宗旨請状之事(益田良英宗旨二付)	本願寺御門跡御役寺 不明門通粉川町東坊(印)→年寄・町中	中大坂町町屋益田良英につき、間違ひなく東坊の檀家であることを記す。【備考】端裏「町家 益田良英」。	堅紙1通(1紙)	28.1*40.2	

整理番号	調査年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
058	2162	01	嘉永2年酉3月 送り一札之事(益田了彦宅二付)	二条川東光堂新町 年寄又兵衛(印)→鳥丸五條下ル式丁目 中大坂町 年寄喜兵衛殿	当町中持家の益田了彦が勝手二付、中大坂町に彦宅する。そのためその御町内の人別帳に加えることを依頼する。【備考】包紙「寺請状之事／他町参り候人別送り」包紙一括2162-1～10。	堅紙1通 (1紙)	25.2* 35.0	
059	2162	02	嘉永2年丙2月 送り一札之事(白須屋栄十郎娘うた借宅二付)	寺町松原下ル植松町東側 年寄平兵衛(印)→鳥丸五條下ル式丁目 中大坂町 年寄喜兵衛殿・五人組	白須屋栄十郎娘うた二付、今度中大坂町の藤屋利兵衛へ縁付のため人別送りの事。【備考】包紙一括2162-1～10。	堅紙1通 (1紙)	25.0* 34.6	
060	2047	02	嘉永2年酉4月19日 人別送り差出之事(和泉屋ふじ借宅二付書付)	一建仁寺門前山城町 年寄三郎兵衛殿 新町通五條下ル式丁目南夷町 年寄(印)→鳥丸通五條下ル式丁目 中大坂町 御年寄喜兵衛殿・御町中	大満屋与兵衛借家の和泉屋ふじ、ノ家内2人の人別を送った際の扣み。【備考】2047-11に巻込み。	切紙1通 (2紙)	16.2* 11.8	
061	2082		嘉永2年4月 送り一札之事(万屋義兵衛彦宅二付)	万屋義兵衛彦宅につき。【備考】瑞翼「萬屋義兵衛」。	切紙1通 (2紙)	紙 (2紙)	30.6* 21.5	
062	3056		嘉永2年4月 人別送り一札之事	西洞院五條下小柳町年寄利右衛門(印)→鳥丸通五條下ル中大坂町年寄喜兵衛殿・五人組町中	当町内の平野屋弥市借家の長尾屋栄吉・母うたは、この度、其御町山田屋治兵衛殿家に借宅するので、人別を送る。	堅紙1通 (1紙)	24.7* 34.6	
063	2062		嘉永2年酉閏4月 寺請一札(備前屋清助借宅二付)	惣本山知恩院御町末 寺町高辻上ル町永養寺(印)→年寄・町中 東洞院通五條下ル三丁め和泉町年寄善吉(印)→からす五條下ル二丁め中大坂町年寄喜兵衛殿・五人組町中	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町山田屋治兵衛家に借宅している播磨屋清助の宗門請状。	堅紙1通 (1紙)	27.6* 39.4	
064	3031		嘉永2年閏4月 人別送り一札之事	山城屋龜吉借家の播磨屋清助と母かのノ2人、今度山田屋次兵衛家に借宅すること二付、人別送る。	切紙1通 (1紙)	切紙 (1紙)	24.8* 34.2	
065	2162	03	嘉永2年戌5月 送り一札之事(三木屋作兵衛借宅二付)	西寺内竹屋町 年寄大兵衛(印)→鳥丸五條下ル式丁目 中大坂町 御年寄治兵衛殿 油小路通五條下ル中金佛町 年寄重五郎(印)→鳥丸五條下ル式丁目中大坂町御年寄喜兵衛殿・五人組御町中	当町の三木屋作兵衛が勝手二付、妻と仲計3人の中で大坂町の天満屋与兵衛家に借宅する。そのため人別送りの事。【備考】包紙一括2162-1～10。	堅紙1通 (1紙)	23.9* 31.8	
066	2055		嘉永2年酉9月 人別送り一札(丹波屋ちよ彦宅二付)	油小路通五條下ル中金佛町 年寄重五郎(印)→鳥丸五條下ル式丁目中大坂町御年寄喜兵衛殿・五人組御町中	丹波屋ちよ彦は、当町内柏加屋とめ殿家に借宅しているが、そちらの御町内の丁子屋長兵衛殿方へ罷越すので、今後は当町内の人別帳面から除き、そちらに差加えて下さいという旨の別一札。	切紙1通 (1紙)	24.7* 33.9	
067	3091	01	嘉永2年10月 人別送り一札(控)	鳥丸五條下ル式丁目中大坂町年寄喜兵衛一醒井五條下ル町泉水町年寄河内屋平兵衛殿	村屋佐兵衛仲高屋屋栄次郎から中大坂町から泉水町平野屋弥市方借屋へ転宅につき。全紙に墨消線一本引く。【備考】巻込一括3091-1～2。	切紙1通 (1紙)	24.0* 32.7	
068	3091	02	嘉永2年10月 人別送り二付寛書】	(欠)	3-91-2作成にかかわる年寄以下の住所・人名覚え書。【備考】巻込一括3091-1～2。	切紙1通 (1紙)	15.9* 11.6	
069	1074		嘉永2年12月 宗旨請状(坂本屋卯兵衛借宅二付)	本山知恩寺末 西寺町 西照寺(印)→年寄・町中	山田屋治兵衛借宅の坂本屋卯兵衛が代々法花宗であり当寺旦那であることを証明する寺請。丹波屋喜兵衛が代々浄土宗であり当寺旦那であることを証明する宗旨請状。	切紙1通 (1紙)	28.7* 31.7	
070	2072		嘉永2年12月 人別送一札(出雲村喜右衛門惣當七親宅二付)	丹州桑田郡出雲村 庄屋貞蔵(印)→京 鳥丸雪敷屋町下ル町 御年寄様	出雲村の喜右衛門の仲當七が京へ住宅につき人別送り状。	堅紙1通 (1紙)	27.9* 41.1	
071	2104		嘉永2年12月 借屋請状之事・引請申証文之事(丹波屋喜三郎借宅二付)	仏具屋町万寿寺上ル 請人 丹波屋基兵衛(印)・油小路(ベツ)綾小路上ル 引取人 丹波屋新六(印)・借主 丹波屋喜三郎(印)→鳥丸通五條下ル式丁目 中大坂町 年寄喜兵衛殿	中大坂町中の借屋を借宅する坂屋苗左の丹波屋喜三郎の請人として我等が立つ。御法度の切支丹や武士の浪人ではなく、代々浄土宗である。奥に同名三連署による「引請申証文之事」と綿紙で貼継ぐ。【備考】裏継印有。瑞翼「町中借屋 丹波屋喜三郎」。	堅紙1通(2 紙) 紙 (紙)	31.6* 81.6	

継承・開書校書	年月日	文書名	書出・宛名	内 容	形状	頁数	法量
072	2088	宗旨請状之事(萬屋儀兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御末派 二条河東菊本町正願寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通雪隠屋町丹波屋番兵衛借家の萬屋儀兵衛、妻たみ、娘うた3名の宗旨請状。	豎紙1通(1紙)	1通	28.0*
073	4110	彦宅差出し候人別書之控	鳥丸通中大坂町	嘉永3年5月から元治元3月年までの人別送り状の控をまとめたもの。【備考】裏表紙「年寄治兵衛屋次郎変宅につき、家族人別貼紙。」	豎紙1冊(29丁)	1冊	24.6*
074	2081	人別送り一札之事(能登屋源次郎変宅二付)	聖田御境内梅宮町 年寄仙助(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 御年寄治兵衛殿	能登屋源次郎変宅につき、家族人別貼紙。	豎紙2紙(2紙)	2紙	52.8
075	2107	寺請状之事(丹波屋喜三郎宗旨二付)	本山黒谷末 佛具屋町五条下ル 大連寺(印)→下(マ)大坂町 年寄・町中へ	丹波屋喜三郎と申す仁は、代々浄土宗で当寺旦那に間違いない旨の寺請状。	切紙1通(1紙)	1通	27.9*
076	2108	送り一札之事(丹波屋喜三郎宅替二付)	若宮通布屋町 年寄嘉兵衛(印)→中大坂町 御年寄治兵衛殿	当町内に住む丹波屋喜三郎、妻とき、娘うたが、そちらの町内に宅替するので、人別を送る。以後はそちらに差加えて下さい。これまで、公事出入、懸り合等は一切ない。	切紙1通(1紙)	1通	25.0*
077	2137	寺請状之事(金平屋与兵衛借宅二付)	惣本山知恩院末寺 三條東橋詰町 心光寺(印)→年寄・町中へ	雪駄屋町辛島車入ル町家に住む金平屋与兵衛は代々浄土宗で当寺の檀那である旨を記す寺請状。	豎紙1通(1紙)	1通	27.6*
078	2051	送り一札(美濃屋清七借宅二付)	横諏訪町 年寄(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄・御町中	横諏訪町の池田屋觀の家に借宅の美濃屋清七一家が、中大坂町へ替宅することについての送り状。	豎紙1通(1紙)	1通	40.3
079	2116	宗旨請状之事(美濃屋忠兵衛借宅二付)	本願寺御役寺 六条間之町 佛現寺(印)→年寄・町中	鳥丸通雪駄屋町下ル町山田屋治兵衛借屋の美濃屋忠兵衛、妻ゆか、仲六弥は、当寺檀家に紛れない。	切紙1通(1紙)	1通	28.0*
080	2162 06	送り一札(塩物屋お梅借宅二付)	鳥丸通五条三丁目下大坂町 年寄伊三郎(印)→鳥丸五条下ル式丁目中大坂町 御年寄治兵衛殿	下大坂町内の松屋太助借屋の塩物屋お梅と申す者が此度中大坂町内の天満屋与兵衛殿家へ借宅するため人別送り状。【備考】包紙一括2162-1～10。	切紙1通(1紙)	1通	25.3*
081	1069	宗旨請状之事(丁子屋長兵衛同居丹波屋千代二付)	本願寺御門跡御役寺 六條間之町 佛現寺(印)→年寄・町中	丁子屋長兵衛と同居の丹波屋千代は、当寺檀家である。	切紙1通(1紙)	1通	27.8*
082	2044	宗旨受状之事(越中屋直治郎二付)	本願寺御門跡御役寺 六条上手町 正因寺(印)→年寄・町中	鳥丸五条下ル式丁目、越中屋直治郎寺請につき。	豎紙1通(1紙)	1通	22.4
083	2136	人別送り一札(越中屋直治郎替宅二付)	東寺内上珠敷や町 年寄彦右衛門(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿	酢屋次次兵衛に借家している越中屋直治郎ら四人が、中大坂町へ替宅することについての人別送り状。	豎紙1通(1紙)	1通	27.7*
084	2162 09	宗旨請状之事(藤屋多兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御末流 東六條御寺内間之町天神町 即城寺(印)→年寄・町中	藤屋多兵衛、妻ちえ、仲文次良の寺請状。【備考】包紙一括2162-1～10。	豎紙1通(1紙)	1通	41.3
085	2155	宗旨請状之事(越後屋新助住宅二付)	本願寺御門跡御役寺 橋町 閑昌寺(印)→年寄・町中	鳥丸五条下ル式町目中大坂町持家の越後屋新助について、当寺檀那である旨を記す宗旨請状。	豎紙1通(1紙)	1通	29.7*
086	3051	人別送り一札	七条出屋敷木津屋町年寄定七(印)→鳥丸五条下ル式丁目中大坂町御年寄治兵衛殿	近江屋常七・妻こと・娘まき、右の者は当町内松皮屋長右衛門借屋に居住のところ、この度其御町中借屋へ変宅するので、人別を送る。	豎紙1通(1紙)	1通	27.9*
087	2124	宗門證書(近江屋常七住宅二付)	本願寺御門跡御役寺 若宮通七条上ル 崇泉寺(印)→年寄・町中	中大坂町の山田屋治兵衛殿家に住む近江屋常七の宗旨請状。	豎紙1通(1紙)	1通	27.6*
088	2133	宗旨請状之事(能登屋もと借宅二付)	寄・町中	鳥丸五条下二丁目町借家の能登屋もとと娘の二人は、代々浄土真宗である。	豎紙1通(1紙)	1通	23.0*
089	3083	人別送り事	佛具屋通五条上町布屋町年寄嘉兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛殿・五人組御町中	松葉屋伊助の娘ひさについて、この度、そちらの町内の丹波屋喜三郎方へ縁付するので、人別を送る。	切紙1通(1紙)	1通	24.1

整理番号	整理年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
090	2151	嘉永4年亥2月	宗旨等請之事(近江屋為吉借宅二付)	惣本山知恩院末 大雲院塔頭 智徳院(印)→年寄・町中	鳥丸通り五条下ル式丁目中太坂町中借家の近江屋為吉は先祖累代当山の檀那である旨の寺請状。	切紙 1通	28.1*	28.1*
091	1014	嘉永4年3月	人別送り一札(中嶋屋源兵衛替宅二付)	鳥丸通五條下ル三丁目下太坂町 年寄伊三郎(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中太坂町 御年寄治兵衛殿・御町中	当町虎屋うた家に借宅する中嶋屋源兵衛・妻の江の替宅についての人別送り状。	切紙 1通	25.7	25.7
092	3033	嘉永4年3月	人別送り一札	諏訪町五条上ル高砂町年寄佐兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式丁目中太坂町年寄次兵衛殿	高砂町の物部修造の伴、坂本屋宇兵衛について、此度山田屋次兵衛家二借宅につき、人別送る。	切紙 1通	24.3*	24.3*
093	1052	嘉永4年4月	宗門請状之事(中嶋屋源兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺御寺内 徳心寺(印)→年寄・町中	中太坂町中の家に借宅する中嶋屋源兵衛と女房の糸が当寺檀家であることを証明する請状。	切紙 1通	27.5*	27.5*
094	2046	嘉永4年亥4月	人別送り一札(丹波屋つる借宅二付)	丹州桑田郡馬路村 庄屋 権兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中太坂町 御年寄治兵衛殿	丹波屋つるは、当年29才、百姓文右衛門の娘で、その度山田屋治兵衛殿の家に借宅したいと申出があつたので、人別を送る。	切紙 1通	27.6*	27.6*
095	2149	嘉永4年4月	宗門一札事(丹波屋つる借宅二付)	本山知恩寺末 西寺町 西照寺(印)→年寄・町中	京鳥丸通屋町上ル山田屋治兵衛の家に借宅している丹波屋つるの宗門送り状。	切紙 1通	27.8*	27.8*
096	1071	嘉永4年5月	寺請一札(坂本屋卯兵衛借宅二付)	本願寺中松林院(印)→鳥丸五条下ル二町目年寄・町中	山田屋治兵衛借宅の坂本屋卯兵衛は、代々法花宗であり、当寺旦那である。	切紙 1通	24.1*	24.1*
097	2162	10	嘉永4年6月	東洞院通五条下ル三町目和泉町 年寄勘兵衛(印)→鳥丸通五條屋町上ル中太坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中	栢屋治兵衛方借屋の若松屋宗八が、其御町の西村屋榮五郎方へ宅替につき人別送り状。【備考】包紙一括2162-1〜10。	切紙 1通	24.8*	24.8*
098	3050	嘉永4年7月	送り一札	五条通橋本上之町年寄源左衛門(印)→鳥丸五条下ル二町目大坂町参	当町の万屋源左衛門借屋に居住の扇屋又兵衛は、この度其御町へ参をするので人別を送る。	切紙 1通	24.6*	24.6*
099	1085	36	嘉永4年8月	鳥丸通松原上ル町 家請人 竹村屋清兵衛(印)・鍵屋町室町東入ル町 引請人 猪飼小源大(印)・借り主 和屋善兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中太坂町 年寄治兵衛殿・町中	町中の家に借宅する呉服悉皆南売の紅屋善兵衛が、身元等も確かなので請人になるとの旨の請状。向3人による町中宛引請申請文を奥に記す。【備考】裏に「紅屋善兵衛」。	切紙 1通	31.7*	31.7*
100	2059	嘉永4年亥8月	宗旨請状之事(紅屋善兵衛借宅二付)	知恩院御門末 大雲院塔頭 南昌院(印)→年寄・町中	鳥丸通五条下ル二丁目町中抱借家の紅屋善兵衛、妻うたの仲熊太郎の寺請状。	切紙 1通	28.2*	28.2*
101	2109	嘉永4年亥8月	人別送り事(大黒屋留七借宅二付)	伏見海邊七条上ル 新六町目 年寄七兵衛(印)→鳥丸五条上ル式町目 中太坂町 年寄治兵衛殿・町中	伏見海邊七条上ル新六町目の大黒屋留七(炭物屋丸兵衛殿弟)、山田屋治兵衛家へ借宅二付、人別送り状のこと。	切紙 1通	25.1*	25.1*
102	3058	嘉永4年辛亥8月	送り手形之事	東洞院五条下ル式丁目宿嶋町年寄源助(印)→鳥丸五条下ル式丁目大坂町御年寄	河内屋忠兵衛が借家を替するので、人別をこちらから除きそちらに加えてほしい旨を記す。	切紙 1通	25.0*	25.0*
103	1068	嘉永3年9月	宗旨請之事(近江屋為八借宅二付)	惣本山知恩院末 大雲院塔頭 智徳院(印)→年寄・町中	鳥丸通り五条下ル二丁目、中太坂町々中之借屋に借居る近江屋為八は、浄土宗で当山檀那に紛れない。	切紙 1通	27.9*	27.9*
104	2105	嘉永4年9月	寺請一札(扇屋又兵衛借宅二付)	本願寺中 松林院(印)→鳥丸雪駄や町下ル 年寄・町中	其町の西村屋榮三郎借宅の扇屋又兵衛は、代々法花宗の拙院旦那に紛れない。	切紙 1通	28.6*	28.6*
105	2129	嘉永4年亥9月	宗旨請状之事(河内屋忠兵衛請宅二付)	本願寺御門跡御役寺 御寺内南沢殿馬場玉水町 妙譽寺(印)→年寄・町中	中太坂町町内借家、河内屋忠兵衛と母ら四人の宗旨請状。	切紙 1通	28.0*	28.0*
106	2138	嘉永4年亥9月	宗門請状(大黒屋安次郎借宅二付)	本願寺御門跡御末派 東中筋花屋町上ル 蓮光寺(印)→年寄・町中	鳥丸雪駄屋町下ル山田屋次兵衛家の大黒屋安次郎について、当寺門徒である旨の宗門請状。	切紙 1通	27.7*	27.7*
107	3052	嘉永4年9月	送り手形之事	東洞院通三文字町年寄宗四郎(印)→鳥丸通中太坂町御年寄治兵衛殿	本願寺門徒の大黒屋安次郎・祖母ちかひは、この度其御町内へ引越するので、人別を送る。	切紙 1通	24.5*	24.5*

継承・開書・校書	年月日	文書名	書出・宛名	内容	形状	頁数	法量
108	2148	嘉永4年亥10月15日 人別送り一札之事(河内屋喜助借宅二付)	室町通五条下ル大黒町 年寄徳兵衛(印)→鳥丸通雪路屋町下ル 御年寄治兵衛殿	河内屋喜助とその妻ふじについて、治兵衛家へ借宅することになったので、人別送り状。	豎紙 1通 (1紙)	25.0*	34.4
109	1085 06	嘉永4年亥10月 借屋請状之事(近江屋為吉借宅二付)	鳥丸通松原上ル町 家請人竹村屋清兵衛(印) 東寺内橋詰町 引請人近江屋次郎兵衛(印) 借り主近江屋為吉(印)→鳥丸通五条下式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	鳥丸通松原上ル町の龍屋平兵衛家に借宅している近江屋為吉の借屋請状。為吉の渡世は荒物商賈。同差出人より三ヶ条引請証文有り。【備考】裏継印有。端裏「龍屋借家 近江屋為吉」	豎紙 1通 (2紙)	31.7*	89.0
110	2162 08	嘉永4年亥10月 借屋請状之事(藤屋太兵衛借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・東寺内天神町 引請人北村屋庄兵衛(印)・借り主藤屋藤(大次郎)兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	中大坂町龍屋平兵衛家に借宅している藤屋太兵衛(働き渡世、越中国薩波郡西明村百姓五十郎仲)に於いての家請人・引請人・借り主による借家請状。奥に同三人を差出とする三ヶ条の「引請申証文之事」あり。【備考】裏継印有。端裏「龍平借家 藤屋多兵衛」。包紙一括2162-1～10。	豎紙 1通 (2紙)	31.8*	90.1
111	3048	嘉永4年10月 宗旨請状之事	本願寺御門跡御役寺専福寺(印)→年寄町中	鳥丸健屋町上ル山田屋治兵衛借家河内屋喜助宗旨につき。	豎紙 1通 (1紙)	24.7*	30.3
112	2127	嘉永5年子2月 人別送之事(丹波屋新兵衛娘すえ年季奉公二付控)	鳥丸通五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛(印)→二条川東杉本町 年寄新兵衛殿・町中	中大坂町の丹波屋新兵衛娘すえの事、今度杉本町内千歳屋栄藏方へ年季奉公のため、人別送り二付。【備考】印付であるが、人別送り控と考えられる。	豎紙 1通 (1紙)	24.1*	33.7
113	2023	嘉永5年子3月 送り手形之事(中村屋やす借宅二付)	高倉通二条上ル天守町 年寄利助(印)→鳥丸通五条下ル式丁目中大坂町 御年寄治兵衛殿・御町中	中村屋やすが山田屋治兵衛の借家に入ることについて、当時の人別を送り一札。	豎紙 1通 (1紙)	23.6*	33.4
114	1037	嘉永5年5月 人別送り一札之事(美濃屋治郎兵衛借宅二付)	大仏正面町 年寄権兵衛(印)→鳥丸五条下ル町 御年寄治兵衛殿	美濃屋いり借家の美濃屋治郎兵衛と申す人の転宅についての人別送り一札。	豎紙 1通 (1紙)	25.3*	33.8
115	2121	嘉永5年子5月 屋治郎兵衛(美濃屋作兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 若宮町 唯念寺(印)→年寄・町中江参ル	鳥丸五条下ル二町目山田屋作兵衛殿借家に居る、美濃屋作兵衛は、代々浄土真宗当寺の門徒に紛れな	豎紙 1通 (1紙)	25.1*	34.4
116	1047	嘉永5年6月 宗門寺請状之事(中村屋やす宗旨二付)	永平寺派寺町頭天寧寺末 室町頭柳原町 無学寺(印)→年寄・町中江	鳥丸通り中大坂町中村屋やすにつき代々禪宗当寺且	豎紙 1通 (1紙)	27.8*	40.8
117	2111	嘉永5年子8月 寺請状(水口屋勘助借宅二付)	万壽寺西洞院東へ入 大泉寺(印)→年寄・町中	那のこと。	豎紙 1通 (1紙)	40.8	27.6*
118	2079	嘉永5年子9月 人別送り一札之事(折屋亦治郎借宅二付)	丸太町高倉西入 関東屋町 年寄勘助兵衛(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 御年寄治兵衛殿・御町中	鳥丸通り中大坂町へ変宅致すことについての人別送り状。	豎紙 1通 (1紙)	24.0*	34.0
119	1085 28	嘉永5年子10月 借屋請状之事(中路正五郎借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・楊梅通室町西へ入ル町 引請人 紀屋機兵衛(印)・借り主 中路正五郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	中路正五郎と申す医師、町中持借宅請状のこと、主たる引請証文を奥に記す、差出宛名同じ。【備考】裏継印有。端裏「町中借家 医師 中路正五郎」。	豎紙 1通 (2紙)	30.8*	91.4
120	2073	嘉永5年子10月 送り之事(中路正五郎借宅二付)	五条筋通 西筋屋町(印)・年寄吉兵衛(印)→中大坂町 御年寄・御町中へ	紀屋透善家に借宅の中路正五郎、町内へ引移るので、宗門人別送り状。	切離紙 1通 (2紙)	25.3*	33.3



整理番号	調査年度	年月日	文書名	差出元宛名	内容	形状	頁数	法量	
121	1080	嘉永5年12月	人別送り謄文之事(紅粉屋善助伴熊太郎養子縁組二付)	丹波 天田郡福知山下御町 年行事平兵衛(印)・信助(印)→京都烏丸五條下ル式丁目 御年寄治兵衛殿	紅粉屋善助伴熊太郎が京都の紅粉屋善兵衛の養子になるの、その町の人別差加えを依頼。	豎紙 1通	28.8*	(1紙)	38.9
122	2067 01	嘉永6年2月	送り一札之事(山形屋作蔵変宅二付)	二条川東駒引町 年寄清兵衛(印)→烏丸通五条下ル式丁目 中大坂町 年寄次兵衛殿	山形屋作蔵変宅につき人別送り。【備考】2067-2折込一括。	豎紙 1通	25.2*	(1紙)	33.7
123	2131	嘉永6年2月	寺請状之事(山形屋作蔵借宅二付)	誓願寺末流 寺町六角下ル 西光寺(印)→年寄・町中		豎紙 1通	27.3*	(1紙)	34.5
124	2110	嘉永6年丑4月	人別送り一札(山形屋弥七借宅二付)	五条東橋詰町 年寄勘助(印)→烏丸五條下ル式丁目 御年寄治兵衛殿・御町中	烏丸五条下ル式丁目中大坂町の西村屋染五郎家に借宅している、山形屋作蔵は代々浄土宗で当寺檀那に間違いない旨を記す宗門請状。	切紙 1通	24.8*	(1紙)	33.9
125	3092	嘉永6年癸丑4月	送り一札	下大坂町年寄伊三郎(印)→烏丸通五条下ル二丁目中大坂町御年寄・御町中	下大坂町内の松屋みつ家に借宅していた水口屋甚兵衛が中大坂町へ替宅することについての人別送り状。	豎紙 1通	24.1*	(1紙)	33.8
126	2071	嘉永6年5月	宗旨請状之事(香華屋与兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 間之町上珠敷屋町 佛現寺(印)→年寄・町中	香華屋与兵衛と家族計3名寺請につき。	豎紙 1通	27.7*	(1紙)	40.7
127	2128	嘉永6年丑5月	宗旨請状之事(山形屋弥七借宅二付)	養運寺(印)→烏丸通五條下ル式丁目 年寄・町中	其町内(中大坂町)丹波屋善兵衛借屋の山形屋弥七の事、宗旨請状。	豎紙 1通	28.0*	(1紙)	41.5
128	2050	嘉永6年丑10月16日	人別送り一札之事(尾張屋喜助変宅二付)	御寺内丹升町 年寄源兵衛 代五人組兵右衛門(印)→烏丸五下ル3丁目中大坂町 山田屋次兵衛殿	北国屋やえ借家の尾張屋喜助が、南売勝手に付変宅する。金銀掛りは一切ない。私の町内人別から除き、これ以後はそちらの御町内へ加えて下さい。	豎紙 1通	25.1*	(1紙)	34.5
129	1072	嘉永6年丑10月	寺請状之事(栗澤信借宅二付)	東本願寺御總所 山中因超寺(印)→烏丸五條下ル式丁目 年寄・町中	栗澤信と申す者は、浄土真宗で当寺檀家に間違いない。	豎紙 1通	27.4*	(1紙)	38.3
130	1085 23	嘉永6年丑10月	借屋請状之事(尾張屋喜助借宅二付)	烏丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・魚柳室町東入町 引請人 近江屋佐兵衛(印)・借り主 尾張屋喜助(印)→烏丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組・町中	山田屋治兵衛に借宅する有屋渡世の尾張屋喜助、借家請状のこと、同通に引請申謄文之事を列記する、差出3名に同じ、宛名家主山田屋治兵衛。【備考】裏継印有。端裏「山次借屋 尾張屋喜助」。	豎紙 1通	28.1*	(2紙)	81.8
131	1085 25	嘉永6年11月	借家請状之事(栗沢信借宅二付)	烏丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・健屋町諏訪之町角 引請人 河内屋半兵衛(印)・借主 栗沢信(印)→烏丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄次兵衛殿・町中参ル	中大坂町町中持家に借宅の栗沢信、合葉渡世にて身元確かにつき請状。同差出人より町中宛引請証文と連紙。【備考】裏継印有。端裏「栗原(マッパ)信」。	豎紙 1通	28.1*	(3紙)	92.7
132	2076	嘉永6丑11月	人別送り手形(医師栗沢主税立堀二付)	河内若江郡友井村 村役人(印)→烏丸通健屋町上ル丁 御役人中	当村医師、栗沢主税が京都へ立ち帰りにつき人別送り。	豎紙 1通	28.4*	(1紙)	39.8
133	1028	嘉永6癸丑12月	宗旨請状之事(丹波屋茂助借宅二付)	本願寺御門跡御末派 東御川通雷田町 澄江寺(印)→年寄・町中	烏丸通五条下ル二丁目中大坂町山田屋治兵衛(借)家の丹波屋茂助は、当寺檀家であることに間違いない。	豎紙 1通	27.9*	(1紙)	39.3
134	3065	嘉永6丑年12月	送り一札之事	七条出屋敷御方紺屋町年寄太兵衛(印)→中大坂町御年寄次兵衛殿・御町中 参る	当町内河内屋仁兵衛借屋の綿屋安次郎、其御町内へ借替につき、人別送り一札。	豎紙 1通	23.1*	(1紙)	31.0
135	2067 02	(嘉永6年)	[作蔵家族書上]		作蔵28才・まち24才・うた2才。【備考】2067-1折込一括。	切紙 1通	15.5*	(1紙)	13.9

継承・開書校書	年月日	文書名	幕出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
136 3066	嘉永7年寅正月	送り一札之事	下之森東町年寄入兵衛(印)→鳥丸せつたや町下ル大坂町御年寄町中江	当町内みのでや寄借屋に居る丹波屋茂助は、其御町へ借宅するので人別を送る。	堅紙 1通 (1紙)	23.7*	31.5
137 2090	嘉永7年2月	差入申一札之事(金平屋興兵衛心願四国巡拝二付、妻子引取)	越ヶ井五條上ル町 引取人 松屋喜兵衛(印)・借主 金平屋興兵衛(印)・請人 竹村屋清兵衛(印)→鳥丸五條下ル式町目 中大坂町 御年寄治兵衛殿・五人組	金平屋興兵衛、眼病につき心願の四国巡拝に出発につき送り状のこと。その入用、留守中家人入用など引請一札。	堅紙 1通 (1紙)	31.7*	44.6
138 2150	嘉永7年寅2月	宗旨請状之事(借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 大谷御坊内 関信坊(印)→年寄・町中	中大坂町の山田屋治兵衛に借家する尾張屋喜助が代々檀家であることについての宗旨請状。	切紙 1通 (1紙)	27.8*	23.0
139 1085	嘉永7年寅王7月	借屋請状之事(美濃屋喜十郎借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・間之町上珠数屋町下ル町 引請人 美濃屋松五郎(印)・借り主 美濃屋喜十郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目中 中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中	龍屋平兵衛の借家入美濃屋喜十郎(手伝藤渡世)に対する家請人・引請人、借り主による借屋請状。奥に、同人らによる家主宛の三ヶ条引請証文あり。 【備考】裏継印有。	堅紙 1通 (2紙)	27.8*	81.1
140 1023	嘉永7年寅閏7月	寺請一札之事(近江屋新兵衛借宅二付)	智恩院御山内 良正院(印)→鳥丸五条下中大坂町 年寄・町中	近江屋新兵衛が先祖代々当院檀中であることを証明する。	堅紙 1通 (1紙)	27.6*	40.4
141 1025	嘉永7年寅閏7月	宗旨請状之事(鶴賀屋秀次郎借宅二付)	本願寺御門跡御末寺六条間之町天神町 光久寺(印)→鳥丸鍵屋町上ル町 年寄・町中	西村屋栄五郎借家の鶴賀屋秀次郎と母満左の二人が当寺檀家であることを証明する。	切紙 1通 (2紙)	27.4*	34.2
142 1085	嘉永7年閏7月	借屋請状之事(松屋直七借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・堺町姉小路上ル町 引請人 松屋善四郎(印)・借り主 松屋直七(印)→鳥丸通五条下ル式町目中 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	西村屋栄五郎方に借家の松屋直七、糸渡世にて身元離れにつき請状。【備考】裏継印有。1085-37帯封「西村屋栄五郎殿借家松屋直七 人別送り并寺請嘉永七寅年閏七月」。	堅紙 1通 (2紙)	27.7*	47.1
143 1085	嘉永7年閏7月	引請申証文之事(松屋直七借宅二付)	堺町姉小路上ル町 引請人 松屋善四郎(印)・家請人 竹村屋清兵衛(印)・借り主 松屋直七(印)→鳥丸通五条下ル式町目中 中大坂町 家主 西村屋栄五郎殿	西村屋栄五郎方に借家の松屋直七につき三ヶ条引請証文。【備考】裏継印有。1085-31-1をうけての内容。	堅紙 1通 (2紙)	27.8*	41.5
144 1085	嘉永7年寅閏7月	借屋請状之事(中嶋屋源兵衛借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・下珠数屋町東洞院東入ル町 引請人 松屋武右衛門(印)・借り主 中嶋屋源兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中 中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組・町中	中大坂町の御町中家に借宅する南亮古手物渡世、中嶋屋源兵衛と申すに二付、借屋請状之事、別紙寺請状を差し出すこと。【備考】裏継印有。帯紙「町中借家中嶋屋源兵衛送り并寺請嘉永七寅年閏七月」	堅紙 1通 (2紙)	27.8*	47.2
145 1085	嘉永7年寅閏7月	引請申証文之事(中嶋屋源兵衛借宅二付)	引請人 松屋武右衛門(印)・家請人 竹村屋清兵衛(印)・借り主 中嶋屋源兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中 中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組・町中	1085-45-11に関連する引請証文。中大坂町町中之家に中嶋屋源兵衛借宅二付。【備考】裏継印有。	堅紙 1通 (2紙)	27.4*	41.0
146 2066	嘉永7年寅閏7月	送り一札事(松屋恵七宅替二付)	弘光寺室町西入糸屋町 年寄 忠兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目 年寄治兵衛殿	当町内二文字屋和三郎借屋松屋恵七が西村屋栄五郎借家へ宅替のための人別送り状。	堅紙 1通 (1紙)	25.0*	35.0
147 2087	嘉永7年閏7月	宗旨請状之事(松屋直七借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 慈屋町姉小路上ル町 泉徳寺(印)→年寄・町中	中大坂町の西村屋栄五郎家に借家の松屋直七、宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	28.2*	39.9

登録	調査	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
148	2145	嘉永7年寅閏7月	送り手形之事(美濃屋喜十郎借宅二付)	梅梅通室町東江入親御助町 年寄小兵衛(印)→鳥丸五条下ル二丁目中大坂町年寄治兵衛殿	梅梅通親御助町袋屋宗助の借家に住む美濃屋喜十郎とその妻さぬについて、そちらの町内の龍屋平兵衛家に借宅するので人別を送る。	堅紙 1通 (1紙)	24.3*	34.3
149	2147	嘉永7年寅閏7月	送り手形之事(近江屋新兵衛転宅二付)	鳥丸高辻上 大政所町 年寄伴蔵(印)→鳥丸五条下ル中大坂町 年寄治兵衛殿	当町内の趙屋人郎兵衛家にいる近江屋新兵衛について、この度そちらの町の山田屋次兵衛の借屋へ転宅につき人別送り。	切紙 1通 (1紙)	25.0*	25.0*
150	2099	嘉永7年寅8月	宗旨請状之事(能登屋わき借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 御寺内筒金町 教國坊(印)→年寄・町中	鳥丸通銭屋町上ル山田屋治兵衛借屋の能登屋わき、娘まきの寺請状。	堅紙 1通 (1紙)	27.7*	27.7*
151	3085	嘉永甲寅(7)年8月	宗旨請状之事	本願寺御門跡御役寺六條不明通高機町 國重寺(印)→年寄町中	龍屋平兵衛の借家に住む美濃屋喜十郎は、当寺檀家であるとの宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	23.6*	23.6*
152	2097	嘉永7年寅11月	送り手形之事(升屋次助転宅二付)	鳥丸通高辻上ル町 大政所町 年寄伴蔵(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿	大政所町の吉田屋幸助の升屋次助が丹波屋善兵衛宅へ転宅することに付、人別帳に差し加える事。	切紙 1通 (1紙)	25.6*	25.6*
153	2103	嘉永7年11月	送り一札之事(堺屋貞音替宅二付)	御寺内袋御屋町 年寄清次郎(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿	堺屋貞音(吉)に借家する高木屋弥助が、龍屋平兵衛の借屋に替宅することについての人別送り状。	堅紙 1通 (1紙)	24.3*	24.3*
154	1034	嘉永7年甲寅12月	寺請状之事(柳屋作助宗昌二付)	本願寺御門跡役寺 唯念寺(印)→年寄・町中江参ル	柳屋作助、宗旨につき寺請状。	切紙 1通 (1紙)	25.2*	25.2*
155	2095	安政2年辰2月	宗旨請状之事(山本屋嘉七借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 鳥丸七條上ル町 即現寺(印)→年寄・町中	鳥丸通五條下ル中大坂町の山田屋治兵衛借家の山本屋嘉七・妻・仲の3人が当寺檀家である。	堅紙 1通 (1紙)	27.8*	27.8*
156	3080	安政卯年2月	送り一札之事	綾小路室町東入町年寄彦兵衛(印)→鳥丸五條下ル二丁目年寄山田屋治兵衛殿	龍屋彦兵衛の家に借宅している桔梗屋春が、山田屋治兵衛の家に借宅する際の人別送り。	堅紙 1通 (1紙)	24.1*	24.1*
157	1085 19	安政2年3月	借屋請状之事(但馬屋源太借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・東洞院通五条下ル式丁目 引請人 藤屋万助(印)・借り主 但馬屋源太(印)→鳥丸通五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	町中持借宅に借宅する但馬屋源太(縫職渡世)について家請人・引請人・借り主の運署による借家請状。奥に、同三人による三ヶ条の引請証文、【備考】裏に印有。端裏「町中かしや 但馬屋源太」。	堅紙 1通 (2紙)	27.7*	27.7*
158	2115	安政2年3月	宗旨請状之事(高木屋弥助借宅三付)	本願寺御門跡御役寺 六条高機町 國重寺(印)→年寄・町中	鳥丸健屋町龍屋平兵衛借屋の高木屋弥助は、当寺檀家に紛れない。	堅紙 1通 (1紙)	27.7*	27.7*
159	2152	安政2年卯3月	送り一札(但馬屋源助借宅二付)	佛島屋町魚店下ル 年寄清兵衛(印)→鳥丸通五條下ル 御年寄・御町中参ル	当町内の但馬屋源助、この度そちらの町中持家に借宅することになったので人別を送る。	切紙 1通 (1紙)	25.0*	25.0*
160	1085 34	安政2年4月	人別送り一札之事(藤助人別送二付)	七条通東洞院西入 東御境内真寺屋町 年寄治右衛門(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 御当役治兵衛殿	真寺屋町内伊勢屋太兵衛家住みの藤助について、此度中大坂町内へ借宅二付、人別送りの事。	堅紙 1通 (2紙)	25.6*	25.6*
161	1085 51	安政2年4月	借屋請状之事(大坂屋篠助借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・七条通東洞院西へ入町 引請人 伊勢屋太兵衛(印)・借り主 大坂屋篠助(印)→鳥丸五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	町中持借屋に居住の大坂屋篠助、悉皆(皆)渡世にて身元確かな旨請状。同差出人より中大坂町年寄治兵衛宛引請証文、通紙にて一通。【備考】裏に印有。紙縫一括1085-1~52。	堅紙 1通 (2紙)	27.8*	27.8*
162	1085 42	安政2年卯5月	借屋請状之事(坂本屋つね借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・新町五条下ル南真町 引請人 坂本太兵衛(印)・借り主 坂本屋常(印)→鳥丸通五条下ル二丁目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	山田屋治兵衛殿家に借宅している坂本屋つね(南真縫職渡世)に対する家請人・引請人・借り主による借屋請状。奥に同差出人による三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏に印有。端裏「山次かしや 坂本屋つね」。	堅紙 1通 (3紙)	27.6*	27.6*

整理番号	開書校番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量	
163	2016	安政2年5月	送り一札之事	新町 五条下ル南渡町 年寄(印)→鳥丸通健屋町上ル 御年寄・御町中	当町坂本屋大兵衛母つね、山田屋治兵衛借家に变更后につき人別送り状。	豎紙 1通	23.9*		
164	2142	安政2年卯6月	宗旨請状之事(大坂屋篠助借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 不明門通粉川町東坊(印)→年寄・町中	鳥丸五条下ル二丁目町家の大坂屋篠助について、当寺檀那である旨の宗旨請状。	豎紙 1通	37.8*		
165	1032	安政2年卯7月	宗旨送り一札(結梗屋はる借宅二付)	本願寺末派城州伏見深草 小御堂西岸寺(印)→鳥丸五條下ル町 年寄治兵衛殿	結梗(梗)屋はる、大坂町町内へ借宅に付、寺請一札。	豎紙 1通	27.8*		
166	1085	27	安政2年8月	借屋請状之事(水口屋徳兵衛借宅二付)	魚之店諏訪町西へ入町 家請人 鳥羽屋直吉(印)・不明門通万寿寺上ル町 引請人 鳥羽屋定吉(印)・借り主 水口屋徳兵衛(印)→鳥丸五条下ル式丁目中大坂町 年寄次兵衛殿	丹波屋善兵衛方に借宅の水口屋徳兵衛、古手苗亮にて身元確かにつき請状。同差出人より家主宛の三条の引請証文あり。【備考】裏継印有。	豎紙 1通 横紙 3紙	27.4* 96.5	
167	1085	50	安政2年卯8月	借屋請状之事(近江屋藤兵衛借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・室町通三条上ル町 引取人 近江屋久兵衛(印)・借り主 近江屋藤兵衛(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄次兵衛殿	西村屋栄五郎殿家に借宅している近江屋藤兵衛(呉服染物悉皆を商売渡世)に対する家請人・引取人・借り主による借屋請状。【備考】裏継印有。端裏「西栄かしや 近藤」。紙縫一括。1085-1～52。	豎紙 1通 横紙 2紙	27.5* 56.0	
168	2064	安政2年8月	宗旨請状之事(近江屋藤兵衛借宅二付)	本願寺御門跡御役寺 諏訪町五条下ル専福寺(印)→年寄・町中	鳥丸通健屋町上ル西村屋栄五郎借家近江屋藤兵衛寺請につき。	豎紙 1通	25.0*		
169	2140	安政2年卯8月	宗旨等請状之事(但馬屋源助借宅二付)	本山豊願寺末 三条大橋東 超勝寺(印)→右町在寄・町中江	鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町に借宅している但馬屋源助は、浄土宗門の拙寺旦那である。	豎紙 1通	23.0 28.0*		
170	1076	安政2年卯9月	送り一札事(近江屋藤兵衛借宅二付)	江州栗田郡田上中野村庄屋 治郎兵衛(印)→鳥丸五條下ル二丁目中大坂町 年寄治兵衛殿	西村屋栄五郎借宅の近江屋藤兵衛を中大坂町の人別に加えるための送り状。	豎紙 1通	25.5* 35.1		
171	1084	02	安政2年卯12月	借屋請状之事(萬屋卯之助借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・不明門通五條下ル式丁目 引請人 上戸屋徳兵衛(印)・借り主 萬屋卯之助(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄次兵衛殿・町中参ル	山田屋治兵衛家に借宅の萬屋卯之助と申す者、塗師渡世の身元確かな者である。連紙で山田屋次兵衛に宛てた「引請申證文之事」【備考】裏継印有。端裏「山次 かいや万卯」。	豎紙 1通 横紙 4紙	27.5* 97.1	
172	3082	安政2年卯12月	送り一札之事	健屋町年寄半兵衛(印)→中大坂町御年寄・御町中へ	萬屋卯之介と妻はなについて、この度、山田屋治兵衛の借屋へ借宅をする際の人別送り。	切紙 1通	24.7* 28.5		
173	1048	安政3年1月	寺請状之事(水口屋勘介宗旨二付)	惣本山知恩院末寺 万寿寺通西洞院 大泉寺(印)→鳥丸通りまとは下ル丁年寄・町中江参ル	其町内山田屋治兵衛家に居ル水口屋勘介は、代々浄土宗であり、当寺檀那に紛れない。	豎紙 1通	27.4* 39.4		
174	2045	安政3年辰2月	送り状(世屋清兵衛変宅二付)	御寺内夷之町年寄(印)・右世屋清兵衛四拾五才・仲清七 廿一才→鳥丸通中大坂町 御年寄江	世屋清兵衛が中大坂町の西村屋栄五郎家へ入ることにつ、町内の人別に加入すべきこと。	豎紙 1通	24.2* 34.4		
175	2122	安政3年辰3月	人別送り之事(医者岸田順承借宅二付)	宛州伊都郡 丁之町村 庄屋善右衛門(印)・年寄弥三郎(印)→京都鳥丸通五条下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中	医者岸田順承は、当村居住の医者岸田嘉茂の仲に違いない。この度勝手につき其御町に借宅するので人別を送る。	豎紙 1通	27.8* 39.9		
176	2123	安政3年辰3月	宗旨請状之事(岸田順承借宅二付)	南都西大寺末 五条下寺町太子堂 白毫寺(印)→中大坂町 年寄・町中参る	鳥丸通五条下二丁目山田屋治兵衛殿家に借宅する岸田順承は、代々真言律宗の当寺檀那に紛れない。	豎紙 1通	27.9* 40.2		
177	2141	安政3年3月	寺請状之事(世屋清兵衛借宅二付)	五條下寺町 浄土宗西山末寺 延寿寺(印)→鳥丸健屋町上ル町 年寄中	西村屋栄五郎の借家に居住している世屋清兵衛が代々浄土宗であることの寺請状。	豎紙 1通 横紙 1紙	32.6* 46.3		

番	冊	調査	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
178	1085	44	安政3庚午5月	借屋請状之事(近江屋伊助借宅二付)	鳥丸通因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・四條通西洞院東へ入町 引請人 道具屋太兵衛(印)・借り主 近江屋伊助(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル御寺内提請町 年寄市兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄治兵衛殿・御町中へ	中大坂町の町中提借家に借宅する簡売古手物渡世をする近江屋伊助、借屋請状のこと、同通に引請申証文之事を列記、差出3名同じ、宛名「中大坂町御年寄 御町中江参ル」【備考】裏継印有。端裏「町中かしや 近江屋伊助」。	縦紙 1通 (3紙)	27.8* 98.4	
179	1016		安政3年8月	送り一札之事(美濃屋弥兵衛妹こう縁付二付)	御寺内提請町 年寄市兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄治兵衛殿・御町中へ	美濃屋弥兵衛の妹こう(22才)の湊屋清助との縁附につき、人別送り一札。	縦紙 1通 (1紙)	25.3 * 35.3	
180	1033		安政3年12月	寺請状之事(徳田家新助借宅二付)	知恩寺末 五条下る町 極楽寺(印)→年寄・町中へ	雪駄屋町山田屋治兵衛借家の徳田家新助の宗旨につき寺請状。	縦紙 1通 (1紙)	30.5* 46.3	
181	2101		安政3年12月	人別送り之事(徳田屋新助借宅二付)	高倉通松原上ル町 葛籠屋町 年寄徳兵衛(印)→鳥丸通五條下ル式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿	葛籠屋町塩屋染次郎借屋に借宅する徳田屋新助が、山田屋治兵衛宅へ婆宅につき家族7人送り状。	縦紙 1通 (1紙)	24.4* 34.1	
182	3054		安政4年正月	人別送り之事	御馬場四条下ル相之町年寄重助(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛殿	当町内勝岡屋松之助借屋の伊勢屋栄助娘こま(32才)は、此度其御町松坂屋佐兵衛殿方へ縁付けいたので、人別を送る。	縦紙 1通 (1紙)	24.2* 34.4	
183	1020		安政4年巳2月	人別送り之事(近江屋ゆ里と母ゆか宅替二付)	御幸町通高辻上ル橋町 年寄清兵衛(印)→鳥丸五條下ル式丁目中大坂町年寄治兵衛殿	近江屋ゆ里と母ゆかが御町中借家へ宅替するにあたり、人別送り願が出たので、当町内人別帳面から除く。	縦紙 1通 (1紙)	25.0* 34.3	
184	1029		安政4年丁巳2月	宗旨請状事(唐石屋春借宅二付)	臺願寺末 四條大宮西入 法雲寺(印)→年寄・町中江	鳥丸雪駄屋町下ル山田屋治兵衛借宅の唐石屋春の宗旨は、先祖より浄土宗当寺檀家であることに間違いない。	切紙 1通 (1紙)	28.4* 30.5	
185	1035		安政4年巳2月	宗旨請状之事(大文字屋幸助借宅二付)	惣本山知恩院御門末 大雲院塔頭 南昌院(印)→年寄・町中	山田屋治兵衛借家の大文字屋幸助の宗旨につき。	縦紙 1通 (1紙)	28.1* 41.1	
186	1050		安政4年2月	宗旨請状之事(藤屋定七宗旨二付)	本山黒谷金戒光明寺末 城州葛野郡西院村 高山寺(華印)→御年寄中	鳥丸通五條下ル二丁目藤屋定七は、先祖より浄土宗で、我等檀那に紛れない。	縦紙 1通 (1紙)	25.1* 34.8	
187	1085	48	安政4年2月	借屋請状之事(能登屋つる借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・西寺内御前通西洞院東へ入町 引請人 越中屋常吉(印)・借り主 能登屋つる(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	龍屋平兵衛借屋居住の能登屋つる、綿帽子職渡世に身元確かな旨請状・同差出人より家主宛引請証文・連紙にて一通。【備考】裏継印有。端裏「龍平かしや のとやつる」。	縦紙 1通 (3紙)	27.7* 97.5	
188	2063		安政4年巳2月	宗門請状之事(近江屋ゆり借宅二付)	仏光寺六坊之中 大善院殿役者(印)→年寄・町中衆江	鳥丸通五條下ル二丁目町中借家の近江屋ゆり宗門請状。	縦紙 1通 (1紙)	27.7* 39.3	
189	2132		安政4年巳2月	人別送り之事(能登屋清兵衛借宅二付)	龍屋通五條下式丁目 中大坂町 年寄→鳥丸通五條下式丁目 中大坂町 年寄治兵衛殿	能登屋清兵衛とその母妙仙について、そちらの町の龍屋平兵衛家借屋に宅替するので、人別を送る。	縦紙 1通 (1紙)	25.1* 34.2	
190	2158		安政4年巳2月	人別送り之事(唐石屋はる借宅二付)	油小路五条上ル町 年寄新兵衛(印)→鳥丸五条下御町目 中大坂町 年寄治兵衛殿	菱屋宇右衛門借屋唐石屋はるが勝手二付、中大坂町山田屋治兵衛借家へ移るので、人別を送る。	縦紙 1通 (1紙)	24.7* 34.9	
191	3078		安政4年巳2月	人別送り一札	鳥丸通上大坂町年寄庄兵衛(印)→鳥丸通中大坂町年寄次兵衛殿	当町内借宅の大文字屋幸祐と父定七、妻たけ、娘ちう・きくが其御町山田屋治兵衛殿家に借宅する際の人別送り。	縦紙 1通 (1紙)	25.6* 34.4	
192	2130		安政4年巳3月	宗門請状(能登屋つる住宅二付)	本願寺御門跡御末派 龍井通魚店下ル照善寺(印)→年寄・御町中参	中大坂町龍屋平兵衛の家に居る能登屋つる・母2人の宗旨請状。	縦紙 1通 (1紙)	27.8* 38.9	



継書   隠書   校書	年月日	文書名	輩出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
193 1049	安政4年4月	送り一札之事(近江屋伊介宅二付)	東中筋七条上ル文電町 年寄庄八(印)→鳥丸通五条下ル式丁目中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組御町中参	西寺内文電町有馬栄女借家の近江屋伊介、其御町内借家へ宅替につき人別送状。	切紙 1通 (1紙)	24.6*	27.5
194 1085 35	安政4年巳4月	借屋請状之事(松屋寛次郎借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・東洞院五条下ル式丁目植嶋町 引請人 松屋竹次郎(印)・借り主 松屋寛次郎(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中参ル	龍屋平兵衛家二渡世うどん玉売の松屋寛次郎が借宅二付、借家請状のこと。奥に差し出しは同じ、宛名家主龍屋平兵衛殿引請申証文之事を列記する。【備考】裏継印有。	堅紙 1通 (3紙)	27.6*	86.5
195 2144	安政4年巳4月	人別送り状之事(松屋角次郎借宅二付)	不明町通下原野町 年寄小兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿	当町に借宅している松屋平助改め角次郎について、この度そちらの町内へ宅替するので人別を送る。	堅紙 1通 (1紙)	24.7*	34.6
196 2056	安政4年丁巳5月	宗旨請状事(松屋寛二郎借宅二付)	警願寺末流 四條大宮西 法雲寺(印)→年寄・町中江	龍屋町鳥丸東入龍屋平兵衛家に借宅している松屋寛二郎、妻子共に浄土宗で当寺檀那である。	堅紙 1通 (1紙)	27.5*	37.5
197 2083	安政4年巳閏5月	人別送り一札(象牙屋武兵衛宅二付)	鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組御町中	町内に借宅している象牙屋武兵衛について、この度、そちらの御町内に宅替するので、以後は、そちらの御町内に人別を加えて下さい。	堅紙 1通 (1紙)	24.6*	33.5
198 1043	安政4年6月	人別送り一札(近江屋嘉四郎借宅二付)	高倉通四条下ル町 年寄五兵衛(印)→鳥丸通雪駄屋町下ル町 年寄治兵衛殿	丸田屋嘉四郎、近江屋嘉四郎と改名し、鳥丸雪駄屋町西村屋栄五郎借家へ宅替につき。	堅紙 1通 (1紙)	25.0*	34.5
199 1026	安政4年7月	宗旨請状之事(近江屋嘉次郎借宅二付)	本願寺御門跡御末流 柳馬場通虎石町 願榮寺(印)→鳥丸通中大坂町 年寄・町中	西村屋栄五郎借家の近江屋嘉次郎一家3人が当寺檀家であることを証明する。	堅紙 1通 (1紙)	27.8*	41.5
200 2061	安政4年7月	宗旨請状之事(象牙屋武兵衛借宅二付)	大雲院塔頂 寶樹院(印)→年寄・町中参	中大坂町町持屋に借宅の象牙屋武兵衛の宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	28.1*	41.3
201 1070	安政4年丁巳8月	人別送り一札之事(百姓吉右衛門様より引越二付)	丹州天田郡福知山立原村 庄屋徳右衛門(印)→京都鳥丸通り五條下ル式町目中大坂町 御年寄衆中・御五人組衆中	当村内百姓吉右衛門の娘よりは、当年13才、熊太郎殿の親類である。今回熊太郎殿方に越すので、当村の人別帳面からは除き今後はそちらの御町人別に加えられる。	堅紙 1通 (1紙)	27.9*	42.0
202 2058	安政4年丁巳8月	宗旨請状之事(近江屋伊助借宅二付)	本願寺御門跡役寺 法輪寺(印)→年寄・町中参ル	鳥丸五條下ル中大坂町の近江屋伊助は代々当寺門徒である旨の宗旨請状。	堅紙 1通 (1紙)	27.9*	40.5
203 1021	安政4年丁巳9月	宗旨請状之事(近江屋為八借宅二付)	徳木山知恩院末大雲院塔頂 智徳院(印)→年寄・町中	鳥丸通雪駄屋町下ル山田屋庄兵衛借宅の近江屋為八は浄土宗で当山の檀那である旨の寺請状。	堅紙 1通 (1紙)	27.7*	40.5
204 2098	安政4年巳9月	人別送り之事(近江屋為八宅替二付)	不明町通魚店下町 東寺内仏真屋町 年寄兵七(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 御年寄治兵衛殿	仏真屋町の村木屋くの借屋の近江屋為八・妻・伴3人が中大坂町山田屋治兵衛家に宅替することに付、人別送りの事。【備考】「魚店下町」は「魚屋下町」の間違いか。	堅紙 1通 (1紙)	24.2*	33.8
205 1017	嘉永7年寅2月	送り一札(小柳屋平兵衛宅二付)	東寺内紺屋町 年寄庄三郎(印)→龍屋町鳥丸西入ル町 御年寄・五人組中へ	小柳屋平兵衛が家内4人で変宅したが、これまで何の故障もない旨の送り一札。	切紙 1通 (1紙)	24.8	*
206 2065	安政5年壬午2月	宗旨送り一札(登大路村新三郎様へい縁付二付)	小堀勝太郎殿御支配所 城州相楽郡頼原郷 御幣使科登大路村 宗旨送り主 新三郎(印)・年寄 庄兵衛(印)・庄屋 忠四郎(印)→京鳥丸五條下ル二丁目中大坂町 年寄栄五郎殿	登大路村の新三郎様へ、中大坂町の武兵衛の妻になったことに付、代々の海住山寺不動坊の宗旨帳面から武兵衛帳面に加入すること。	堅紙 1通 (1紙)	27.8*	40.5

整理番号	調査年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量	
207	1036	安政6年未4月	借家請状之事(越中屋直次郎借宅二付)	家請人竹村屋清兵衛(印)・引取人越中屋伊右衛門(印)・借り主越中屋直次郎(印)→烏丸通五條下ル式丁目中大坂町年寄栄五郎殿	龍屋平兵衛借家越中屋直次郎という絹帽子渡世の者につき借家請状。【備考】裏継印有。端裏「龍屋平兵衛借家越中屋直次郎」。統紙で同じ差出人が家主龍屋平兵衛に宛てた「引請申証文之事」。	豎紙1通 統紙(3紙)	28.1*	59.7	
208	2078	安政6年未4月	借家請状之事(美の屋喜十郎借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・間之町上馬場下ル町引請人美の屋松五郎(印)・借り主美濃屋吉十郎(印)→烏丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・町中参ル	龍屋平兵衛借家の美の屋喜十郎と申す仁は絹帽子職渡世をしており、生国等よく知っているので請人となつた。町中御作法を守らせること、家が入用となつたらすぐに家を明け渡すことなどを記す。【備考】連紙で「引請申証文之事」。端裏「龍屋平衛借家 美の屋喜十郎」。	豎紙1通 統紙(2紙)	28.0*	69.0	
209	1066	安政6年5月	借屋請状之事(伊勢屋与七借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・寺町通高辻上ル町引取人近江屋清七(印)・借り主伊勢屋与七(印)→烏丸五条下ル二丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・町中参ル	其御町の龍屋平兵衛の借家人伊勢屋与七は、木工職渡世で、生国出所等先祖より存知の達な人物であり、請人に立つ。奥に家主龍屋平兵衛宛の名連印の引請状を書き継ぐ。【備考】裏継印有。端裏「龍屋平兵衛借家へ伊せ屋与七」	豎紙1通 統紙(3紙)	28.1*	63.5	
210	1085	安政6年7月	借家請状之事(辻与一郎借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・不明健屋町 引取人清老屋九朗兵衛(印)・借り主 辻与一郎(印)→烏丸通五条下ル式丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・町中参ル	龍屋平兵衛殿へ借宅する辻与一郎(本願寺家中)の家請人・引取人による借家請状。奥に、家主への三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「龍屋平兵衛借家 辻与一郎」	豎紙1通 統紙(2紙)	28.0*	67.5	
211	1085	13	安政7年正月	借家請状之事(和田屋ちか借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・五条通烏丸東入町 引取人 近江屋五兵衛(印)・借り主 和田屋ちか(印)→烏丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・町中参ル	越後屋喜左衛門の借家人和田屋ちかに対する、家請人・引取人・借り主による借家請状奥に家主越後屋喜左衛門への同三人による三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「越後屋喜左衛門借家 和田屋ちか」。	豎紙1通 統紙(3紙)	28.1*	64.5
212	1085	17	安政7年正月	借家請状之事(川崎清八郎借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・万手(寿)寺烏丸西入町 引取人 近江屋宗七(印)・借り主 川崎清八郎(印)→烏丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・町中参ル	越後屋喜左衛門の借家人川崎清八郎(本願寺家中)に宛する家請人・引取人・借り主による借家請状。奥に、同三人による家主への三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「越後屋喜左衛門借家 川崎清八郎」。	豎紙1通 統紙(2紙)	28.1*	61.1
213	1085	01	万延元年12月	借屋請状之事(象牙屋武兵衛借宅二付)	烏丸松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・東中筋五条下ル町 引取人 河内屋長兵衛(印)・借り主 象牙屋武兵衛(印)→烏丸通五条下ル式丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・御町中参ル	山田屋次兵衛方へ象牙屋武兵衛、糸物渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛引請証文と同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「山次借家 象牙屋武兵衛」。	豎紙1通 統紙(2紙)	24.8*	60.7
214	1085	03	万延元年庚申12月	借家請状之事(中村吉太郎借宅二付)	烏丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・松原室町西入る 引取人 和泉屋作兵衛(印)・借り主 中村吉太郎(印)→烏丸通五條下二丁目中大坂町 年寄栄五郎殿・御町中参ル	越後屋喜左衛門殿借屋に中村吉太郎と申す者が借宅しており本願寺家中の身元確かな者である。規律を守らせること、家人用時の明け渡しのこと、家賃のことなどを記した証文。【備考】裏継印有。端裏「越喜借屋 中村吉太郎」連紙で家主越後屋喜左衛門に宛てた文言あり。	豎紙1通 統紙(4紙)	28.0*	83.1

継書   継書   継書	年月日	文書名	臺出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
215	1085 38	万延2年正月 借家請状之事(丸屋庄兵衛 借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・鳥丸通五條下ル町引取人 近江屋源兵衛(印) 借り主 丸屋庄兵衛(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	福嶋屋うた殿にて借家している丸屋庄兵衛(古手虎寛渡世)に対する家請人・引取人・借り主による借家請状。奥に同差出人により、家主おうた宛の三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「福嶋屋うた殿借家 丸屋庄兵衛」。	堅紙 1通 襖紙 (2紙)	1通	27.6*
216	1039	文久元年3月 借家請状之事(小嶋屋孫 右衛門借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・御幸町万寿寺下ル 引請人 鋸屋清七(印)・借主 柏屋栄藏(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	丹波屋保三郎方に小嶋屋孫右衛門・大江渡世にて借宅につき。同差出人より家主丹波屋保三郎宛引請証言も同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「丹波屋保三郎借家相屋栄藏」。	堅紙 1通 襖紙 (1紙)	1通	25.1*
217	1059 09	文久元年4月 借家請状之事(加賀屋茂 助借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・万寿寺室町西入 引取人 松屋伊兵衛(印)・借主 加賀屋茂助(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	丹波屋保三郎方に加賀屋茂助、給具職渡世にて借宅につき。同差出人より家主丹波屋保三郎宛「引請証文」と同通に連記。【備考】端裏「丹保借家 加賀屋茂助」。	堅紙 1通 (1紙)	1通	25.1*
218	1085 26	文久元年4月 借家請状之事(近江屋新 兵衛借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・柳馬場六角下ル町引請人 榎屋茂介(印)・借り主 近江屋新兵衛(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	丹波屋保三郎方に借宅の近江屋新兵衛、柳籠重・竹村屋清七に身元確かにつき請状。同差出人より家主宛三ヶ条請状と連紙。【備考】裏継印有。端裏「丹波屋保三郎借屋 あふミ屋新兵衛」。	長堅 1通 紙 (1紙)	1通	25.1*
219	1051	文久元年5月 借家請状之事(丸屋うの 借宅二付)	鳥丸五條下ル町 家請人 近江屋源兵衛(印)・鳥丸五條下ル町 引取人 村屋清兵衛(印)・柳馬場六角下ル町引請人 榎屋茂介(印)・借り主 丸屋うたの(の)(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	其御町丹波屋保三郎殿借家の丸屋うのは、仕立屋渡世にて 生国出所は先相からよく知っており、健全な人物である。奥に丹波屋保三郎殿宛の、同三人連印の引請証文を書き継ぐ。【備考】裏継印有。端裏「丹波屋保三郎殿借家丸屋うの」。	長堅 1通 紙 (2紙)	1通	25.1*
220	1085 30	文久元年西5月 借家請状之事(菱屋宗七 借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・姉小路車屋町西へ入町 引請人 日野屋利三郎(印)・借り主 菱屋宗七(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	田葉粉渡世の菱屋宗七が龍屋半兵衛借家に「借宅につき、請状之事、差し出し3名同じ、宛名・家主引請状を列記。【備考】端裏「龍屋半兵衛殿借家 菱屋宗七」。	堅紙 1通 (1紙)	1通	25.1*
221	2162 07	文久元年西5月 借家請状之事(山形屋清 介借宅二付)	鳥丸松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・鳥丸通五條上ル町 引取人 山形屋平七(印)・借り主 山形屋清介(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 榮五郎殿・御町中参ル	中大坂町丹波屋保三郎に借宅する山形屋清介(瀬戸物渡世)と申すに二付、借家請状のこと。奥に同差出人より家主・丹波屋保三郎宛の引請証文を記す。【備考】裏継印無。端裏「丹波屋保三郎殿借家 山形屋清介」。包紙一括2162-1~10。	堅紙 1通 襖紙 (1紙)	1通	25.1*
222	1057 04	文久2年戌3月 借家請状之事(加賀屋伊 左衛門借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・魚の棚間の町東へ入町 引請人 北村屋嘉助(印)・借り主 加賀屋伊左衛門(印)→鳥丸通五條下ル式丁目中大坂町 年寄 治兵衛殿・五人組町中	丹波屋保三郎家に借宅する加賀屋伊左衛門は、働き渡世をする身元確かな者である旨請証文。連紙で丹波屋保三郎に宛てた「引請申証文之事」。【備考】裏継印有。端裏「丹保借や 加賀屋伊左衛門」。	堅紙 1通 襖紙 (3紙)	1通	27.9*

整理番号	調査年度	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
223	1045	文久2年4月	借家請状之事(大坂屋とよ借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・新町仏光寺上ル町引請人千切屋新助(印)・借り主大坂屋とよ(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	丹波屋保三郎方に大坂屋とよ、紙細工造花藏渡世にて借宅につき。同差出人より家主宛「引請申証文之事」継印統紙にて同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「丹保借屋大坂とよ」。	堅紙 1通 統紙 (2紙)	27.9*	81.6
224	1057	01	借屋請状之事(万屋金次郎借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・米市東菊屋町 引請人万屋仁兵衛(印)・借り主万屋金次郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	丹波屋さと家に借宅している万屋金次郎は仕立物渡世の身元確かな者である請証文。連紙で丹波屋佐登宛「引請申証文之事」。【備考】裏継印有。端裏「丹佐登借や 万屋金次郎」。	堅紙 1通 統紙 (2紙)	27.8*	81.6
225	1024	文久2年7月	借屋請状之事・引請申証文之事(藤屋つる借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・万寿寺富小路東入ル町 引請人鶴屋利助(印)・借り主藤屋つる(印)→鳥丸五条下ル式町目中大坂町 年寄町中	中大坂町丹波屋さと家に借宅する藤屋つる、安服療治渡世営み、たしかに人物なので請人に立つ。貼継の引請証文では宿科などにつき請印。【備考】裏継印有。端裏「丹さと借家藤屋つる」同日付・同差出人、家主丹波屋さと宛「引請申証人之事」。	堅紙 1通 統紙 (2紙)	28.0*	81.7
226	1085	14	借屋請状之事(大文字屋甚兵衛借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・仏光寺鳥丸西入町引請人 大文字屋佐右衛門(印)・借り主 大文字屋甚兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋さとの借家大文字屋甚兵衛(大工職渡世)に対する家請人・引請人・借り主による借家請状。奥に、同三人による家主宛の三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「丹さと借や 大文じや甚兵衛」。	堅紙 1通 統紙 (3紙)	27.6*	81.4
227	1085	20	借屋請状之事(山田量次郎借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・不明門通万年寺上ル町 引請人 府中屋金次郎(印)・借り主山田量次郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋さと家に借宅する山田量次郎、本願寺家中にて付借屋請状のこと、同通に差出3名同じ、宛名家主丹波屋とよ引請証文之事あり。【備考】裏継印有。端裏「丹里借屋 山田量次郎」。	堅紙 1通 統紙 (2紙)	27.6*	82.3
228	1044	文久2年閏8月	借屋請状之事(天満屋権兵衛借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・不明門通松原下ル町引請人亀屋利兵衛(印)・借り主天満屋権兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋保三郎方に天満屋権兵衛、呉服唐物渡世にて借宅につき。同差出人より家主宛「引請申証文之事」と継印統紙にて同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「丹保借や天満や権兵衛」。	堅紙 1通 統紙 (2紙)	27.6*	82.7
229	1040	文久2年10月	借屋請状之事(大文字屋富之助借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・楊梅通鳥丸西入町引請人 大文字屋甚八(印)・借り主大文字屋富之助(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋さと方に大文字屋富之助・清酒屋渡世にて借宅につき。同差出人より家主丹波屋さと宛「引請申証文之事」と継印統紙にて同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「丹さと借や 大文じや富之助」。	堅紙 1通 統紙 (3紙)	27.7*	84.6
230	3057	文久2年戌9月下旬	一礼之事	引請人近江屋源兵衛(印)→年寄治兵衛殿御町中	丹波屋さとの元に借宅する近江屋源助は、私の父である。引請人となるので源助にどのようなことが起きても万事引請、町内や家主へ迷惑はかからない。	切紙 1通 (1紙)	24.0*	34.5
231	1085	18	借屋請状之事(桝屋たよ借宅二付)	鳥丸通松原上ル因幡堂境内 家請人竹村屋清兵衛(印)・不明門通五条下ル町引請人 柳屋喜市(印)・借主 桝屋たよ(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄・町中	越後屋喜左衛門家に借宅する桝屋たよ(仕立物渡世)につき、家請人・引請人・借主による借屋請状。奥に、家主宛の同三人による三ヶ条の引請証文あり。【備考】裏継印有。端裏「越後喜借屋 桝屋たよ」。	堅紙 1通 統紙 (3紙)	27.8*	114.2

整理番号	調査校番	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
232	1085 24	文久3年正月	借屋請状之事(中嶋屋甚助・借宅二付)	鳥丸通松原上ル・因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・五条室町東入町 引請人 全屋甚兵衛(印)・借り主 中嶋屋甚助(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋さと方に借宅の中嶋屋甚助、呉服屋渡世にて身元確かなにつき請状、同差出人より家主宛引請証文と連紙。【備考】裏継印有。	堅紙 1通 続紙 (3紙)	27.7*	81.4
233	1038	文久3年5月	借屋請状之事(小嶋屋孫右衛門・借宅二付)	鳥丸通松原上ル・東側 因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・東洞院中珠数屋町下ル町 引取人 太田屋重助(印)・借り主 小嶋屋孫右衛門(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・御町中江参	中大坂町龍屋平兵衛家に小嶋屋孫右衛門・借宅。南壳灰屋を渡世致す。奥に同日付・同差出人の「引請申証文之事」があり、家の権益について載せる。【備考】裏継印有。端裏「龍平借や 小嶋屋孫右衛門」。	堅紙 1通 続紙 (3紙)	28.0*	110.7
234	1057 05	文久3年亥5月	借屋請状之事(加賀屋茂助)	鳥丸通松原上ル・東側 因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・不明門五條下ル・式町目下平野町 引取人 近江屋茂助(印)・借り主 加賀屋茂助(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・御町中江参	丹波屋保三郎に借宅する加賀屋茂助は、絵之具職・渡世の身元確かな者である旨請証文。連紙で丹波屋保三郎に宛てた「引請申証文之事」。【備考】裏継印有。端裏「丹保借や 加賀屋茂助」。	堅紙 1通 続紙 (3紙)	28.0*	107.3
235	1057 02	文久3年亥9月	借屋請状之事(美成屋為助・借宅二付)	鳥丸通松原上ル・因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・高辻新町西江入町 引請人 立田屋専助(印)・借り主 美成屋為助(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋佐登殿家に借宅する美成屋為助は古手・渡世の身元確かな者である旨請証文。連紙で丹波屋佐登宛「引請申証文之事」。【備考】裏継印有。端裏「丹佐と借や 美成や為助」。	堅紙 1通 続紙 (2紙)	28.0*	88.4
236	1057 03	文久3年亥11月	借屋請状之事(近江屋兵助・借宅二付)	鳥丸通松原上ル・東側 因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・間之町萬年寺上ル町 引請人 尾張屋市兵衛(印)・渡世手伝職 借り主 近江屋兵助(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・御町中江参	龍屋平兵衛家に借宅の近江屋兵助は手伝職・渡世の身元確かな者である旨請証文。連紙で龍屋平兵衛に宛てた「引請申証文之事」。【備考】裏継印有。端裏「龍平借や 近江屋兵助」。	堅紙 1通 続紙 (2紙)	27.9*	87.6
237	1054	文久4年1月	借屋請状之事(若竹屋佐七・借宅二付)	鳥丸通松原上ル・因幡堂境内 家請人 竹村屋清兵衛(印)・七條通西洞院東江入町 引請人 能登屋市兵衛(印)・借り主 若竹屋佐七(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・町中	丹波屋さと殿に若竹屋佐七、太物・渡世にて借宅につき。同差出人より家主・丹波屋さと宛の「引請申証文之事」と繼印・連紙にて同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「丹里借や若竹屋佐七」。	堅紙 1通 続紙 (2紙)	27.6*	80.6
238	1059 04	元治2年3月	地借請証文之事(近江屋兵助・地借二付)	室町通松原上ル町 請人 竹村屋清兵衛(印)・周之町万年寺上ル町 引請人 尾張屋市兵衛(印)・借り主 近江屋兵助(印)→鳥丸通五條下ル・式町目中大坂町 年寄・治兵衛殿・五人組町中・地主 瀧屋平兵衛殿	瀧屋平兵衛所持地所、近江屋兵助へ借受、御町(中大坂町)に家を建てることについての証文。【備考】端裏「龍平借地 近江屋兵介」	堅紙 1通 続紙 (2紙)	28.1*	62.7
239	1059 10	元治2年3月	地借一札之事(大文字屋富之助・地借二付)	大文字屋富之助(印)・引取人 大文字屋甚八(印)・請人 竹村屋清兵衛(印)→地主 福島屋うた殿 鳥五條下ル・二町目 御年寄 次兵衛殿 御町中	福島屋うた所持の地所、大文字屋富之助借受につき、当年月より亥年正月まで10ヶ年の間・建家することとを記す。【備考】裏継印有。	堅紙 1通 続紙 (2紙)	28.1*	57.6



発番	調査	年月日	文書名	貸出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
240	1059 08	慶応元年6月	他借請証文之事(大坂屋とよ地借二付)	室町通松原上ル 請人 竹村屋清兵衛(印)・新町通佛光寺上ル町 引請人 千切屋新助(印)・借り主 大坂屋とよ(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中・地主 丹波屋保三郎殿	丹波屋保三郎所持の地所、大坂屋とよ借受、家を建てることにつき証文。筋目、宗旨の事、御公儀の法を守ることに、地料を納める旨とを記す。【備考】裏継印有。端裏「丑七 丹保借地 大坂やとよ」	豎紙 1通 統紙 (2紙)	27.6* 56.4	
241	1059 02	慶応元年7月	地借請証文之事(小嶋屋孫右衛門地借二付)	室町通松原上ル町 請人 竹村屋清兵衛(印) 宮川筋四丁目 引請人 小嶋屋瀧吉(印) 借主 小嶋屋孫右衛門(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿 五人組町中 地主 瀧屋平兵衛殿	瀧屋平兵衛所持の地所、小嶋屋孫右衛門へ借受、その土地に家を建てることについての証文。【備考】裏継印有。端裏「丑七 龍平借地 小嶋や孫右衛門」	豎紙 1通 統紙 (2紙)	27.6* 58.6	
242	1059 06	慶応元年7月	借屋請状之事(天満屋権兵衛借宅二付)	室町通松原上ル町 家請人 竹村屋清兵衛(印)・鳥丸通五条下ル町 引取人 亀屋利兵衛(印)・借り主 天満屋権兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄・町中	福岡屋うた方に天満屋権兵衛、呉服唐物商売渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛「引請申証文之事」を連記。【備考】裏継印有。端裏「福うたの借や 天満屋権兵衛」	豎紙 1通 統紙 (3紙)	27.6* 95.1	
243	2089	慶応元年丑7月	借屋請状之事(能登屋利三郎借宅二付)	室町通松原上ル町 家請人 竹村屋清兵衛(印)・楊梅通鳥丸西江入町 引取人 吉田屋直次郎(印)・借り主 能登屋利三郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	福岡屋うた方に能登屋利三郎は身元確かにつき請状、連紙で家主宛「引請申証文之事」【備考】裏継印有。端裏「丑七月 福うたの借屋 能登や利三郎」。	豎紙 1通 統紙 (2紙)	28.0* 89.4	
244	1059 11	慶応2年8月	借屋請状之事(近江屋弥兵衛借宅二付)	西洞院七条角 家請人 丸屋久兵衛(印)・新町揚梅通 引取人 萬屋善兵衛(印)・借り主 近江屋弥兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中 江参ル	福岡屋うた方に近江屋弥兵衛筆職渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛「引請申証文之事」と同通に連記。【備考】裏継印有。端裏「福哥借屋 近江屋弥兵衛」	豎紙 1通 統紙 (3枚)	27.6* 88.1	
245	1059 01	慶応元年10月	借屋請状之事(能登屋宗三郎借宅二付)	室町通松原上ル町 家請人 竹村屋清兵衛(印) 東洞院通魚棚上ル町 引取人 津国屋久右衛門(印) 借り主 能登屋宗三郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄殿町中	福岡屋うた方に能登屋宗三郎、大工職渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛「引請申証文之事」を連記。【備考】裏継印有。端裏「福うたの借や 能登屋宗三郎」	豎紙 1通 統紙 (3紙)	27.6* 82.2	
246	1059 07	慶応元年12年	借屋請状之事(伊勢屋新八借宅二付)	室町通松原上ル町 家請人 竹村屋清兵衛(印)・天宮通七条上ル町 引取人 山城屋伊三郎(印)・借り主 伊勢屋新八(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中	丹波屋保三郎方に伊勢屋新八、黒銅職渡世にて借宅につき、同差出人より家主丹波屋保三郎宛「引請申証文之事」を連記。【備考】裏継印有。端裏「丹保借や 伊せ屋新八」。	豎紙 1通 統紙 (3紙)	27.7* 89.4	
247	1059 03	慶応2年5月	借屋請状之事(小野屋幸次郎借宅二付)	家請人 津国屋義助(印)・問の町七条 引取人 桔梗屋治兵衛(印)・借り主 小野屋幸次郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中 江参ル	丹波屋保三郎方に小野屋幸次郎、植物商売渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛「引請申証文之事」と連記。【備考】裏継印有。端裏「丹保借家 小野屋幸次郎」。	豎紙 1通 統紙 (2紙)	28.2* 89.7	

番号	題名	年月日	文書名	書出→宛名	内容	形状	頁数	法量
238	1059 05	慶応2年11月	借屋請状之事(丸屋兵次郎借宅二付)	磯小路堀川西江入町 家請人 笹屋仁兵衛(印)・御幸町五条上ル町 引取人 尾張屋治助(印)・借り主 丸屋兵次郎(印)→鳥丸通五条下ル式町目 中大坂町 年寄治兵衛殿・町中江参ル	福岡屋うた方に丸屋兵次郎、「古手簡先渡世にて借宅につき、同差出人より家主宛「引請申証文之事」を連記。【備考】裏継印有。端裏「寅十一月 福岡借や丸や兵次郎」。	堅紙1通 (3紙)	27.5*	85.6
239	1085 46	慶応2年11月	借屋請状之事(若松屋新七借宅二付)	新町通魚棚下ル町 家請人 岸屋三郎兵衛(印)・引取人 但馬屋興三郎(印)・借り主 若松屋新七(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中江参ル	龍屋平兵衛借屋居住の若松屋新七、鮎屋渡世にて身元確かな旨請状、同差出人より家主宛引請証文と連紙。【備考】裏継印有。端裏「寅十一月 龍平借屋若松屋新人」。	堅紙1通 (3紙)	27.7*	68.9
250	1055	慶応3年9月	一札(当時備住、糴穀米商渡世二付)	越後屋喜右衛門(印)→鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中	以前大坂町にて金具渡世を営んでいた越後屋が、大震災後の他出を経て大坂町に備住を願う。その際糴穀・米商開業するが米相場に携らず搦白も一個に限り町中に迷惑かけない旨。	堅紙1通 (1紙)	28.0*	40.5
251	1085 52	慶応3年卯10月	借屋請状之事(平野屋嘉兵衛借宅二付)	松原通高倉西江入町 家請人 越後屋勘助(印)・堺町通五条上ル町 引取人 扇屋源兵衛(印)・借り主 平野屋嘉兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 年寄治兵衛殿・町中江参ル	中大坂町内福岡屋うた家に商売墨筆渡世の平野屋嘉兵衛借宅二付、借屋請状のこと。同通に引請証文を列記する。差出3名同じ。宛名家主福岡屋うた殿。【備考】裏継印有。端裏「卯十月 福岡借家 平のや嘉兵衛」。紙縫一括。1085-1~52。	堅紙1通 (2紙)	28.3*	90.4
252	2047 03	(年未詳) 西4月18日	【人別送り二付書付】	→	摂州池田木町田中太兵衛方へ引渡した。丹波屋卯之助の親類である。人別送り状の添書か。【備考】2047-11と巻込。後欠か。	切紙1通 (1紙)	16.3*	8.3
253	3063	(年未詳) 閏5月27日	人別送り一札	鳥丸通五条下式町目 年寄喜兵衛(印)→祇園町御年寄・町中	当町内の天満屋虎次郎が祇園町船屋小左衛門方へ借宅につき、人別送り手形。	切紙1通 (1紙)	24.2*	34.0
254	3064	(年未詳) 閏5月27日	人別送り一札(控)	年寄喜兵衛 印→祇園町御年寄・町中	当町内の天満屋虎次郎が祇園町船屋小左衛門方へ借宅につき、人別送り手形。【備考】3063の案文か。	切紙1通 (1紙)	24.0*	26.7
255	1053	(年未詳)	送り一札(岩佐建治妻おまさ愛宅二付)	東寺内上柳町 年寄庄兵衛(印)→中大坂町御年寄治兵衛殿・御町内江参ル	当町内の田中官門殿に住居している岩佐建治殿が死去したので、妻おまさ殿が、この度、其御町内へ変宅するので人別を送る。下ヶ札一枚あり。	堅紙1通 (1紙)	25.1*	34.2
256	1085 29	(年未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金17両の預り証文案。無抛入用のため、町分積金の内から17両を預ることを記す。【備考】1085-11と同文、同筆。	切紙1通 (1紙)	31.8*	31.6
257	3055	(年未詳)	【家主・年寄名書付】		「家主 山田至」「年寄 井筒屋権兵衛」とのみ記す。	切紙1通 (1紙)	15.6*	11.0
258	3060	(年未詳)	【人別送り名前覚書】	→年寄喜左衛門殿	大坂屋きと借家の出村屋清右衛門の人別送りにつき名前覚書。【備考】包紙表「人別送り手形入」裏「伏見海道本町九丁目家主大文字屋平右衛門・年寄同人・大佛寺内瓦町家主みの屋吉衛門、天満屋ちよ殿家二近江屋良平」。	切紙1通 (1紙)	16.0*	8.5
259	4047	(年未詳)	【宗旨証文包紙】		「宗旨証文」「当時不用寺請」とのみ記す。包紙のみ。	包紙1枚	33.1*	23.9

Ⅷ 中大坂町 3 家屋敷

登録	調査	技術	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2007	01	明和4年亥11月	家屋舗之事(沽券改二付割印願)	持主 天満屋孫兵衛・年寄 升屋勝兵衛 外五人組2名。町代田内彦次郎／石垣基内	家屋敷一ヶ所の沽券状改二付、御割印を願う。【備考】宛名なし。封筒一括2007-1～4。	縦紙 1通 (1紙)	1通	24.2* 34.2
002	4002		明和4年亥11月	家屋舗之事(沽券改二付割印願)	持主 乍五人組竹屋六左衛門・年寄 升屋伝兵衛・五人組桔梗屋與吉郎→町代田内彦次郎・石垣基内	鳥丸通中大坂町東側老ヶ所老軒役のこと、34年以前寛7月竹屋千代より代銀老貫貳百目で買い請けたことを記す。沽券状御改二付御割印を願う。汚損小。	縦紙 1通 (1紙)	1通	24.2* 34.4
003	4038		明和4年11月	家屋敷之事(沽券改二付割印願写)	持主 岩田屋ろく・印・年寄 升屋伝兵衛(印)・五人組 竹屋六左衛門 印・同 桔梗屋与吉郎 印→	岩田屋ろくが親六左衛門より譲りうけた家屋敷についての沽券状改めにつき、割印を願う。【備考】町代田内彦次郎・石垣基内の印有り。	縦紙 1通 (1紙)	1通	24.8* 35.2
004	4085		明和4年亥11月	家屋舗之事	持主 天満屋権兵衛・年寄 升屋伝兵衛・五人組 竹屋六左衛門・同 桔梗屋与吉郎→	中大坂町西側の家屋敷について33年以前に町中より代銀老貫500目で買請けたが、此度沽券状改めに付割印を願う。寛政元年の永代売渡申地屋敷証文をつける。【備考】奥に町代田内彦次郎・石垣基内の署名あり。	縦紙 1冊 (2丁)	1冊	24.6* 17.2
005	1058	01	寛政元年11月23日	地屋敷買請状之事(天満屋おすま殿地屋敷二付)	鳥丸五条上ル町 家買請人 瓜屋平兵衛(印)・同買主 山田屋治兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄六左衛門殿・五人組御町中参	其御町内の天満屋おすま殿地屋敷を、山田屋治兵衛が買請けるので、我らが買請人となる。	縦紙 1通 (2紙)	1通	28.0* 61.3
006	4036		寛政3年6月1日	家屋敷之事(家屋敷売渡証文綴)	売主 近江屋吉兵衛・年寄 岩田屋六左衛門・五人組奈良屋嘉兵衛・乍五人組吹孝人 天満屋彦太郎、他1名→天満屋善恵殿	明和4年の沽券改による家屋敷所持証文を写した上で、鳥丸通中大坂町東側の老ヶ所老軒役の地屋敷を、代銀2貫200目で売渡す。奥に町代2名の奥書あり。嘉永3年6月の同地屋敷の売渡証文を合綴。	縦紙 1綴 (3丁)	1綴	25.1* 17.2
007	2007	02	寛政4年子5月16日	永代売渡申地屋舗之事	売主 天満屋権兵衛年寄 岩田屋六右衛門 売渡人 河内屋助右衛門 他五人組2名→町代田内彦次郎 奥田佐兵衛	要用のため地屋敷老ヶ所を売り渡す証文。御割印沽券状を渡したことを記す。【備考】宛名なし。封筒一括2007-1～4。	縦紙 1通 (1紙)	1通	24.3* 34.3
008	1058	02	寛政4年11月24日	議状之事(山田屋七平家屋敷二付)	議主 治兵衛事 山田屋七平(印)→鳥丸通中大坂町御年寄六左衛門殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所を併治助へ譲り渡した。	縦紙 1通 (1紙)	1通	27.9* 35.0
009	4083		享和2年12月28日	永代売渡申家屋敷之事	右伝兵衛孫 売主 升屋伝兵衛・年寄 吹買主二付五人組 天満屋伊右衛門・乍五人組吹孝人 岩田屋六右衛門・鳥丸五条下ル三町目 売請人 柿屋治兵衛→山田屋治助殿	升屋伝兵衛の持家家舗売渡しにつき、明和4年改めの沽券状を添えた売渡状。【備考】町代奥印有り。	縦紙 1通 (2紙)	1通	24.6* 17.5
010	1085	16-1	文化6年2月24日	譲り状之事(丹波屋善兵衛家屋敷二付)	議主 丹波屋善兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・町中	我等所持の家家舗一ヶ所を、我等死後は、妻と子、娘のふの兩人へ譲る。【備考】1085-16-2と合綴。	縦紙 1通 (1紙)	1通	28.0* 42.6
011	1085	21	文化6年巳2月24日	譲り状之事(健屋吉家屋敷二付)	譲り主 健屋いち(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・町中	当町に所持している家屋敷を伴彦次郎へ譲る旨譲り状。	縦紙 1通 (1紙)	1通	28.1* 42.7
012	1085	05-1	文化6年巳2月	家屋舗買得請合證文之事(佐和屋弥兵衛所持家屋敷二付)	東寺内富田町 近江屋又兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・五人組御町中参	中大坂町の佐和屋弥兵衛が所持する家屋敷一ヶ所を今度丹波屋善兵衛が買得に付、別紙浄土宗請状を差し出し、家屋敷買得證文のこと。【備考】包紙1(丹波屋善兵衛殿譲り状) 1085-5-1～3包紙一括。	縦紙 1通 (2紙)	1通	28.0* 60.1
013	1085	22	文化6年巳2月	家屋舗買得請合證文之事(健屋吉家屋敷二付)	東洞院五条下式丁弐目 升屋孫兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組御町中参	健屋いちが町中所持の家屋敷一ヶ所を買得することについて、請合証文。【備考】裏継印有り。	縦紙 1通 (2紙)	1通	27.9* 65.1

整理番号	開書校書	年月日	文書名	書出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
014	1085	05-2	文化6年巳7月 寺請一札(丹波屋善兵衛 宗昌二付)	面(西か)山末寺六町通大宮西へ人込 光明院(印)→鳥丸五条下ル式丁目中大 坂町 年寄・町中	中大坂町住居の丹波屋善兵衛に関する寺請状。1085 →1の家屋敷買請證文をうけてのもの。【備考】包 紙上書「寺請丹波屋善兵衛」1085-5-1～3包紙一 括。	堅紙 1通 (1紙)	28.6* 39.0	
015	4051		文化9年正月20日 家屋敷之事(粉屋半兵衛 家屋敷売買証文)	売主粉屋半兵衛・年寄淺屋平兵衛・五 人組粉屋藤七、他3名→山田屋次兵衛 殿	健屋町通鳥丸西江入健屋町北門の老軒役家屋敷を、 粉屋半兵衛から山田屋次兵衛が買得するに際し、安 永7年8月28日以来の売買経緯の古証文を記し町代が 奥書する。	堅紙 1綴 仮綴 (4丁)	24.6* 17.2	
016	1046		文化12年7月4日 譲り状之事(健屋いち家 屋敷二付)	譲主 健屋いち(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所、死後は倅彦次郎へ 譲ることを、文化6年2月24日譲状を差出し、御割 印を頂戴していたが、彦次郎死去により倅善兵衛・ 孫清次郎の両人に譲る。	堅紙 1通 (1紙)	27.6* 42.3	
017	1058	13	文政2年2月14日 譲状之事(山田屋治兵衛 家屋敷二付)	譲主 次町事山田屋次兵衛(印)→鳥丸 通中大坂町 御年寄伝左衛門殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所、死去後は母もん。 弟万次郎の両人へ譲る旨、文化2年5月24日の譲状 を差出し、御割印頂戴したが、万次郎死去につき、 父次右衛門・母もんに譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 43.1	
018	1058	14	文政2年2月14日 譲り状之事(山田屋次右 衛門家屋敷二付)	次兵衛事 山田屋次右衛門(印)→鳥丸 通中大坂町 年寄伝左衛門殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所、死去後は妻もん・ 倅文三郎事次町の両人へ譲る旨、寛政4年11月4日 の譲状を差出し、御割印頂戴したが、この度改め、 右次町事次兵衛へ譲る。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 42.9	
019	1058	15	文政2年2月14日 譲り状之事(山田屋次兵 衛家屋敷二付)	譲主 次町事山田屋次兵衛(印)→鳥丸 通中大坂町 御年寄伝左衛門殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所は、我等死後は父次 右衛門・母もんの両人に譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 43.3	
020	1019		文政2年5月 借宅請状之事(淺屋藤兵 衛借宅二付)	借り主 淺屋藤兵衛(印)・請人 淺屋 平兵衛(印)→鳥丸通五條下ル式町目中 大坂町 年寄傳左衛門殿・町中参	中大坂町天満屋彦太郎家に、淺屋藤兵衛が借宅する ので、身入を請けおう。【備考】裏紙に有。後筆裏 書「町内入用物 町代一件之書扱」包紙に用いる	堅紙 1通 続紙 (2紙)	30.4 56.1	
021	4067		(文政3年卯) 売券状ニ 御割印奉願 上候手続願書等認振	上下古京元川西	町家屋敷買得の際の売券状雛形・売渡証文・御断書 状雛形を記す。表紙表書朱筆「三月十六日東御役所 より御案文被下候帳切手続認振願書ハ別紙有」とあ る。【備考】表紙に「式丹之内」とあり。	堅紙 1冊 (7丁)	25.5* 17.4	
022	2134		文政7年10月 一札事(金五両借用ニ 付)	池田屋藤兵衛(印)・同竹藤助(印)→山 田屋次兵衛殿	金五両についての借用書。各ヶ月に金一步の利足。 当町に我等所持の家屋敷1ヶ所を、太助の弟善兵衛 (政次郎事)へ譲る。	切紙 1通 (1紙)	28.6* 15.7	
023	2053		天保2年8月14日 譲状之事(健屋太助家屋 敷二付)	譲主 善兵衛事健屋太助(印)・同竹清 次郎(印)→鳥丸通中大坂町 年寄善兵 衛殿・五人組町中	当町に我等所持の家屋敷1ヶ所を、太助の弟善兵衛 (政次郎事)へ譲る。	堅紙 1通 (1紙)	27.7* 41.4	
024	2162	05	天保2年卯8月14日 譲状之事(健屋善兵衛家 屋敷二付)	譲主 政次郎之事健屋善兵衛(印)→鳥 丸通中大坂町 年寄善兵衛殿・五人組 町中	当町の我等が所持している家屋敷一ヶ所を、妻いち 郎清次郎町人へ譲る旨を記す譲状。【備考】包紙一 括2162-1～10。	堅紙 1通 (1紙)	27.6* 41.6	
025	2054	01	天保4年巳8月 永代売渡申家屋敷之事 (山城屋やそ家屋敷二 付)	売主 山城屋やそ・請人 沢屋善兵衛・ 年寄 河内屋半兵衛、他5名→山田次兵 衛殿	要用二付、家屋敷一ヶ所を売り渡す證文。文化8年 末3月4日より譲り請けたことを記す。2ヶ所の家屋 敷を売渡す事。奥に今までの売買の履歴を記す。	堅紙 1通 (1紙)	24.7* 34.5	
026	2007	03	天保6年未3月21日 永代売渡申家屋敷之事	売主勝兵衛方陣門升屋淨照吹拳人丹波 屋善兵衛売請人鳥丸五條下ル3丁目升 屋傳兵衛一年寄伊兵衛殿五人組町中	要用二付、家屋敷一ヶ所を売り渡す證文。文化8年 末3月4日より譲り請けたことを記す。【備考】封筒 一括2007-1～4。	堅紙 1通 (1紙)	24.1* 34.5	

整理番号	調査年度	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	頁数	法量
026	2007	03	永代売渡申家屋鋪之事	売主勝兵衛方神門開屋浄照映奉入丹波屋善兵衛売請人鳥丸五條下ツル目升屋傳兵衛→年寄伊兵衛殿五人組町中	要二付、家屋敷壹ヶ所を売り渡す証文。文化8年未3月4日より譲り請けたことを記す。【備考】封筒一括2007-1～4。	堅紙 1通 (1紙)	24.1* 34.5	
027	2007	04	永代売渡申家屋鋪之事	売主町中年寄天満屋伊兵衛五人組山田屋治兵衛他3名→山田屋文三郎殿へ	町中が持つ家屋敷を要二付売り渡す証文。【備考】封筒一括2007-1～4。	堅紙 1通 (1紙)	24.3* 34.4	
028	4003		永代売渡申家屋鋪之事	石竹屋六郎衛門殿・売主岩田屋りゅう・證人伴助左衛門・年寄天満屋伊兵衛・五人組山田屋治兵衛・年五人組吹挙人健屋喜兵衛・松原室町西入売請人竹屋興兵衛→山田屋文三郎殿	岩田屋りゅう所持の家屋鋪を四貫目で売渡す。	堅紙 1通 (1紙)	24.2* 34.3	
029	1058	21	天保7年9月 一札(山田屋治兵衛家屋敷譲り二付)	譲り主 山田屋治兵衛(印)・証人親類大和屋弥兵衛(印)→鳥丸通中大坂町年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の家屋敷二ヶ所は、我等死後は父次右衛門・母もんに譲るとしたが、兩人死去につき、死後定めを御町から催促された。此節病中なので、近々に御町へ譲り状を差し出す。	堅紙 1通 (1紙)	29.2* 46.7	
030	1058	06	天保8年正月晦日 譲状之事(山中次兵衛家屋敷二付)	譲主 山中次兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の北の方の家屋敷2ヶ所を、我等死後に娘つる并に町中へ譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 41.8	
031	1058	07	天保8年1月晦日 譲状之事(山中次兵衛家屋敷二付)	譲主 山中次兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の居宅家屋敷一ヶ所并南の方の家屋敷一ヶ所、死後は父次右衛門・母もんに譲る。文政2年2月14日の譲状を差し出し、御割印を頂戴していたところ、右兩人死去したので、妻しか、娘つるに譲る。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 41.7	
032	1058	08	天保8年4月24日 譲状之事(山中文三郎家屋敷二付)	譲主 山中文三郎(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の北の方家屋敷2ヶ所を、我等死去後は母しか、叔父弥兵衛の二人に譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 41.9	
033	1058	09	天保8年4月24日 譲状之事(山田屋つる家屋敷二付)	譲主 山田屋つる(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の北の方家屋敷2ヶ所を、我等死去後は母しか、叔父弥兵衛の二人に譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 41.7	
034	1058	10	天保8年4月24日 譲状之事(山田屋つる・町中へ譲請家屋敷二付)	鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛(印)・五人組喜兵衛(印)・同喜兵衛(印)・譲主町中→山田屋つる殿	当町にて亡山田屋次兵衛死後に、其許并に町中へ譲り請けた北の方家屋敷2ヶ所は、この度、其許一人の所持に譲り渡す。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 41.8	
035	1058	11	天保8年4月24日 譲状之事(山田屋しか家屋敷二付)	譲主 山田屋しか(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持する西側南の方家屋敷2ヶ所、我等死去後は依文三郎、娘つるの兩人に譲る。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 41.7	
036	1058	12	天保8年4月24日 譲状之事(山田屋つる家屋敷二付)	譲主 山田屋つる(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄伊兵衛殿・五人組町中	当町に我等并母しか所持の西側南の方家屋敷2ヶ所は、この度、母しか一人の所持に譲渡す。	堅紙 1通 (1紙)	27.8* 41.2	
037	4147		弘化3年2月2日 沽券状之写	売主天満屋ちよ・証人伴彦太郎、他2名→年寄喜兵衛殿・五人組町中	中大坂町東側の家屋敷について、の売渡状4件の写し。天満屋ちよ屋敷2軒を町中買得のうえ西村屋栄五郎に売渡か。【備考】列貼装	堅紙 1冊 (5丁)	30.6* 21.8	
038	4039		弘化4年末4月 永代売渡申家屋敷之事(写)			堅紙 1通 (1紙)	24.9* 35.0	
039	1084	01	弘化5年申9月 引取申一札之事(萬屋長兵衛引取二付)	不明門五条下ル式町目中大坂町 引取人萬屋須兵衛(印)・萬屋長兵衛(印)→鳥丸通五条下ル式町目中大坂町 家主天満屋与兵衛殿	天満屋に借毛していた萬屋長兵衛について、本人、母、諸道具共、萬屋須兵衛方で引き取る旨の一札。【備考】包紙あり「引取一札 萬屋長兵衛」。	切紙 1通 (1紙)	28.0* 40.1	
040	1058	16	嘉永2年閏4月14日 譲状之事(山田屋しか家屋敷二付)	譲主 山田屋しか(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄喜兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の北の方家屋敷2ヶ所は、この度、依文三郎事次兵衛へ譲る。	堅紙 1通 (1紙)	28.0* 40.9	



継子・隠子・捨子	年月日	文書名	墓出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
041 1058 17	嘉永2年閏4月14日	譲状之事(山田屋次兵衛家屋敷二付)	譲主 文三郎事山田屋次兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄喜兵衛殿・五人組町中	当町の我等所持の北の方家屋敷二ヶ所は、我等死後は、母志かへ譲る。	堅紙1通(1紙)	28.0*	40.9
042 1058 18	嘉永2年閏4月14日	譲状之事(山田屋次兵衛家屋敷二付)	譲主 文三郎事山田屋次兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄喜兵衛殿・五人組町中	当町に我等所持の東側家屋敷二ヶ所は、死後は母志か・妹つるの両人へ譲ることを天保8年4月24日譲状を差し出し、御割印を頂戴していたが、つる死去により、志かへ譲る。	堅紙1通(1紙)	28.0*	40.8
043 1058 20	寛政2年8月14日	譲り状之事(山田屋次兵衛家屋敷二付)	譲り主 山田屋次兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄六左衛門殿・町中	当町に我等所持の家屋敷一ヶ所は、我等死後は、娘もんへ譲る。	堅紙1通(1紙)	28.0*	35.6
044 2118	嘉永2年12月	御借家付物の覚	丹波屋喜三郎(印)・丹波屋甚兵衛(印)→中大坂町 御年寄御・町中	借家した家に付属の什物の書上げ。表薄石蓋11枚、表南向き境戸1枚など、13品目。【備考】包紙上書「證 町借家付物書」。	堅紙1通(1紙)	24.1*	34.0
045 3030	嘉永4年5月6日	永代売渡申家屋敷之事	友次郎事売主天満屋伊兵衛(印)・吹拳人西村屋栄五郎(印)・西洞院高辻下丸町売渡人山形屋寅吉(印)→年寄治兵衛殿・五人組町中	我等所持の家屋敷を、要ありて代銀5貫600目で町中へ売渡し銀子を請取る。前段に明和4年、寛政12年の、この家屋敷に関する沽券状の写を記す。	堅紙1綴(4丁)	24.2*	17.2
046 1085 16-2	嘉永4年5月14日	譲状之事(丹波屋よそ・娘さの家屋敷二付)	譲主 丹波屋よそ(印)・同のふ事娘さの(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・五人組町中	私と娘のふ事さの両人所持の家屋敷一ヶ所を、伴亀之助事善兵衛へ譲り渡す。【備考】1085-16-1と合縁。	堅紙1通(1紙)	27.0*	41.5
047 2084 01	嘉永4年亥10月	一礼(天下谷伊兵衛家屋敷二付)	大仏北斗町 年寄引取人 龜屋大助(印)→鳥丸通中大坂町 年寄次兵衛殿・五人組町中	中大坂町に住む天下谷伊兵衛が家屋敷を売り払い、大仏北斗町龜屋大助方に引き取られること二付、人別送りの事。【備考】包紙上書「天満屋伊兵衛 引取一礼 竜通並一同人より町内へ敷願書を通」。包紙一括2084-1～2。	堅紙1通(1紙)	27.5*	35.2
048 4037	嘉永4年亥10月	永代売渡申家屋敷之事(控)	売主 天満屋伊兵衛 印・吹拳人 西村屋栄五郎 印・西洞院松原上丸町 売請人 山形屋留善 印→年寄次兵衛・五人組町中	中大坂町西側の老ヶ所(老軒役)のこと、要用二付、町中に売り渡し、銀子を請取。【備考】明和4年亥年沽券改めの写しを貼る。	堅紙1通(1紙)	24.7*	34.7
049 4041	嘉永4年亥10月	永代売渡申家屋敷之事	右伊兵衛曾孫友次郎事 売主 天満屋伊兵衛(印)・吹拳人西村屋栄五郎(印)・西洞院松原上丸町 売請人 山形屋寅吉(印)→年寄次兵衛殿・五人組町中	中大坂町1軒役屋敷銀3貫800目で町中へ売渡しにつき証文。明和4年11月沽券改の際持主。町役人より町代へ天教の一礼写を貼付。	堅紙1通(2紙)	24.9*	34.9
050 4042	嘉永4年10月	永代売渡申家屋敷之事	売主町中・年寄山田屋次兵衛(印)・五人組健屋喜兵衛(印)、他2人→龍屋所兵衛殿	鳥丸通五条下丸二町目中大坂町東側の町中持家屋敷の永代売り渡し証文。	堅紙1通(1紙)	24.9*	34.0
051 1084 05	嘉永5年子12月	引取申一礼之事(近江屋雪吉方同居為人引取二付)	不明健屋町下丸町 引取人藤屋佐介(印)・本人為人(印)→家主龍屋平兵衛殿	龍屋平兵衛家に借宅の近江屋雪吉方同居していた為人について、御公儀様より御吟味があり心配をかけたが汚端事済になった。為人と同人所持の品々を藤屋佐介方で引き取る旨の一礼。	切紙1通(1紙)	28.0*	41.0
052 1084 04	嘉永6年丑6月	引取申一礼之事(中路正五郎引取二付)	通室町西へ入丁引取人白屋義兵衛(印)・本人中路正五郎(印)→中大坂町 御年寄次兵衛殿	町中持家に借宅していた中路正五郎の家内道具等を白屋義兵衛方へ引き取る。	切紙1通(1紙)	25.0*	34.5
053 1084 03	嘉永6年丑12月	引取申一礼之事(家持鍵屋いち引取二付)	御馬場御栗師上丸町 引取人 健屋太助(印)・健屋いち(印)→鳥丸通五条下丸町式丁目中大坂町 年寄治兵衛殿	家持の鍵屋いちと申す者、要用に付、家屋敷を御町へ売渡し、いちと諸道具共を健屋太助に引き取る。	堅紙1通(1紙)	25.0*	34.8

整理番号	調査時期	年月日	文書名	提出・宛名	内 容	形状	頁数	法量
054	2135	嘉永6年12月	一札(鍵屋いち家屋敷売渡し二付)	御馬場御薬師上町 売請大御屋太助(印)・売主鍵屋いち(印)・証人津国屋清助(印)→鳥丸通中大坂町 年寄治兵衛殿・五人組町中	鍵屋いちが所持している家屋敷を御町中へ売り渡す。諸名目の金銀や内借等の掛り合いや他所からの出入等は一切ない旨などを記す一札。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 40.5	
055	1084	06 嘉永7年寅7月	引取申一札之事(鈴木直次郎引取二付)	速水精五郎(印)・鈴木直次郎(印)→中大坂町御年寄・御町中	中大坂町に借入している鈴木直次郎について、勝手に付、家内道具共を速水方へ引き取る旨の一札。	切紙 1通 (1紙)	24.2* 34.8	
056	1065	安政6年7月11日	永代売渡申地屋敷事(町中所持地屋敷二付)	売主町中・年寄 西村屋栄五郎(印)・五人組 山田屋治兵衛(印)・吹巻人 龍屋平兵衛(印)・町中惣代 山田屋理三郎(印)→越後屋喜左衛門殿へ	中大坂町東側一軒役の地屋敷、建物類焼につき銀5貫800目にて売渡、但、買得した節は家屋敷であつたが、去年6月地屋敷のみである。	堅紙 1通 (1紙)	25.1* 33.8	
057	1085	05-3 安政6年末12月	一札(丹波屋善兵衛所持地屋敷売渡二付)	西中筋花屋町下町 売受人銭屋平助(印)・売主丹波屋善兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 年寄栄五郎・五人組町中	丹波屋善兵衛の所持する地屋敷を軒役を中大坂町町中へ売り渡す。【備考】1085-5-1～3包紙一括。	堅紙 1通 (1紙)	28.2* 43.2	
058	2052	02 万延元年申閏3月	永代売渡申地屋敷之事(町中所持家屋敷二付、控)	売主町中年寄 西村屋栄五郎・五人組 山田屋次兵衛・五人組吹巻人 平兵衛・町中惣代 越後屋喜左衛門→	町中が所持していた地屋敷を、代銀3貫目で其方へ売渡し銀子を請取り、御割印沾券状を渡した旨の永代売券状。【備考】2052-11に挿入。	切紙 1通 (1紙)	24.3* 34.6	
059	2052	03 万延元年申閏3月	永代売渡申地屋敷之事(町中所持家屋敷二付、控)	売主町中年寄 西村屋栄五郎・五人組 山田屋次兵衛・五人組吹巻人 平兵衛・町中惣代 越後屋喜左衛門→	町中が所持していた地屋敷を代銀800目で其方へ売渡し、銀子を請取り、御割印沾券状を渡した旨の永代売券状。【備考】2052-11に挿入。	切紙 1通 (1紙)	24.2* 34.7	
060	2052	01 万延元年申10月	永代売渡申地屋敷之事(町中所持家屋敷二付)	売主町中年寄 西村屋栄五郎(印)・五人組 山田屋次兵衛(印)・町惣代 越後屋喜左衛門(印)→丹波屋保三郎殿	町中で所持していた地屋敷を要用に付、銀2貫300目で其方に売渡し、銀子を請取った。御割印沾券状を渡す。文久元年8月17日付のものまで、合計6点の永代売券状の写。	堅紙 1綴(6丁) 17.5	25.6* 17.5	
061	2054	02 慶応1年丑8月20日	永代売渡申地屋敷之事(山田屋次兵衛家屋敷二付)	売主 山田屋次兵衛・年寄 河内屋半兵衛・五人組 粉屋半兵衛、他2名→白地田内屋伊三郎殿	要用に付、2ヶ所の地屋敷を売渡す事。附として今までの売買の履歴を記す。	堅紙 1通 (1紙)	24.7* 34.4	
062	3077	明治3年10月(日未詳)	明治3庚午閏10月改メ券状控	下京拾六番組鳥丸通中大坂町・中大坂町年寄川田平兵衛・五人組頭山田治兵衛・中年寄八木清兵衛・添年寄遠藤九右衛門・本年寄松本治郎兵衛→	中大坂町川田平兵衛以下の持主の土地屋敷、16軒分の券状控。	堅紙 1冊 (10丁)	24.1* 17.0	
063	2154	明治3年庚午閏10月24日	議状之事(山中志加家屋敷二付)	議主 山中志加→鳥丸通中大坂町 年寄川田平兵衛殿・町中	当町の我等が所持している家屋敷2ヶ所を、仲の治兵衛へ譲り渡す旨を記す議状。【備考】他「議状之事」2通。差出は山中治兵衛、所持する家屋敷2ヶ所を、自らの死後は母志加と従弟いくに譲る旨記す。	堅紙 1綴(2丁) 17.0	24.3* 17.0	
064	3084	(明治3年) 庚午(閏10月24日)	【家屋敷譲二付添状】	議り主山中志加・死後二付山中治兵衛・年寄川田平兵衛→	唐宅2ヶ所を譲る際の議状と願書の添書の写し。かつ、町役が23日朝5ツ時に出頭した旨、24日早朝に願書と議状の写しを提出した旨を記す。	切紙 1通 (1紙)	24.2* 24.7	
065	1058	03 明治3年閏10月	議状之事(山中治兵衛家屋敷二付)	議主 山中治兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄川田平兵衛殿・町中	当町に我等所持の家屋敷2ヶ所を、我等死後、母しか、従弟いくの兩人へ譲る。【備考】朱割印有。	切紙 1通 (1紙)	28.1* 40.5	
066	1058	04 (明治3年閏10月)	議状之事(山中治兵衛家屋敷二付)	議主 山中治兵衛(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄川田平兵衛殿・町中	当町に我等所持の家屋敷2ヶ所を、我等死後、母しか、従弟いくの兩人へ譲る。【備考】朱割印有。	堅紙 1通 (1紙)	28.1* 40.6	
067	1058	05 明治3年閏10月	議状之事(山中しか家屋敷二付)	議主 山中しか(印)→鳥丸通中大坂町 御年寄川田平兵衛殿・町中	当町に我等所持の家屋敷2ヶ所を、卒治兵衛に譲り渡す。【備考】朱割印有	堅紙 1通 (1紙)	28.1* 40.7	

整理番号	調査	技術	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
068	2119		明治3年庚午閏10月	「家屋敷譲り三付割印願」	下京拾六番組鳥丸通 中大坂町 年寄川田平兵衛・五人組金井喜右衛門・議主山中志加→	山中志加所持の家屋敷2ヶ所を伴治兵衛へ譲り渡すことを町中へ議状を差出したので、御割印を願う。同月付で治兵衛の死後は、母志加と従弟いくの西人へ譲る旨の割印願を記す。	堅紙1綴 板綴(2丁)	24.4* 16.8	
069	3068		明治(3) 庚午年11月8日	券状	持主山中次兵衛・印・年寄川田平兵衛 印・佐組頭今井喜左衛門 印・中年寄八木清兵衛 印・添年寄遠藤九右衛門 印・大年寄松本治郎兵衛 印	山中次兵衛所持の家屋敷四軒分の改めのための「券状」を綴ったもの。【備考】奥に9日付の割印願いとして中年寄八木清兵衛と添年寄遠藤九右衛門の印、10日付奥印として大年寄松本治郎兵衛の印が4件とも有る。	堅紙1綴 綴(4丁)	24.3* 16.8	
070	3069		明治3年庚午霜月	「活券状写」		鳥丸通五条下ル式町目中大坂町西側の家屋敷の活券状の写し。新築に改める際に作成した。明和四年から天保六年の間の奈良屋嘉兵衛から、山田屋治兵衛の手に渡るまでの持主等がわかる。	堅紙1綴 綴(7丁)	24.4* 17.2	
071	2022		(年月日未詳)	「中大坂町家並軒役図」	下京式拾三番組鳥丸通五條下ル式町目中大坂町→	楊梅通以南の鳥丸通に面した17軒役の家並図。軒役・間口・裏行・家主名記入。【備考】フセシ多敷11ヶ所20枚ほど。ほぼハガレ。要注意。	堅紙1枚 役・間口・裏行・家主名記入。【備考】フセシ多敷11ヶ所20枚ほど。ほぼハガレ。要注意。	26.3* 38.3	
072	4040		(年月日未詳)	「証文断簡」	売主右ろく尊孫岩田屋六左衛門(印)吹挙人丹波屋義兵衛(印)売請人間之町御池上町万屋徳兵衛(印)→年寄喜兵衛殿五人組町中	差出・宛名のみ。【備考】4039の活券状の続きか。前欠。	堅紙1通 (1紙)	24.7* 34.8	
073	4160		(年月日未詳)	「付札」		「三 一八一七地所」内、「一、木村」から「四、平井」まで4名の名前の記載有。	切紙1枚	4.8*1 0.1	
074	4161		(年月日未詳)	「付札」		「壱軒五分役」帳面より糊剥れか。	付札1枚	3.9*1 3.9	
075	4162		(年月日未詳)	「付札」		「三 九 五地所」とあり。	付札1枚	5.8*1 .4	
076	4163		(年月日未詳)	「付札」		「八分役」帳面より糊剥れか。	付札1枚	3.7*1 .2	
077	4164		(年月日未詳)	「付札」		「壱心九分役」の記載有。	付札1枚	4.3*1 .3	
078	4165		(年月日未詳)	「絵図付札」		「床△・辻堂○・番部屋□」の記号表示。	付札1枚	5.9*4 .1	
079	4166		(年月日未詳)	「庭垣用材員数代銀書付」		断簡。「庭垣分□」の用材等の寸法と値段。	付札1枚	10.8* 4.1	

Ⅵ 中大坂町 4 町運営・自治

整理番号	調査	技番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2026		元禄3年午種月13日	四ツ辻極メ一札之事	鏡屋町 年寄守兵衛(印)・下大坂町 年寄四郎兵衛(印)→中大坂町 年寄平四郎殿	五条鳥丸下ル式丁目の四ツ辻で口論があっても、3町が立会で静める。捨物はすべて3町相談の上で、少しでも近い方の年寄が御公儀様へ報告する、入用の際は3町で等分することなど記した一	堅紙1通 (1紙)	31.5* 43.8	
002	4005		元禄3年極月13日	四ツ辻極メ一札之事	上大坂町 年寄勘兵衛(印)・横瀬助町 同治右衛門(印)・同彦右衛門(印)→中大坂町 年寄平四郎殿	五条鳥丸下ル四ツ辻で口論や捨物があれば三町の内近い方の年寄が公儀様へ届出ること。入用は割付、火事には互いに駆付けて鎮めること。	堅紙1通 (1紙)	28.9* 39.0	

整理番号	整理	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
003	4134	文化11年7月	番銭集々覚	烏丸通中大坂町年寄	烏丸通中大坂町の番銭集めの帳等。【備考】前半28枚程紙縫としてある。	横帳 1冊 (56丁)	12.0* 34.5	
004	4091	文化14年12月	申合(町代公訴二付連印状写)		町代示方一件公訴申につき、町中懐み、寄合等質素に努め何事も穏便に心付ける町内一統の申合せ。	堅紙 1通 (1紙)	24.4* 34.1	
005	4132	文政10年7月改日	毎月番銭集帳	烏丸通中大坂町	町内各家ごとの番銭徴収台帳。(文政10年)亥七月から(天保2年)卯七月まで。	横帳 1冊 (78丁)	12.0* 34.1	
006	2025	天保10年4月19日	豊(佐和屋しん跡片付料受取二付)	別家惣代 佐和屋半兵衛→烏丸中大坂町 御年寄様・御町中	佐和屋しん、昨年より病氣難治のため別家中より親類山田屋次兵衛へ頼んだが調わず、町内へ頼っていたところ死去。その片付け料として御町内より御取計いぐだされ金200疋受取のこと。	堅紙 1通 (1紙)	24.8* 33.6	
007	4133	天保15年正月	毎月番銭集帳	文三郎	辰正月～酉(嘉永2年か)年分「岩六」「天イ」「円善」ら9軒程より集金。	横帳 1冊 (48丁)	12.5* 34.4	
008	4144	天保15年9月吉日	町内諸入用集帳	烏丸通中大坂町	天保15年9月20日から嘉永2年8月14日までの町内の入用のものを書いた帳面。	横帳 1冊 (55丁)	12.3* 33.0	
009	4137	弘化3年	出銀勘定帳	烏丸通中大坂町	午4月7日の健屋喜兵衛嘉助養子官途銀8匁1分から亥10月2日健屋平兵衛買得二付振舞料まで。	横帳 1冊 (4丁)	12.6* 34.4	
010	4138	嘉永3年戊正月	毎月番銭集帳	烏丸通中大坂町	嘉永3年正月から同6年7月5日までの番銭について記す。毎月1人集める担当を決め、それぞれから集めた金銭、合計と内訳を記す。初期には西条・南町家・北町家・山麻・天与・山次・丹吉から集めてい	横帳 1冊 (34丁)	12.5* 33.7	
011	4139	嘉永6年7月	毎月番銭帳	中大坂町	丑(嘉永6)年7月～安政3年6月「辰盆前」分まで。	横帳 1冊 (37丁)	13.1* 33.8	
012	4143	安政2年卯7月	町集帳	中大坂町	安政2年7月4日から慶應3年9月までの、御火焚供物料・年頭詣用、算用寄合、御年寄祝儀、町夫、御所人足わりなどの、町入用集金帳簿。	横帳 1冊 (93丁)	11.8* 32.2	
013	2049	慶応4年底3月	[町役名前・町中家持・借家・帯刀人数等書付]	→	上大坂・中大坂・下大坂町の3町組役の名前。裏面に各町の家持・借家・帯刀人の人数を記す。	切紙 1枚	24.3* 14.5	
014	4141	辰9月(年日未詳)	講諸勘定取帳		寅正月以来の初会から六会目までの、寄金・入用等の勘定帳。	横帳 1冊 (10丁)	12.3* 34.4	
015	3008	酉年4月14日	算(町役負担金の明細二付)	坂東屋町行事→山田屋おつる様	家督料・烏帽子料・名替料・御年寄祝儀・御組三人祝儀・御年寄菓子料・御組菓子料・町代竹内へ・同藤井へ・葺料の書上。二軒役分を書き上げ。	切紙 1通 (2紙)	16.0* 38.2	
016	4086 02	(年日未詳)	覚(入用書上)		入用覚。半季寄軒役入費・総区長詰所入用・区長給料・戸長給料・紙墨筆帳燭等にかかった費用を記す。【備考】付箋有。4086-1、-2は一括でない。	堅紙 1通 (1紙)	24.8* 33.1	
017	4140	午～戌(年日未詳)	町出銀不納当座取替控	烏丸通五条下ル式丁目中大坂町	午年からの戌年までの、御千度、彼岸出銭、番銭、町代給分、町夫銀、14日集め、大焚などの出銀の内、不納分の取替帳簿。	横帳 1冊 (9丁)	12.0* 33.6	

VI 中大坂町 5 願書

整理番号	整理	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4089	慶応4年2月	乍忍奉願口上書(雛形)	何町通何町上ル下ル町 何屋何兵衛(印)・年寄誰→	弘化4年12月元御奉行より貸下後の上納金につき、支払困難のため分割願いの旨口上書きの書式雛形。	堅紙 1通 (1紙)	24.3* 17.0	

## Ⅶ 中大坂町 6 金融

登録	調査	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	1085	08	天保15年正月	〔借用証文野簡〕	借り主天満屋ちよ 蔵人伊彦太郎→鳥丸通中大坂町 年寄喜兵衛殿・五人組町中	前欠、1085-07の続きか。	堅紙1通 切紙(1紙)	31.0* 14.5	
002	2084	02	(嘉永4年) 12月9日	歎願之覚(御儀出銭返済滞り二付)	天満屋伊兵衛→中大坂御町中様	町儀出銭の滞り二付、御用捨を願うこと、町中拜借金84両、銀744両は「出附証文」にし、滞利は用捨願うことなど五ヶ条の歎願。【備考】2084-11に巻き込み。包紙一括2084-1～2。	切紙1通 紙(1紙)	16.5* 48.3	
003	1064		嘉永7年7月	証(請金新通帳請取二付)	角菱屋甚兵衛(印)→中大坂御町中	町議の真下栄太郎・同おゆうの掛金請取の通い帳紛失につき、新通帳の掛金請取の旨。	堅紙1通 (1紙)	24.7* 34.4	
004	3087		安政3年3月	覚(町持前請通紛失二付)	八百屋安兵衛(印)→鳥丸通中大坂町御年寄次兵衛殿	中大坂町での持前請掛金請取通い帳紛失につき届。新しい通帳を申し受けるため、以後古い通帳が出たとしても反故とする旨。	切紙1通 (1紙)	15.7* 23.1	
005	1011		安政5年9月	証(請通帳新たに請取二付)	紀粉屋善兵衛(印)→中大坂町 御年寄井御町中参ル	中大坂町持前請の掛金請取通帳紛失につき、新通帳に是迄掛込高請取を調印の上、御渡し、たしかに入手した。	堅紙1通 (1紙)	24.4 *	
006	4079		(明治3年) 辛未3月	元利請取通	中大坂町	明治3年3月29日から、明治7年10月9日までの、樋口保三郎・竹むら哥の貸付金返済帳。	横帳1冊 (2丁)	44.0* 16.2	
007	1015		(年未詳) 辰年5月	乍恐奉歎願候口上之覚 (貸金返済督促二付願書控)	鳥丸通五条下ル武丁目中大坂町 年寄山田屋治兵衛(印)・願人西村屋栄五郎(印→上(町奉行)	昨年極月、近江屋松太郎に商元方仕切金として800両貸したが返済せず。同人は商売繁昌の様子。訴訟したいが印形に不都合があるので、何卒返済を指示してほしい旨嘆願。	堅紙1通 (1紙)	24.5 *	
008	1081		(年未詳) 辰5月	乍恐奉歎願候口上之覚 (貸金返済督促二付願書控)	鳥丸通五条下ル武町目 中大坂町 年寄山田屋治兵衛(印)・願人西村屋栄五郎(印)	昨卯極月に近江屋松太郎へ金八百両を貸渡した。しかし返済の期限に至っては遅滞するので、催促したが埒明しない。さとしてほしいという嘆願口上書。【備考】奥裏「辰五月廿五日朝、栄五郎口候被参候て右一条段々願二付、奥印致候事、ひかへ」。1015と関連。	堅紙1通 (1紙)	24.8* 34.2	
009	1063	1	(年月日未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金17両、利足月5朱、町分積金の内より預り。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.1* 29.4	
010	1063	2	(年月日未詳)	預り申金子之事(町分積金借用二付)		金17両、利足月5朱、町分積金の内より預り。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.4* 31.1	
011	1063	3	(年月日未詳)	預り申金子之事(町分積金借用二付)		金5両、利足月5朱、町分積金の内より預り。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.3* 21.4	
012	1063	4	(年月日未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金17両、利足月5朱、町分積金の内より預り。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.3* 31.2	
013	1067		(年月日未詳)	預り申金子之事(町分積金借用二付)		金5両、利足月5朱、町分積金の内より預り。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.3* 30.7	
014	1085	07	(年月日未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金五兩利足月五朱にて町分積金より借入につき証文。【備考】後欠	堅紙1通 切紙(1紙)	31.1* 30.8	
015	1085	11	(年月日未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金拾七兩(利足月五朱)についての預り証文。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.3* 28.5	
016	1085	15	(年月日未詳)	預り申金子事(町分積金借用二付)		金五兩(利足五朱)を町分積金の内から預かる。【備考】後欠	切紙1通 (1紙)	31.2* 31.2	



整理番号	整理番号	年 月 日	文 書 名	差 出→宛 名	内 容	形状	員数	分量
017	1085	47	(年月日未詳)	[中大坂町中宛証文断簡]	→中 [ ] 年寄喜兵衛殿町中へ参ル宛名部分のみ。【備考】前欠。	縦紙	1通	33.8*
018	2159		(年月日未詳)		請金貸附證文入(包紙)	包紙	1通	44.0*
					包紙のみ。【備考】「請金貸附證文入」。	包紙	1通	32.2

Ⅵ 中大坂町 7 信仰

整理番号	整理番号	年 月 日	文 書 名	差 出→宛 名	内 容	形状	員数	分量
001	3076	02	文化4年改 毎歳御神事料社納之通	稻荷本社社司中(印)→烏丸雪路屋町下中大坂町御年寄御町中	文化四年から明治十年までの神事料の社納通い帳。包紙綴じ込み。【備考】上書「九拾四番 稻荷本社御神事料社納之通烏丸雪路屋町下中大坂町」。	横紙	1冊	15.3*
							(3丁)	47.5
002	4131		文政2年2月吉日 稻荷御本社拾皮寄進物町内店中集帳	中大坂町	「文政二卯年二月方取集毎月出銭定」として、「表店月二銭八文」「裏店月二六文」と定め、巳年までの集銭を記録。	横紙	1冊	11.9*
							(19丁)	32.5

Ⅶ 中大坂町 8 救恤

整理番号	整理番号	年 月 日	文 書 名	差 出→宛 名	内 容	形状	員数	分量
001	4169		万延元年申12月 御困米御用記		御救米御掛り役人衆の名前や、年番交替に至るまでのやりとり、年番町としての勤めを記す。万延元年から文久元年の記事あり。	横紙	1冊	12.4*
							(12丁)	34.6

Ⅷ 中大坂町 9 教育

整理番号	整理番号	年 月 日	文 書 名	差 出→宛 名	内 容	形状	員数	分量
001	3076	01	明治3年正月 拾六番組会社[下京拾六番組小学校積立金請取通]	拾六番組会社(印)→	下京拾六番組小学校の積立金の請取通。「其立金廿五両」の利足日金壹分壹朱、三百七拾五文とし、西正月から戌六月までの請取印有り。【備考】上書「明治三年午正月積立金請取通中大坂町(印)」。	横紙	1冊	15.1*
							(3丁)	44.5

Ⅸ 中大坂町 10 町代改修一件

整理番号	整理番号	年 月 日	文 書 名	差 出→宛 名	内 容	形状	員数	分量
001	4058		文化14年丑8月 町代々條申渡之書	八組年寄中→町代政五郎・助九郎・佐兵衛・甚内・彦兵衛	文化14年3月から8月にかけて下京八組の町代に出された申渡書。年寄役替りのこと、苗字のこと等。【備考】裏表紙に「此本永代町内の起録故、売払候事堅無用事、烏丸通五條下式町目中大坂町」とあり。	縦紙	1冊	24.3*
							(11丁)	17.8
002	4062		文化14年9月 下京八組町代之儀言書	烏丸通五條下ル式丁目 中大坂町	町代勤め方についての下京六組よりの御奉行様宛の言上書。東町奉行御尋への返答書、町代々名より古京御組中宛の御請申上ーれ、計3通の写し。【備考】裏表紙「此本永代記録故売払候事堅無用、時旨文化十四年丑九月改、中大坂町」とあり。	縦紙	1冊	24.5*
							(15丁)	17.4
003	4100		文化14年11月 乍恐口上書 川西九町組樋口町	上下京一統通印→御奉行様	町代争議についての上下京一統が通印により文化14年11月に御奉行様宛で作成した口上書の写し。【備考】裏表紙「中大坂町」。	縦紙	1冊	23.7*
							(9丁)	17.3

整理番号	開番	校番	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	頁数	法量
004	4063		文化15年寅3月16日	下京町代共返答書写	下京町代奥田佐兵衛 印・田内彦兵衛 印・山中永次 印・上京方相兼罷在ル松原政五郎 印→(町奉行)	町人と町代の争いに関して、文化15年寅二月町代が訴状の内容に返答したものの写し。【備考】裏表紙「大坂組 烏丸通 中大坂町」。	堅帳 1冊 (10丁)	24.1*	17.5
005	4061		文化15年5月朔日	下京 乍恐御答書 并別紙口上書	烏丸五條下ル式丁目 中大坂町扣	町代の処遇や前例をめぐる下古京五組年寄中から御奉行様宛の返答書、及び初期の町代一黨の身上についての下古京五組惣代上長組・中丸町組よりの別紙口上書。	堅帳 1冊 (22丁)	24.2*	17.5
006	4121		文政元年10月4日	於御前 町代一件 御調留書	中大坂町	10月3日と10月10日の町代一件についての東町奉行所での取調応答の記録。	堅紙 1冊 (21丁)	24.3*	17.3
007	4066		文政元年寅10月	町代請状之写・町代詫一札之写	古京元川西丸町組樋口町中大坂町 西丸町組 樋口町 中大坂町	上町代彦兵衛から古京元川西丸町組町年寄衆中へ出した請状と詫状の写合綴。【備考】裏表紙「古京元川西丸町組 樋口町 中大坂町」。	堅帳 1冊 (6丁)	25.0*	17.2
008	4098		文政元年霜月	一札簡条之留書	中大坂町→	文政元年の町代詫び状、同年の古京中一札、寅10月23日付(上京拾弐組・下京五組御年寄中様宛)の町代連署覚他、町代改儀一件関連文書の写。	堅帳 1綴 (15丁)	24.3*	17.4
009	4109		文政元年11月	〔町代改儀一件諸證文・触書写綴〕	中大坂町	①文政元年町代格式についての一札、②文政2年年寄交暮の断書案紙、③文化15年の御所役儀御掛灯請取人調べ、④寅2月の町代彦兵衛・甚次郎不届についての通達、⑤文政元年の富似寄流行についての申合、⑥文政元年所司代上京触の合綴。	堅帳 合綴 1綴 (8丁)	25.3*	17.7
010	4057		文政元年12月10日	済状之写	上古京拾弐組年寄(印) 下古京五組年寄(印) 並ニ三組年寄(印) 上京町代六人(印) 下京町代六人(印)→(御上様)	文政元年12月、町代改儀一件の済証文の烏丸通中大坂町による写本。末尾に「右之通ニ而十二月十日、御上様江済状差上相住済申候、以上」とあり。【備考】裏表紙「烏丸通 中大坂町」。	堅帳 1冊 (62丁)	24.2*	17.5
011	4060		文政元年戊寅12月	〔所司代御迎場所ニ付辰巳組訴訟一件書類写〕	中大坂町	文政元年8月からの請状写し。所司代上京時の出迎え場所山科郷御陵村御廟野での席順について下京元川西拾六町組と他の5町組が争った一件の訴状など写。	堅帳 1冊 (38丁)	17.4*	24.3
012	4059		文政2年卯ノ土4月28日	家売買之節町代江差遣し候金子差止め 御触書写	中大坂町	下京の町中で家屋舗を売買する時に町代へ代銀を差遣していたが、多くなったので取り止めること。末尾に「右一件、文化十四年丑八月々上下京一統出訴、文政元年寅冬公事落着、同二年卯閏四月、右御触流し有之候事」とあり。	堅帳 1冊 (4丁)	24.4*	17.2
013	4068		文政3年卯	御案文被下候買得之願書	元川西	三月十六日、東御役所から家屋敷売買について・願書等の御案文が出されたこと二付、写し。2冊の内の一冊。【備考】表紙朱書「三月十六日東御役所様々御案文被下候、帳切之願書、尤手つゞき認振御別紙ニ有之」、表紙墨書「式冊之分」とあり。	堅帳 1冊 (7丁)	25.4*	17.5

VI 中大坂町 11 不明

整理番号	開番	校番	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	頁数	法量
001	1060		天保7年	〔二より付利〕		片端に「天保七年従 天保拾六年迄」と記す。	切紙 1通 (1紙)	18.5*	8.5

番号	調査	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
002	3081		巳年4月10日	(集証文断簡)		前欠、継印あり。「以後前書之通少しも甲分無之候」。	切紙 1通 統紙 (1紙)	24.1*	24.1*
003	1062		(年月日未詳)	[銀かんざし等金物類目方寛]		銀かんざし・懷中筆など金風品目・目方を「一」から「廿」の号付により人別に書上げ。計20名分。	横紙 1綴 借綴 (27)	12.1*	32.5

西山中家 1 地下官人

番号	調査	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	1030		慶応4年3月	[山中主殿帯刀入届書]	鳥丸通五条下ル式丁目中大坂町 寄治兵衛・五人組平兵衛(印)→	「生国山城 禁裏御所御用 山田屋治兵衛事 山中主殿 四十九才」帯刀人として届。【備考】裏「卯辰 御触写、年寄在役中大人用、卯辰 御布告 大入用也」包紙として利用か。	堅紙 1通 (1紙)	24.2*	33.7
002	3022		丑6月	[御所御用・平生所用挑灯雛形写]	山中写→	御用の際用いる菊一御紋の挑灯と、官務家から許された平生用の挑灯の絵図。【備考】包紙上書「御所御用之節之挑灯雛形写 山中」。	切紙 1通 (1紙)	16.9*	40.1

西山中家 2 扇屋仲間

番号	調査	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4097		文化10年酉8月	住吉組三拾三軒甲合写・御奉行様奉差上済状式通写	年行事 河崎屋七取右衛門・山田屋喜右衛門・亀屋嘉兵衛・鶴屋新右衛門・大黒屋久右衛門・佐和屋弥兵衛、他22、休株5名	扇屋株仲間33軒連印のもと守るべき定事の写(奥に「文化15年3月、文政2年正月の譲株3件加筆。」)と、「寛政十〇」年、享和3年に東御役所へ提出した大坂安地紙をめぐる扇屋仲間、紙渡仲間の済状写。	堅紙 1綴 (13丁)	24.2*	17.0
002	4018		嘉永5年子12月	一札〔扇屋仲ヶ間、田舎地紙取次二付〕	紙渡兄頭部井上長兵衛・松浦治兵衛・同北村市郎兵衛・平紙渡惣代菱屋市兵衛→扇屋之内住吉講衆中江	扇屋仲ヶ間内の田舎地紙取次に関する争論。田舎地紙の取次分をめぐり、平扇屋と住吉講衆中の間に争いが起こり、それを仲介する紙渡兄頭部が、今後の取次分や印料についての考えを示す。	堅紙 1通 (1紙)	32.0*	44.0
003	3015		(嘉永6年)丑霜月11日	おほへ	六角近江や伊助→	子團2月14日に、私方で近所へ注文の15000枚の品を、仲ヶ(間)中へ売るといふ目名のもと裏印へ売ったとの伝聞を記す。	切紙 1通 (1紙)	16.6*	24.3
004	3025		嘉永7年4月2日	寛(助)情金請取)	紙渡兄頭部(印)→住吉組衆中	金五両、丑年中の助清金として請取。	切紙 1通 (1紙)	16.0*	15.4
005	2040		安政2年2月	一札〔扇子骨取引方法二付願書〕	大文字屋安兵衛(印)・24名略・大坂屋宗兵衛(印)・油屋五良兵衛(印)計27→	扇子骨仲間が、竹高値のため、従来の7貫600文立での取引から正味銭での取引への改定を訴願したことに対し、7貫600文立金の取引継続を願う扇屋一統の連署。【備考】のりはかれ2ヶ所。	堅紙 1通 (5紙)	24.7*	171・9
006	2043		安政5年3月	〔扇屋仲ヶ間寄合二付約定書〕		仲ヶ間借材のため、寄合入用削減だけでなく1軒分金1歩の出金や寄合席料として1軒分32文出銭とす。無視差支えあり不参の節は断り料50文を出銭すと。	堅紙 1枚 (1紙)	24.4*	34.8
007	2156		安政5年午3月	寛(仲ヶ間)借財方手当金請取二付)	扇仲ヶ間年行事(印)→山田屋治兵衛殿	金巻歩を仲ヶ間借財方手当金として金子請取寛のこと。	切紙 1通 (1紙)	24.3*	11.2
008	3017		(年未詳)神無月17日	〔某書状〕(住吉組書付文案二付)		書付文案につき、別紙の愚案を認めたが、住吉組といふ名目を立て、兄頭様へ対談といふ文言を書き換えるよう願う。今日中に近忠、山田屋にも相談し、返事があるように記す。【備考】のりはかれ。	切紙 1通 (2紙)	16.1*	40.9

整理番号	開書校番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
009	3024	(年未詳)11月6日	口上	近 忠兵衛→山 次兵衛様	仲ヶ間の用書が出たが、追々此方へ向け腰元より指図にて持越、甚だ迷惑。右払方は御貸しになるのか、とても此方から取替えることは出来ないの御相談したいが、持病により他行できず書面で申し上げ、御勘考願う。【備考】端裏「書付御返済」	切紙 1通 (2紙)	16.1* 50.6	
010	3040	(年未詳)12月17日	【扇屋仲間年行事書状】(大上組帳面諸人用二付)	年行事→各々様	大上組六軒の者へ帳面諸人用のことについて引合していたところ、一向に折合がつかないので、仕方なく明18日に出版することになったので案内する。	切紙 1通 (1紙)	16.7* 13.2	
011	3001	(年月日未詳)	【断簡】	池長→扇や御仲間中様	差出・宛名のみ。【備考】前欠。	切紙 1通 (1紙)	16.0* 4.6	
012	2091	(年月日未詳)	御託證札(案)	→(京都町奉行)	無印地紙取扱禁止の御触があったが、田舎無印地紙3600枚を砂子屋の但馬屋徳兵衛が陰謀に持ち帰ったことが露見し、出訴になったことへの御託証文の案。	堅紙 1通 (1紙)	24.3* 34.4	
013	3019	(年月日未詳)	【田舎地紙取扱二付仲間取決書付】		住吉組と紙漉兄頭部との対談をふまえ、田舎地紙の撰な取扱をやめる旨、仲間申し合わせを守ること。3017と関連。【備考】包紙有り。	切紙 1通 (1紙)	22.7* 3.6	
014	3039	(年月日未詳)	【扇子取引御免二付承引之事】	→(御店様)	亀屋清兵衛方への取引について、扇子代銀滞り二付御役所・番所へ願い出て、仲ヶ間内談の上、取引停止になったため安心してほしいということ。またそれについて承引を願う。	切紙 1通 継紙 (2紙)	18.0* 67.5	

四 山中家 3 扇屋経営

整理番号	開書校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	2009	享和元年辛酉9月	一札(扇代銀割返済二付)	西六条花や町西中筋西へ人所 借り主 鏡屋甚右衛門(印)・同油小路北小路下ル町 蔵人 大坂や清吉(印)・東六条魚之店 諏訪町角 同蔵人 樽屋作左衛門(印)→烏丸通鏡屋町上ル町 山田屋治兵衛殿	金銭58貫900文を扇代規銀として取引したが、去年より入用が多く返済を延引していた。その支払の割済についての証文。	堅紙 1通 (1紙)	27.8* 42.5	
002	4093	天保13年4月10日	就御尋口上書	山田屋ししか(印)・代(印)・年寄喜兵衛(印)→	扇値段引下げにつき、扇値段尋ねへの返答書。	堅帳 1冊 (4丁)	24.7* 16.7	
003	4080	弘化2年正月吉日	諸店方勘定	「」 哥店→	扇骨、出来扇など、扇屋諸店での扇地・材料・本数などの書上勘定書。	横帳 1冊 (24丁)	12.1* 33.3	
004	4126	嘉永7年正月	小口集帳	八(山)二店	嘉永7年寅3月から明治20年までの集帳帳。3月・5月・7月(盆前)・9月・中仕切・12月の定期に、下之町大新・室町境屋・福島・小松安・近宗・塗師善・田中・小松谷正林寺・米山・徳林院・五条近五などから集金する。	横半 1冊 (42丁)	11.7* 15.6	
005	4127	(嘉永7年)寅3月	集帳	八(山)二店	嘉永7年3月から明治32年までの金銭の覚。大平・有藤など長年にわたって記載のある者も存在。3月・5月・7月・9月・中仕切り・12月と各年記載。	横半 1冊 (198丁)	11.7* 16.2	
006	4081	寅年8月31日		森重→烏丸 山治様	(前欠)九日、十日、十一日、十七日、廿二日分の「大丸」「寿丸」などの扇の本数、代金勘定書。	切紙 1通 (1紙)	16.5* 45.0	

登録・圖書・技書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
007 1002	平3月3日	「金子勘定寛」		「12貫660文 十の八 梅郷丸」他、平年三月三日改の時点で、572文不足。【備考】端裏書「西采門 歎願之ひかへ」。	切縫 1通 紙 (2紙)	16.8 *	16.8 *
008 3038	(年未詳)4月24日	「扇子見本持参承引之事 二付書状」	中条支店→山中治兵衛様御中	今朝御手代衆出張し、以前扇子見本を持参されたが風情がなく御覧下さい。当店の得意先へ見せたところ、極上等の三四本だけ望み居られるがまだ引合なく、見本より上等の物を一覽したい云々。	切縫 1通 紙 (2紙)	16.5*	16.5*
009 3011	(年未詳)5月4日	寛(紙数・直段二付)	若源→八(山)二様御店	「三七 天凸印」「三式 口天印」などの種別ごとの紙直段・枚数の書き出し。	切紙 1通 紙 (1紙)	13.3*	13.3*
010 3041	(年月日未詳)	寛(平中紙貸し出し二付)		「一、平中三千枚」を先達って御貸申上げると記す。【備考】後欠。	切縫 1通 紙 (1紙)	16.0*	16.0*

匹山中家 4 金銭

登録・圖書・技書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001 4004	寛政10年平3月	借用申一札之事	借り主 松屋伝兵衛(印)・建仁寺町松原上ル町 請人 八文字屋助七(印)→山田屋次兵衛殿	銀15貫500文、但抵当分を差し引き拾壹貫500文の借用証文。亥年2月までに返済することとし、今り返済できなかったことを詫び、「出世(精)」による返済を約束。	堅紙 1通 紙 (1紙)	28.0*	28.0*
002 2166	寛政10年10月	借用申金子之事	伏見上坂橋升屋町 預主木屋五兵衛・同伴傳兵衛・京東寺内材木町 謹人鍵屋五郎兵衛→天満屋伊兵衛殿	寛政10年10月の借用申金子之事、文政元年9月の借用申金子之事、文政13年6月の崩議文之事、以上3通を綴じたもの。いずれも天満屋宛。	横帳 1綴 紙 (27)	12.0*	12.0*
003 2035	文化2年7月	「貸附証文奥書」	長香寺貸附支配役人(印)→	右証人の通り日限を守り取立てて渡す旨、奥書の部分のみ。表裏印有。【備考】前欠。	堅紙 1枚	33.0*	33.0*
004 4035	文化2年7月	奉預御銀之事(関東御寄付祠堂金借用二付)	松原新町西入ル町 光國寺(印)・間之町五条下ル町 義連寺(印)→長香寺御役者中	銀380目、関東御寄附なされた御祠堂金の内、この銀兩を我々連判にて借用預る。後欠。	堅紙 1通 紙 (1紙)	33.0*	33.0*
005 2092	文化12年3月24日	入置「申一札」之事	吉原揚屋町 当人 四郎兵衛(印)→京都山田屋治兵衛殿	金14両1分2朱の内、金5両を来ル6月晦日までに、残り1貫7月までに返済することを記す。【備考】原題一部欠損のため。】内は本文中より推測。	切紙 1通 紙 (1紙)	32.4*	32.4*
006 1008	文政元年12月	「某証文断簡」	万屋長兵衛(印)→山田屋次兵衛様へ	【備考】日付・差出・宛名のみ。	堅紙 1通 紙 (1紙)	26.9	26.9
007 2019	文政10年亥3月	預り申金子之事	村井織部(印)→山田屋次兵衛殿	金46両の預り証文。	堅紙 1通 紙 (1紙)	31.3*	31.3*
008 4011	文政10年亥7月	預申銀子之事	丹州山本村庄屋 預り主宇野治郎左衛門(印)・証人宇野市郎兵衛(印)・右同人宇野善左衛門(印)、他4人→山田浄寿殿	銀1貫500目の借用証文。奥書に「1ヵ月の利息を記す。奥書部分後欠。」	堅紙 1通 紙 (1紙)	28.1*	28.1*
009 4026	文政10年亥7月	預り申銀子之事	丹州山本村 預り主 治郎左衛門(印)・同証人 善左衛門(印)・同証人 宇右衛門(印)→山田屋治兵衛殿	丹州山本村治郎左衛門の銀500目の借用証文。【備考】端裏「山本」。	切紙 1通 紙 (1紙)	32.4*	32.4*
010 4023	文政10年8月	地賃証文之事	上徳寺塔頭 徳林院(印)・同寺役者 泰栄院(印)・徳林院檀中惣代 山田屋次兵衛(印)→近江屋仁兵衛殿	当院地面の内、地元の東西3間半、南北5尺の間を仕切り、相對により当亥年から20ヶ年の間、其計殿へ貸し渡す。【備考】奥裏に割印有、後欠カ。	堅紙 1通 紙 (1紙)	33.1*	33.1*



整理番号	開書校書	年月日	文書名	書出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
011	4030	文政12年2月	奉預御之事(御役所御用銀借用二付)	四条通堀川西入 近江屋次兵衛(印)・足利人(印)・諏訪之町松原上ル 井筒屋善吉(印)、他4名→(山中)	御855匁、御役所御用銀の内、私共連印により、米1月25日限にて預る旨、借用証文。原題空白部「銀」脱力。【備考】後欠。	堅紙1通(1紙)	33.5* 48.3	
012	4032	文政12年4月	奉預御銀之事(御役所御用銀借用二付)	不明 門通万年寺下ル 荒木屋平兵衛(印)・父伊兵衛(印)・妻こと→(山中)	合銀100貫目、御役所御用銀、私共要用二付預ることに。【備考】奥表に割印有。後欠力。	堅紙1通(1紙)	33.3* 47.7	
013	4029	文政12年丑9月	奉預御金之事(御役所御用金借用二付)	烏丸鍵屋町下ル町 柳屋伝兵衛(印)・妻むめ(印)・烏丸鍵屋町上ル町 柳屋浄照(印)・錦小路富小路東入 若山屋平三郎(印)→(山中)	金5匁の借用証文。御役所御用金の内、要用のため連印を以て借用する。来年度2月25限りまでに返す。【備考】奥表に割印有。後欠力。	堅紙1通(1紙)	33.5* 48.2	
014	2085	文政12年丑12月	預り申金子之事	村井織部(印)・妻志ん(印)→山田屋次兵衛との	金30匁の預り証文。	切紙1通(1紙)	33.1* 32.0	
015	4034	文政12年12月	奉預御之事(御用銀預証文)	長堅寺(印)・大泉坊(印)・上徳寺(印)→山田屋次兵衛殿	役所御用銀金7匁預りにつき。原題空白部「銀」脱力。要用につき金20匁預り、来る16日返済のこと。	堅紙1通(1紙)	33.1* 47.8	
016	2011	文政13年6月13日	預り申金子之事	預主佐和屋弥兵衛(印)・同蔵之助(印)→山田屋次兵衛殿	金8匁、御役所御用金、其許御引請の内を我等要用につき借用御預りする。【備考】奥表に割印有。後欠力。	堅紙1通(1紙)	33.1* 31.6	
017	4031	天保2年5月	預り申御用金之事(御役所御用金借用二付)	新町御前通下ル町 樽屋半三郎(印)・妻ふじ(印)・西中筋花屋町下ル町 樽屋半兵衛(印)・妻まつ(略印)→(山中)	金1匁の借用証文。	切紙1通(1紙)	33.2* 35.8	
018	4027	天保2年8月	預り申金子之事	預り主 川口屋庄次郎(印)→山田屋次兵衛殿	金1匁の借用証文。	堅紙1通(1紙)	30.8* 42.5	
019	2012	天保4年正月	一礼之事	佐和屋弥兵衛(印)・父宗三郎(印)→山田屋治兵衛殿	金4匁を前借りしたので、返済は作事手間代で御引方借請の連印も断られたので改めて迷惑かけない旨確認の一例。	堅紙1通(1紙)	27.9* 33.4	
020	1018	天保6年未11月1日	借用申金子之事	借り主 近江屋源助(印)・烏町建仁寺町東入町 証人 大塚屋吉右衛門(印)→山田屋次兵衛殿	金4匁を前借りしたので、返済は作事手間代で御引取り。1人分に付8分ずつ皆済まで御引取り。この度、仕切勘定下され儘に請取った。1人もそちらに違わすことはしない。方一の時は我等が必ず説明に行く。	堅紙1通(1紙)	24.8* 34.4	
021	2031	天保6年未11月	寛(仕切勘定金請取二付)	近江屋源助(印)→山田屋次兵衛殿	金30匁の預り証文。	切紙1通(1紙)	24.3* 27.2	
022	1010	天保8年酉7月	預り申金子之事	丸屋源太郎(印)・丸屋新助(印)→山田屋お鹿様・文三郎殿	金30匁の借用証文。返済は、当10月25日限に元利共返済するとの当人奥書有り。	堅紙1通(1紙)	27.9* 42.5	
023	4022	天保8年7月	預り申金子之事	丸屋源太郎(印)・丸屋新助(印)→山田屋お鹿様・同文三郎様	金1両2歩、必死難逃のため喜兵衛を仲人として貸し渡し下され、儘に借用した。我等「出世次第」に返済する。	堅紙1通(1紙)	28.0* 41.7	
024	4013	天保9年戌正月14日	差入申一礼之事	出人 佐和屋弥兵衛(印)・證人 大坂屋喜兵衛(印)→山田屋治兵衛殿	金40匁当座借用につき、返済は、来々8月5日限りとする。	切紙1通(1紙)	24.2* 22.0	
025	2042	天保11年子7月	預り申金子之事	丸屋源太郎(印)・母ふさ(印)→山田屋治兵衛殿	金1両2歩の借用証文。無利足。この度、崩しのごことを願ひ入れ、当月から金2朱宛差入れる旨奥書有。	堅紙1通(1紙)	28.5* 42.8	
026	4025	天保12年9月	預り申金子之事(萌済証文)	竹屋友吉(印)・妻(印)→山田屋治兵衛殿	大仏境内下榎屋町南側の家屋鋪壹ヶ所分を担保として、家屋鋪分の賃高銀四匁百目を借用する。来々11月25日までを期日とし、滞れば家を売り払う。【備考】端裏「丑十一月限 大和弥」。宛所無。	堅紙1通(1紙)	33.2* 43.1	
027	4033	天保12年丑9月	家賃証文之事	大仏境内下榎屋町 借主 大和屋弥兵衛(印)・妻うた(印)・右同町 証人 伊勢屋善兵衛(印)他2名→				

整理番号	調査年度	年月日	文書名	提出元	内容	形状	頁数	法量
028	2029	弘化3年7月11日	寛(金子借用二付)	小堀主馬→山中主殿様	金百足を相違なく拜借した。	堅紙 1通 (1紙)	24.9* 33.0	
029	2021	嘉永元年申8月	崩證文之事(借金割返済二付)	東寺内高金町 河内屋四郎兵衛(印)・父権門 宗義(印)・妻さく(印)→山田屋三郎殿	金11両3歩の崩證文。天保8年に金17両を月7朱の利息で借受、同12年に無利息に崩済になったが支払いが滞っており、来年9月・12月に都合1両を支払い、その残金を半季毎に2歩ずつ皆済まで支払う旨が記されている。	堅紙 1通 (1紙)	27.7* 41.3	
030	4019	嘉永2年酉9月	崩證文之事	天満屋伊兵衛(印)・妻起さ(印)・忖熊次郎(印)・同万次郎→(欠)	過去の借用分都合17両3歩2朱から今後差し引きをし、残金拾四両式朱とする崩證文。格別の勘弁を以て毎月金貳朱ずつに変更することを記す。【備考】後々のため宛名未詳。	堅紙 1通 (1紙)	31.2* 39.4	
031	4028	嘉永2年9月	借用申銀子之事(崩済証文)	天満屋伊兵衛(印)・妻起さ(印)・忖熊次郎(印)・同万次郎→山田屋志か殿	元銀3貫目の銀子借用証文。今回格別の御勘弁を以て滞りを崩済とし、元銀3貫目を改め月3朱とする。	堅紙 1通 (1紙)	31.1* 41.0	
032	2005 01	嘉永3年戌5月	借用申金子之事(町儀出錢取替二付)	天満屋伊兵衛(印)→山田屋次兵衛殿・丹波屋善兵衛殿・西村屋栄五郎殿	町儀出錢のため、金貳両壹歩借用証文。【備考】包紙上書「町儀出錢出入二付出納済状之節／取替金三両当礼礼 天満屋伊兵衛」。紙縫一括2005-1〜2。	堅紙 1通 (2紙)	27.7* 77.5	
033	2005 02	嘉永3年戌5月	一札之事(町儀出錢返済二付)	天満屋伊兵衛(印)・妻起さ(印)→中大坂町／御年寄／御町中	御町儀出錢が滞っているため、家を借している鈴木兵五郎より宿料月々壹貫九百文宛を直々に町中へ差し出す。奥書にこのことを承知するものとして鈴木兵五郎の印判アリ。【備考】包紙上書「出錢一条證礼 天満屋伊兵衛・妻起さ」紙縫一括2005-1〜2。	堅紙 1通 (2紙)	27.7* 60.1	
034	2036	安政元年12月	借用申金之事	大和屋治介(印)・証人 山本屋嘉兵衛(印)→山田屋治兵衛殿	金2両の借用証文。返済は来月5月25日限。	堅紙 1通 (1紙)	24.5* 34.7	
035	4020	文久3年3月2日	借用金子之事	徳林院(印)眞善(印)→山田屋治兵衛様・富田屋清兵衛様	金三両の借用証文。	堅紙 1通 (1紙)	27.9* 40.3	
036	3013	丑年3月朔日	寛(金子請取二付)	若源(印)→八(山)二様御店	金20両請取証文。	切紙 1通 (1紙)	16.5* 16.6	
037	1006	丑年7月13日	【受取二付寛】	親口口→山田屋様・御店中様	戻り分入手のこと。【備考】前欠。	切紙 1通 (1紙)	16.0 *	
038	4007	丑9月(年日未詳)	【金子借用証文】	枅屋伝兵衛(印)・妻むめ(印)・枅屋浄照(印)・若山屋平三郎(印)→中銀屋源七(印)→山 治兵衛様	家財一式を抵当に入れ金銭を拝借する。万一返済が遅滞すれば、早速家財一式を売り払う。前欠。	堅紙 1通 (1紙)	33.6* 23.7	
039	3014	う年12月2日	寛(金子請取二付)	中銀屋源七(印)→山 治兵衛様	金壹両請取証文。【備考】差出印判「京都五条東洞院車入 中銀屋源七」。	切紙 1通 (1紙)	16.0* 13.3	
040	3010	辰年正月28日	【借金返済仕法二付差入証文】	池藤(印)→山田屋次兵衛様	大助様が御心を下され引合し、昨年7月かた極月迄の不足2朱で御申し申し上げ、当年正月・2月分、金1歩差上げた。以後節季度に金1歩ずつ差し入れる。	切紙 1通 (1紙)	16.3* 19.4	
041	4006	巳2月(年日未詳)	【金子借用証文】	近江屋茂兵衛(印)・兄利八(印)・井筒屋善吉(印)・父善助(印)・妻まさ(印)・松屋吉右衛門(印)・妻さし(印)、他3名→甲治(印)→山治殿	家財一式を抵当に金銭を借用する証文。万一返済が遅れば早速家財一式を売り払うことを記す。前欠。	堅紙 1通 (1紙)	33.5* 24.1	
042	3012	酉年12月28日	寛(金子請取二付)	池田屋藤兵衛(印)・池田屋藤助(印)→山田屋次兵衛殿	金30両受取証文。	切紙 1通 (1紙)	14.7* 12.9	
043	2013	(年未詳)戌9月28日	寛	池田屋藤兵衛(印)・池田屋藤助(印)→山田屋次兵衛殿	金30両を隠に預かった。	堅紙 1通 (1紙)	25.1* 34.4	

整理番号	原簿	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
044	1004		(年未詳)9月7日	寛(借用金残金二付)	小野御殿御用所(黒印「随心院」)→山中様	金15両の利足差引高および、此度金10両請取に上り残金5両となり、丑9月より新証文に改める。「尤、表急用金200疋右之内申請候、生件外様ニ候へハ取立高悉制ニ候得者、段々御入魂之内輸ニ候へハ右之通仕置候」とあり。	切紙 (1紙)	1通	17.8 *
									44.4
045	3016		(年未詳)卯9月7日	寛(金子入手二付)	中銀屋源七(印)→年行事山田屋治兵衛様	藤屋吉兵衛・平野屋浅七から金子を入手。【備考】差出印判「京都五条東洞院東入 中銀屋源七」。	切紙 (1紙)	1通	16.0*
046	3018		加極月29日	【寛】(支払残金借用願二付)	中銀や源七→山中御氏様	金6両3分3朱のうち内金3両3分3朱差上げ、残り3両は一寸借用するよう願う。	切紙 (1紙)	1通	15.8*
047	2032		(年月日未詳)	証(御室御所御用銀完済二付)		御室御所御用銀を拝借した際、引当として差入れた沽券状が、去子3月に焼亡したため、新沽券状を差入れ、この度御用銀を返済したので、万一後日に証文が出てきても反古とする。【備考】端裏「御金額・所在地・名前を記す。25軒分。貸し付け金聞保か。」	切紙 (1紙)	1通	26.8*
									27.0
048	2165		(年月日未詳)	新印札并證文下シ			折紙 (1紙)	1通	24.5*
049	4008		(年月日未詳)	【銀借用証文】	荒木屋平兵衛(印)・父伊兵衛(印)・妻こと→	右の通、所持する某物を抵当とし御銀高を拝借。万一反済滞れば各引当を売り払い、代銀を返済に宛てる。前欠。	堅紙 (1紙)	1通	33.4*
									24.2
050	4010		(年月日未詳)	【両替代り金・当取引金皆済証文案】	→竹原屋弥兵衛様・永原屋久兵衛様	竹原屋・永原屋の両替代り金・当取引金のうち金105両佐和屋へ振替るも65両2朱残金のまま佐和屋失踪、証入ら32両2分1朱返済にて皆済とする。	堅紙 (1紙)	1通	24.9*
									33.8
051	4021		(年月日未詳)	【銀子借用証文案書】	預り主庄屋宇野治郎左衛門(印)・証人宇野市郎兵衛(印)・同野宇野善左衛門(印)、他4名連印→山田浄寿殿	(前欠、奥書のみ)六ヶ月分銀五拾四匁宛を先納で渡す。格別の思召しで借用した銀子ゆえ、元利共に約束の通返済する。【備考】裏継印有。	堅紙 (1紙)	1通	28.2*
									40.2
052	4024		(年月日未詳)	預り申銀子之事(写)	丹州山本村預り主 庄屋次郎左衛門・同佐太夫、他5名→	銀2貫目の借用証文写。	堅紙 (1紙)	1通	31.5*
									47.3

Ⅷ 山中家 5 某証文

整理番号	原簿	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
001	2028		(年月日未詳)	【某証文簡簡】	天満屋与兵衛(印)→山田屋しか殿	本文欠損。【備考】前欠。	切紙 (1紙)	1通	31.1*
									13.1
002	2153		(年月日未詳)	【某証文案書】	上徳寺(印)→	本文欠損。上徳寺の奥書のみ。「右本文之趣致承知向を慥に受取る。以後何様のことあつても御も申分相違無之候為念奥書如件」【備考】前欠。裏継印有。	堅紙 (1紙)	1通	32.9*
									10.7

Ⅷ 山中家 6 家族・親族

整理番号	原簿	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
001	2033		天保4年4月	一札(手切金請取二付)	本人 小倉屋里野(印)・親 吟(印)・証人 伏水屋庄兵衛(印)・同 井筒屋清兵衛(印)→山田屋治兵衛殿	丹波屋伊兵衛の取配にて、里野の手切分として金15両を慥に受取る。以後何様のことあつても御も申分ない。奥に、別紙書添の庄次郎の番銭として金千疋を受け取る旨記す。後欠カ。【備考】後欠。	堅紙 (1紙)	1通	24.1*
									33.5
002	4049		天保10年亥9月	預り申金子事	山田屋太助(印)→山田屋お志加殿	金十両の借用証文。	堅紙 (1紙)	1通	23.8*
									31.0

整理番号	整理年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
003	4087	天保13年寅11月	寛(金子借用書)	山田屋太助(印)→山田屋おしか様	金6両3歩借用のこと。	切紙 1通	1紙	24.2*
004	4044	弘化4年6月	一札(大和屋久次郎詫状一件)	大和屋久次郎(印)・妻なを(印)→山田屋しか殿	久次郎が伯母しかに對し、これまでの勝手を詫び、今回の3兩を最後に以後無心合力をしない旨申入一札。【備考】貸入「明治三度中藏稱月新券状御改正二付古沽券差出シ五ヶ所所持古券之写」「山中氏大宝物也」。	堅紙 1通 継紙 (2紙)	1紙	27.6* 48・6
005	2017	子(年月日未詳)	一札	親類惣代 万屋忠介(印)→山田屋治兵衛殿	六角室町東入万屋口七伴亀之介勘当につき、諸雜費入用金子1歩受け取る。貴家へ立寄らせぬ旨一札。	切紙 1通	1紙	24.8* 34.1
006	2030	(年未詳) 巳3月11日	一札(手切金受取二付)	證人いひと・津国屋十兵衛→山田屋治兵衛殿	金子5兩を手切金として隨に請取った旨の一札。	切紙 1通	1紙	24.2* 32.5

孤山中家 7 中路一件

整理番号	整理年度	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	2004	15 (嘉永3年)5月25日	寛(諸品六品書上)	廣あい→大坂町様	碗・梅干壺・火箸・小次入・提灯など、他にふどんのこと、宜敷御頼み申し入れる。買入れの依頼か。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	1紙	15.7* 24.6
002	2004	02 日 (嘉永5)子年9月12日	寛(中路・広あい取替等諸代銀書上)		子9月から丑正月までの、雜用御酒、あら松取替。茶碗むし、入用御酒、ろうそく、儒伴染代など、広受取替、中次より取替の金銭算用。【備考】包紙一括2004-1～16。	折紙 1通	1紙	23.6* 32.3
003	2004	13 24日 (嘉永6年)丑年4月24日	寛(坂本屋卯兵衛實物元金高二付)	山崎屋又兵衛→中大坂町様	坂本屋卯兵衛殿の實物、嶋縮面・黒色丹せん、花色口など三点の元金高を記す。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	1紙	16.4* 26.4
004	2004	03 (嘉永6年)4月27日	寛(實物元利金勘定書)	山さきや店→	子癸月29日、丑正月26日、同28日分の、實物・元利金の書上げ。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	2紙	15.8* 51.4
005	2004	07 (嘉永6年)4月28日	寛(中路・広愛金銀貸借二付)		「金五両 中路さかし、七拾五匁ト老ノ四百五拾文、同人ら取かへ」、など、金銭貸借算用書付の写。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	2紙	16.1* 56.8
006	2004	05 (嘉永6年)5月7日	[広あい書状]	廣あい→山田屋様	昨日参り、御目にかかり、その節に御申しの、「はおりの御事」について。【備考】包紙上書「山田屋様急用事 廣あいさし」。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	3紙	15.8* 63.8
007	2004	11 21日 (嘉永6年)丑年5月21日	寛(借金指引高算勘書)	藤屋儀兵衛→上	子霜月29日の元金4両につき、元利差引金4兩1分210文となり、丑3月4日に、請出しとなる。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	2紙	15.5* 28.4
008	2004	08 22日 (嘉永6年)丑年5月22日	寛(古手代金受取書)	大坂屋嘉兵衛(印)→鳥丸御年寄様	金11両半、中路震古手代金として隨に受取る。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	1紙	15.6* 17.4
009	2004	12 22日 (嘉永6年)丑年5月22日	寛(中路借金残高勘定書)	近江屋佐助(印)→中大坂御町様	中路股分の金銭高の勘定書。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	1紙	16.4* 23.6
010	2004	14 嘉永6年5月22日	寛(中路股分受取書)	近江屋佐助(印)→中大坂御町中様	中路股分として金5兩1分2朱を、御町中様の厚配により、隨に受け取る。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙 1通	1紙	17.4* 23.7

整理番号	調査年度	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
011	2004	01	(嘉永6年) [中路・広あい取替等諸代銀書上]		中路・廣あいよりの取替・かし、外二ふとん、夜具、傘・置こたつなどの代銀書上。【備考】包紙上書「嘉永六丑年九月三日、中路一件書類」。包紙一括2004-1～16。	折紙	1通 (1紙)	23.6* 32.5
012	2004	04	(嘉永6年) [中路縁段二付書付]		天津土百石町道具屋油屋吉兵衛・坂本生源寺陸奥守らが世話し、柿沢松和と中路との引合わせにつき、油屋を使に差遣す。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙	1通 (1紙)	16.6* 17.8
013	2004	10	(嘉永6年) 覚(借金指引高算勘書)		丑2月・3月迄の借金の口数、利足、中路かかし分の合計、金17両2分5朱ト3貫文984文と18両1分の差引高を記す。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙	1通 (2紙)	16.2* 55.9
014	2004	16	(嘉永6年) 覚(中路より取替物二付)	→	端に「丑参月廿一日、巳ノ刻中路方差出し被申候書付之控」と記す。「取替物之宛」として小倉男番地・真綿地など九品、「先方分かし持覚」として左入作茶茶碗・宗入作黒茶碗など七品の書上げ。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙	1通 (3紙)	16.3* 93.8
015	2004	06	(年月日未詳) [小重箱引合二付書付]		梨子地小重箱 四重(但し箱入)につき、別紙書付により引合せたところ、私方にはないので左様承知を。外品は残らずあります。金11両3分也。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙	1通 (1紙)	15.6* 16.5
016	2004	09	(年月日未詳) 廣愛方差出し申候中路かひ之分		ズ高、机引、花ハリ引による差引、百六拾又三分を記す。【備考】包紙一括2004-1～16。	切紙	1通 (2紙)	16.1* 23.1

Ⅷ 山中家 8 家政

整理番号	調査年度	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	3026		文政12年9月 證券(金子借用二付)	小松谷龍著(印)→山田屋治兵衛殿	金拾両の借用議文。	切紙	1通 (1紙)	16.5* 24.9
002	2014		天保6年末11月 一札	近江屋源助(印)→山田屋治兵衛殿	山田屋の作事を近江屋が入念に行う。手間代の支払の方法のことなど記す。	堅紙	1通 (1紙)	24.7* 34.3
003	2034		天保7年5月 一札(普請増金請取二付)	万寿寺新町西入ル丁 大工源助(印)→山田屋次兵衛殿	普請増金20両受取につき、今後外方に普請させても申方無し。	堅紙	1通 (1紙)	24.9* 34.5
004	4142		安政6年正月 御居宅積り書	かしわ治→山田屋治兵衛様	居宅建築のための用材、費用など書上。【備考】貼紙・付箋、多数のはがれ有。	横帳	1冊 (87)	12.7 34.3
005	2168		安政6年末5月吉日 御借家積り書	かしわ治→山田屋治兵衛様	鍵屋町借屋一ヶ所普請の費用・材料など入用を記す。	横帳	1冊 (37)	12.5* 34.3
006	3023		辰年12月 覚(貸金利息書付)		元金50両、辰7月～12月迄、6ヶ月分の利足の書付。後欠カ。	切紙	1通 (1紙)	16.0* 11.4
007	4012		(年未詳)末5月21日 覚[借家普請請負金預り証文]	大工源助(印)→山田屋治兵衛様	金六拾両、但し借家六ヶ所を金高として請取。その内、金拾五両を預る。	切紙	1通 (1紙)	24.3* 25.0
008	3004		(年未詳)6～7月 [代金受取覚等綴]	米忠、鳥丸舎、山政、良兼、なら新、原佐三郎、若奥、武田、井上奥、標庄、近滑、魚竹、山長、和泉竹、他	鯛・日傘・すし・はも等の代金受取書の綴り。【備考】紙縫一綴。	切紙	1綴 (19通)	15.8* 40.3
009	3043		辰12月21日 覚(金子受取二付)	佐和屋新助(印)→山田屋次兵衛様	22両3分3朱について、「連印」の内へ受取。「京六角通東洞院東入ノ佐和屋新助」の印を押す。	切紙	1通 (1紙)	16.2* 16.5



整理番号	調査	年月日	文書名	発出→宛名	内 容	形状	員数	法量
010	3074	04	(年未詳)12月	寛(十二月分領収寛)	大工治兵衛→山中様	12月分の領収書宛。都合、金11円89銭1厘。箱・松などの材木・用途と大工手間人数を記す。【備考】紙縫一括3074-1～6。	切離 1通 紙 (2紙)	16.7* 57.0
011	1031		(年月日未詳)	【家財書上帳】	「番号奈良茶碗20・200目」から「92号シャッボン1・10匁」迄、計18貫56匁の書上。家財等の賃物目録か。	横展 1冊(6 丁)	12.4*	34.2
012	1061		(年月日未詳)	【諸道具代銀書上】	第一号～七十五までの号付けされた、菓子桶、吸物桶、皿、書、画、脇差などの代銀、品名を書き上げ、銀高を記す。	横展 1巻(5 丁)	12.5*	34.3
013	2167		(年月日未詳)	【家屋用材書上】	「妻口住用 丹州52匁 絵1丈4寸5分角 四本」など用材の種類・用途・価格など書上。途中小計5貫529匁2分か。	横展 1巻(5 丁)	12.6*	34.4
014	3006		(年月日未詳)	【新貨交換殘金高書上】	天保小判・古二朱金・文政小判等と新貨の交換率、殘金の書上げ。	切離 1通 (3紙)	16.4*	115.1
015	3020		(年月日未詳)	【進上者二付書状】	先日以来の御苦勞につき進上物のこと、町内用向のことなど。【備考】のりはかれ。	切紙 1通 (1紙)	15.9*	22.5
016	3046		(年月日未詳)	【町家間取図】	北西惣間口七間半余、南となり二間壹尺間口借屋の間取り図。土蔵部分貼紙して別棟小屋。【備考】貼紙のりはかれ。	堅紙 1通 (1紙)	41.3*	31.0
017	4148		(年月日未詳)	【屋敷図断簡】	屋敷平面図の断簡。「口蔵」の部分のみ。	切紙 1紙	11.5*	28.0
018	4149		(年月日未詳)	【書状断簡】	おびやから津久井や新三郎への宛名書きのみ。書状の断簡か。	切紙 1通 (1紙)	15.3*	7.7
019	4150		(年月日未詳)	【台所図面断簡】	失書にて「棚」「井」「ハシリ」「竈ト五ツ吉」	切紙 1通(2 紙)	12.5*	6.5
020	4151		(年月日未詳)	【屋敷図面断簡】	「大釜」「なへ」など。	切紙 1紙	12.1*	16.1
021	4152		(年月日未詳)	【屋敷図面断簡】	「入口」と記載有。	切紙 1紙	18.0*	16.0
022	4158		(年月日未詳)	【讀り状包紙】	山田屋治兵衛→	堅紙 1枚	34.1*	24.4
023	4167		(年月日未詳)	讀状写	包紙のみ。包紙上書「讀り状 山田屋治兵衛」。故【備考】「竹葉御店中 因幡堂」と記した包紙反故を利用。	堅紙 1冊(1 丁)	30.5*	21.4
024	4168		(年月日未詳)	【箱取手金具】	表紙のみ。	取手 1個	12.2*	18.4
					技箱等の担ぎ棒を通す金具。【備考】一部錆あり。	金具		

五 山中家 9 書状

整理番号	調査	年月日	文書名	発出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4048		(年月日未詳)	【金策二付ったや善助書状】	つたや善助→山田屋様	折紙 1通 (1紙)	14.5*	24.6
002	4154		(年月日未詳)	【書状断簡】	→山次様	切紙 1紙	16.8*	4.9

山中家 10 借仰

整理番号	借書校番号	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	3073	(天保7～16年) (月日未詳)	[伊勢藩]	(伊勢内宮佐藤伊織)→	天保7～16年暦。天保12年暦のみ裏面主水・残りには佐藤伊織板。10年分貼綴。	切継紙 (36紙)	1通 (36紙)	23.2*126.4
002	2002	弘化3年	[伊勢藩]	伊勢内宮佐藤伊織	伊勢内宮佐藤伊織領暦。弘化3年暦から嘉永7年暦まで9年分。貼綴。書込無し。【備考】紙綴「弘化三年ヨリ嘉永七年迄暦」。	切継紙 (31紙)	1通 (31紙)	24.1*113.0
003	2086	(年月日未詳)	[一枚起請文]	源空 花押	法然の一枚起請文の版本。弟子に授けた手形を押し付た遺言状。原本は、建暦2年(1212)正月23日成立。	堅紙	1紙	29.8*48.3
004	2001	(年月日未詳)	[大社御祈禱御守]		唐織御守札。紅地に白・紫糸で霞模様を織り込む。【備考】包紙上書「大社御祈禱御守」。	裂地包	1体	7.5*1.2 (18.1*7.4)
005	3027	(年月日未詳)	日別勤行式	小松谷御坊龍善印施→	念仏三礼として懐梅文・南無阿弥陀仏・念仏畢先唱等。	折帖	1冊 (87)	15.1*6.2
006	3072	(年月日未詳)	[牛王宝印断簡]		「□□大社」の牛王宝印の断簡か。	切紙	1枚	23.9*11.0

山中家 11 教養・文化

整理番号	借書校番号	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2160	03 寛文3年8月8日	寛(武士心得七箇条)	石(川)丈山書	全七ヶ条からなる武士としての心得「寛」の招本。【備考】「一 主君へ御奉公之儀ハ其身を任せ奉り何事によらずニ御用ニ立申心得を不漸……」。	半切	1枚	33.0*98.0
002	2161	13 天保庚子(11)年冬	[紙本墨彩富士山図カ]	算洞写(印)	【備考】巻込一括2161-1～15。	半切	1枚	35.0*61.1
003	4082	(明治3年)5月20日	應需謹考千茲清命四柱之真訣	京都三条川原口(町)東「」→	文政5年7月23日生まれの人の49才以降の運勢を占ったもの。	折紙	1枚	18.0*48.9
004	4015	丑年春月	[墨画牛図]	龍子写(印) (印)	「丑春」に描いた、牛の水墨画。	半紙	1枚	31.8*49.3
005	2008	01 (年月日未詳)	[和歌短冊案]		「千代たそふ声ハ之雲に聞ゆなる」下句次か。銀泥梅ヶ枝図料紙。	短冊	1枚	36.1*6.1
006	2008	02 (年月日未詳)	雪[和歌短冊]	時生	題「雪」。「ふりつもる 山路の雪を わけていへ 朝立しかの あともミえけり 時生」。雪母指銀箔散し料紙。	短冊	1枚	36.2*6.1
007	2008	03 (年月日未詳)	萩[和歌短冊]	時生	題「萩」。「吹く風に なひくををきれハ 小萩原 まつ露よりは □か初にける 時生」。雲母指銀箔散し料紙。	短冊	1枚	36.1*6.1
008	2008	04 (年月日未詳)	[和歌短冊]	智泉	「八十ちのはるをむかへてよめる」と題して、「わかのうらや 幾瀬のわたの 波こして やそ路のはまの 松風のおと」。雲形雲母押料紙。	短冊	1枚	36.5*6.0

整理番号	圖書番号	年月日	文書名	表出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
009	2008 05	(年月日未詳)	[和歌短冊]	守満	「御祝ひの志るしに ささけし品を 君よろこびにのへて、一首たまへりしを 返歌までに侍る」と題して、「若みどり 春のはしめの 志るしにとさっけし千代は 君かまにまに」と詠む。	短冊 1枚	36.5*	6.0
010	2008 06	(年月日未詳)	薄随風 [和歌短冊]	通一	「薄随風」と題して、「津の国の 遠里□□□ はなすき、まねかぬとても かぜそよりそふ 通一、」と詠む。	短冊 1枚	36.3*	6.0
011	2008 07	(年月日未詳)	鎌田氏賀 [和歌短冊草稿]	(蓬哥)	「鎌田氏賀」と題して、「限なく まする黄金は たくさむ(以下欠)」と詠む。2008-8の草稿。	短冊 1枚	36.2*	6.0
012	2008 08	(年月日未詳)	鎌田氏賀 [和歌短冊]	蓬哥	「鎌田氏賀」と題して、「限なく まする黄かねハ 多久さむに 守る其君は千代そ重る 蓬哥」と詠む。	短冊 1枚	35.8*	5.9
013	2008 09	(年月日未詳)	雨中驚 [和歌短冊]	泰澄	「雨中驚」と題して、「晴れやらぬ 雨につはきや 志をらん おも斗にわたる 驚の一むれ 泰澄」と詠む。黄染紙に松葉型押し料紙。	短冊 1枚	36.2*	6.0
014	2008 10	(年月日未詳)	[和歌短冊案]		「常盤木の色(後欠)」とのみ記す。料紙に金銀の切箔・砂子あり。	短冊 1枚	36.0*	6.0
015	2008 11	(年月日未詳)	[蓮の葉図短冊]		青空に金泥による千鳥を描く。裏面に「ス印 エナ」と墨書有。	短冊 1枚	36.0*	6.0
016	2008 12	(年月日未詳)	[千鳥図短冊]		表に墨付はなし。霞引きの料紙。裏面に「表通り丁子ふり」「ト印 エヒ」と墨書有。	短冊 1枚	36.1*	6.0
017	2008 13	(年月日未詳)	[霞引き短冊]		表に墨付はなし。霞引きの料紙。裏面に「表通り丁子ふり」「ト印 エヒ」と墨書有。	短冊 1枚	34.9*	6.0
018	2008 14	(年月日未詳)	[洪引打曇料紙短冊]		洪により打曇文様を引いた料紙。表面に墨付はなし。裏面に「三印」「ラ印 エロ」墨書有。	短冊 1枚	34.9*	5.9
019	2008 15	(年月日未詳)	[打曇文様料紙短冊]		刷毛によるぼかし染めの打曇り文様の料紙。表面に墨付なく、裏面に「リ印 エノ」外二高、天地輪子ふり」と墨書有。	短冊 1枚	35.6*	6.0
020	2008 16	(年月日未詳)	[ぼかし染め料紙]		刷毛ぼかし染めによる料紙。表面に墨付はなく、裏面に「リ印 エノ」と墨書有。	短冊 1枚	35.6*	5.9
021	2008 17	(年月日未詳)	[墨蓋流し染片木短冊料紙]		杉の片木に墨・藍による墨流し染めを施した料紙。面面とも墨付なし。	短冊 1枚	34.6*	5.5
022	2008 18	(年月日未詳)	[松葉ぼかし染料料紙短冊]		刷毛ぼかし染めによる松葉文様の料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	34.9*	5.5
023	2008 19	(年月日未詳)	[雲母引料紙短冊]		雲母引の料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	35.0*	5.7
024	2008 20	(年月日未詳)	[亀に技図料紙]		刷毛ぼかしによる亀図に、淡彩で流水紋と枝を描いた料紙。	短冊 1枚	34.9*	5.7
025	2008 21	(年月日未詳)	[短冊]		鳥の子料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	34.9*	5.5
026	2008 22	(年月日未詳)	[ぼかし染内曇文様料紙短冊]		刷毛ぼかし染による内曇文様に金切箔を施した料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	35.0*	5.7
027	2008 23	(年月日未詳)	[ぼかし染内曇文様料紙短冊]		刷毛ぼかし染による内文様の料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	35.0*	5.7
028	2008 24	(年月日未詳)	[紅葉に桜花丸文料紙短冊]		刷毛ぼかし染めに、紅葉と桜の花丸文をほどこした料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚	35.0*	5.7

整理番号	開巻校番	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
029	2008 25	(年月日未詳)	〔富士図料紙短冊〕		銀泥富士図に刷毛ぼかしを施した料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚		34.7* 5.6
030	2008 26	(年月日未詳)	〔笹図料紙短冊〕		砂子に笹図の料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚		35.0* 5.6
031	2008 27	(年月日未詳)	〔織紙料紙〕		鍔型押に雲母散らし料紙。表裏ともに墨付なし。	短冊 1枚		34.9* 5.5
032	2008 28	(年月日未詳)	〔松枝図料紙短冊〕		松枝に刷毛ぼかしを施した料紙。表裏ともに墨付なし。	短冊 1枚		35.0* 5.5
033	2008 29	(年月日未詳)	〔ぼかし染料紙〕		刷毛ぼかし染料紙。表裏墨付なし。	短冊 1枚		34.9* 5.5
034	2008 30	(年月日未詳)	〔ぼかし染料紙〕		刷毛ぼかし染料紙。表裏とも墨付なし。	短冊 1枚		34.8* 5.5
035	2008 31	(年月日未詳)	〔銀泥土坡図料紙短冊〕		銀泥に刷毛ぼかし染による土坡図の料紙。表裏ともに墨付なし。	短冊 1枚		34.9* 5.5
036	2008 32	(年月日未詳)	〔銀泥梅枝図料紙短冊〕		銀泥で梅枝を描く料紙。表裏ともに墨付なし。	短冊 1枚		36.0* 6.0
037	2008 33	(年月日未詳)	〔ぼかし染料紙短冊〕		刷毛ぼかし染料紙。表裏ともに墨付なし。	短冊 1枚		34.9* 5.5
038	2004 01	(年月日未詳)	〔七言律詩〕	→	七言律詩。「藤前夏景尔……」春牙豹の名と印あり。誠菴元の元を訪れて賦呈とある。	切紙 1紙		129.9 *29.0
039	2004 02	(年月日未詳)	〔散無極〕	→	「散無極」、「横圓守(惟)」の字のみ。印は3ヶ所。	切紙 1紙		29.3* 68.0
040	2160 01	(年月日未詳)	〔子修拓本〕		十二支俵(子)の拓本か。	半切 1紙		91.0* 36.3
041	2160 02	(年月日未詳)	〔竹梅園画賛〕	若竹園(印)	花入に入った梅と竹の図に詩が添えてある。「松為星竹為鏡目下□□别有幽趣」	上切 1紙		112.2 *32.0
042	2161 01	(年月日未詳)	〔和歌懷紙〕	春宮大夫公実	春宮大夫公実「九月尽の日、大井河にまかりて」の歌。「おしめとも、四方のもみちは散はてゝとなせを秋の とざり成ける」。	懷紙 1紙		31.8* 43.5
043	2161 02	(年月日未詳)	〔和歌書付〕		「不この葉に登れば雪のしら雪に、かよひ路たへて、踏まよひけり、しら雪のふかき心を入やしらまし」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙 1紙		23.7* 34.1
044	2161 03	(年月日未詳)	〔和歌書付〕		「佛を見るにつけては、君ごさに、ありしむかしの心地こそすれ」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙 1紙		25.0* 33.9
045	2161 04	(年月日未詳)	〔和歌書付〕		「夜もすから佛の御名をとなへつゝ行衛の道の志るへなるらし」。	切紙 1紙		24.0* 33.9
046	2161 05	(年月日未詳)	〔和歌二首書付〕		1「踏まよふ君のころは、しら雪のふりつちりたる、ふしの高根を」、2「まねかすも、風ぞ吹来る御国の 遠里に野の 厄や成らん」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙 1紙		23.7* 34.3
047	2161 06	(年月日未詳)	〔和歌書付〕		「かきりなき世のたのしみを捨て行、君か心はいかにや有らむ」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙 1紙		19.9* 29.4
048	2161 07	(年月日未詳)	〔和歌書付〕		「としははやみめくるけふも露とのみのほる連の花の基に」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙 1紙		25.0* 33.8

番号	圖書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
049	2161	08	(年月日未詳)	【書状断簡】		「一首御たむけ」の厚情を謝し、世の愛いを語る。 後欠。【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙	1紙	24.1*
050	2161	09	(年月日未詳)	【和歌書付】		「家を捨、世を捨、何のくるしきも、なれむへ君か、住そなるらむ」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙	1紙	23.9*
051	2161	10	(年月日未詳)	【禪語書跡】	守眞(印)・白文(印)・朱文)	【無事是貴人】【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙	1紙	36.4*
052	2161	11	(年月日未詳)	【和歌懷紙】	(御製)	「白川院七百首歌の中に山家風といふことをよませ給ひける 御製」「かてたにも 一かたよりそ かとひける 山たちめくる ふもとなる庵」【備考】端裏「来ル廿四日天満宮火焚奉納書 (朱印)山中御氏」。巻込一括2161-1～15。	堅紙	1紙	31.6*
053	2161	12	(年月日未詳)	【漢語書跡】	横閑守眞書(印)(印)	「酒不酔人 人自酔 色不迷人 人自迷」【備考】巻込一括2161-1～15。	切紙	1紙	30.2*
054	2161	14	(年月日未詳)	【俳句書跡】	之雅(印)	「花の宿置処なき客も有」他3句。【備考】巻込一括2161-1～15。	半切	1紙	47.1
055	2161	15	(年月日未詳)	【玉田永教道歌】	玉田氏謹弘之(印「秀穂舍印」)	「父母もここにいまその十寸鏡めぐみのかけをうつす此身ぞ」【備考】秀穂舍 玉田永教。巻込一括2161-1～15。	半切	1紙	66.0*
056	2163	01	(年月日未詳)	【和歌短冊】	(町尻少将量朝臣)	「雪ふれへハ木毎に花ぞ咲にけるいつれを梅と分て知まし」。【備考】付紙に「町尻少将量朝臣」。包紙一括2163-1～2。	短冊	1枚	60.6*
057	2163	02	(年月日未詳)	【和歌短冊】	子慶	「賀 玉ほこのくもちそかけや六十歳のことふきい わふ代々のかゝみに」。【備考】包紙一括2163-1～2。	短冊	1枚	34.1*
058	2164		(年月日未詳)	【和歌短冊】		「わが宿の千代の……」【備考】包紙有「三室戸様御満(カ)筆」「堺屋嘉七」。	短冊	1枚	6.2
059	3021		(年月日未詳)	しんはん 手まりうた		「まつそ来の北の顔見せ、ことしやよいぞ多みな花やくしや…」俗謡か。豆判多色刷春画2枚を包む。	切紙	1枚	36.3*
060	4016		(年月日未詳)	【墨書「北堂夜々人如月」】		「北堂夜々人如月」の墨書。	切紙	1枚	6.1
061	4155		(年月日未詳)	【色紙包紙断簡】		「三十六歌仙小色紙画 土佐光起筆三拾六枚」の包紙。	包紙	1枚	16.2*
062	4156		(年月日未詳)	證(包紙)	畫所預→	「三十六歌仙小色紙画 土佐光起筆三拾六枚」の包紙。	包紙	1枚	56.4
						紙。	包紙	1枚	32.7
						面所預からの文書、または作品の包紙。	包紙	1枚	32.8*
							封紙	1枚	18.5
							封紙	1枚	30.0*
							封紙	1枚	42.0

Ⅷ 近代 1 戸長

番号	圖書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2037		明治6年2月	半季取集メ(中大坂町諸人用二付、控)	下京廿四区中大坂町 戸長 山中治兵衛 印→	宅蔵につき25銭(小学校出金)、宅軒役につき3銭1厘4毛(総区長詰所人用)などの諸入用書き上げ。	堅紙	1綴	24.1*
002	4050		明治6年2月	【戸長届書・願書等控 綴】	戸長 山中治兵衛(印)→	小学校出金等の町入用書上、居留人届、戸籍調口達、地車改印返上届など願書・届綴。【備考】野外に「跡相改メ、町控」。	堅紙	1綴	16.5
							紙	1綴	23.9*
							紙	1綴	10丁、16.5
							紙	1綴	16.5



整理・調査・校番	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	頁数	法量
003 4086	01	明治7年3月 〔戸長改正二付心得箇条書〕	戸長→(町中)	戸長改正において各町が守るべき心得を記す。日々的心得や戸長の立場など35ヶ条。【備考】4086-1と4086-2は一括ではない。	堅帳綴 1冊	(6)	24.8* 17.1
004 4095		明治7年7月22日 〔軒役割・総区長給料等二付通書綴〕	正副区長(他)→戸長中(他)	軒役割廃止につき、総区長給料、正副区長給料、諸公費を地券代面の割合。今後決定するが、まずは戸長給料半季分表家8銭少々、裏家4銭少々徴収のこと。	堅帳綴 1綴 (丁)	(2)	17.2* 24.8
005 4094		(明治7年) 〔中大坂町借地書上〕	(中大坂町)	樋口保三郎・竹村晋・山中治兵衛・中嶋安次郎・川田みなね所有の借地・借家の宿料・借り主・引取人・請入の名前を記す。	堅帳綴 1綴 (丁)	(8)	25.0* 16.5
006 2038		(明治8年)亥4月 戌一月ヨリ六月迄出費	大坂町 年寄→蛭子様	壹匁につき小学校出金・総区長請料・正副区長請料・戸長請料・太鼓打費などの、戌1月ヨリ6月迄の出費書上。	堅帳綴 1通 (紙)	(1)	24.8* 33.0
007 4090		(明治9年6月) 明治九年六月迄民費課出表		会議処、防臭水薬代、芥取拾買、学校積戻、楊梅通辻溝蓋損直し、総区長結所処、鉱泉課の諸費目の書き上げ。	堅帳綴 1通 (紙)	(1)	23.3* 33.2
008 4084		明治10年1月29日 〔天皇・皇后・皇太后様御入京二付町中連印書〕	上田幸治郎(印)・小田古満(印)・北村佐右衛門(印)、以下35名→大坂町下組戸長 山中理三郎殿	天皇他御入京の時に鉄道開業式、小学校への行幸があるので区戸長たちから入費の説諭を行うこと、決してひそかに苦情などを申し上げないように取り決め押印。	堅帳綴 1通 (紙)	(4)	23.8* 16.7
009 2010		明治15年9月 明治十五年地方税戸数割前半年分誤出	戸長役場→中大坂町	地方税の概金について。ズ金4円16銭1厘を支払う。明治15年の前半分。来々29日午前9時に御差出ししたい。	堅帳綴 1通 (紙)	(1)	24.9* 16.8

## VII 近代 2 扇屋經營

整理・調査・校書	年月日	文書名	差出→宛名	内容	形状	員数	法量
001 3103	明治2年己巳5月吉日	直入控	山中→	明治17年頃までの直入控や、仕入値などが記されている。いずれも扇関連のもの。5冊合綴。	横半 帳合 (202 丁)	1冊	14.8* 21.7
002 3074 03	(明治)17年12月4日	「扇子商売二付書状」	平谷藤吉→山中治兵衛様	三ツ井為替にて金二百円の証券一通を送るので、参着次第引き替え、請け取りのこと。【備考】紙綴一括3074-1～6。	切紙 1通 (1紙)	1通 (1紙)	16.3* 38.6
003 3074 05	(明治)8年)2月3日	「扇子商売二付書状」	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中様	金二百円を三ツ井為替にて送付のこと、夏用扇見本のこと、注文品送付急ぐこと、時節所高値のため先行き心痛のため直引き願う。【備考】紙綴一括3074-1～6。	切綴 1通 (2紙)	1通 (2紙)	15.8* 55.5
004 3074 02	(明治)18年2月13日	記(扇子注文状)	平谷藤吉→山中治兵衛様	扇子注文表。19種、なるべく上出来なものを願う。【備考】紙綴一括3074-1～6。	切綴 1通 (3紙)	1通 (3紙)	15.7* 64.5
005 3074 06	(明治)18年6月7日	「扇子商売二付書状」	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中様	三ツ井為替にて金百円の証券を送る事、牡丹舞の出荷について、もし「今日」出荷がなければこの書状が着き次第少しでも送るよう願う。【備考】紙綴一括3074-1～6。	切綴 1通 (3紙)	1通 (3紙)	15.4* 57.1
006 3028	(明治)18年6月26日	「風帆船延引二付為替証差送りの事」	平谷藤吉→山中治兵衛様	風帆船の荷物延引二付、代価差送りの承引を願う。尚々書に今日船が着かなかったことを記す。	切紙 1通 続紙 (3紙)	1通 (3紙)	16.2* 48.0

整理番号	整理	年月日	文書名	提出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
007	3070	明治19年6月16日	「扇商売二付書状」	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中参	金百門を三ツ井為替より送ること、箱代値引きの事、品切物の事、蒸気船運賃高値の事、また日ノ丸厨注文の事。	切継紙	1通 (2紙)	15.9* 60.9
008	3042	(明治)19年8月4日	「平谷藤吉書状」(扇市況二付)	平谷藤吉→山中治兵衛様	金50両を三井為替取扱にて送金のこと、名古屋扇子断につき、商柄の悪化、相場の高騰のため商品種戻しのことなど。【備考】淡棕色染紙。	切継紙 (2紙)	1通 (2紙)	16.0* 39.3
009	1073	1 (明治)20年1月23日	記(手形送金二付)	柏屋系左衛門→山中治兵衛様	拾貫貳百七拾八匁五分八厘、貳百号より貳百十式迄の金額について、三井銀行手形で送るので御引合帳消にして下さい。	切継紙 (2紙)	1通 (2紙)	17.7* 42.5
010	3100	明治20年亥1月吉日	物品渡	下京区第廿四組大坂町山中治三郎→	明治20年から30年まで1年分ずつ合計10年間の物品渡し帳。1年の区切ごとに収入印紙が貼られ、期限等が記されている。扇子類の運送に関するもの。	横半帳 (73丁)	1冊 (73丁)	14.8* 22.2
011	3067	02 (明治)20年6月16日	「為替受取及び扇子送付依頼二付書状」	平谷藤吉→山中治兵衛様・御店中様	金100兩を三ツ井組為替証書で送るため、受取の上入帳願ひ、また、白十間上等品、中等品を取り合わせ至急送付の旨、念押しをする。【備考】巻込一括。3067-1～2。	切継紙 (2紙)	1通 (2紙)	16.2* 49.0
012	3067	01 (明治20年)6月29日	「扇子代金送付二付書状」	柏屋系四郎・正三郎→山中治兵衛参ル	日ノ丸扇子代金二付、証書にて送るので、よろしく請け取りのこと。【備考】巻込一括。3067-1～2。	切継紙 (2紙)	1通 (2紙)	16.7* 64.4
013	4159	明治20年9月19日	新口丸積附録	京都小形支店(印)→山中治三郎様	横浜の北村為助殿へ向けて発送した「イオリ迄」の9箇の荷物についての通達預り証。	専用紙 (1通1紙)	1通(1紙)	13.1* 18.1
014	3101	明治21年2月吉日	金銭渡	下京区第廿四組大坂町山中治三郎→	明治21年1月から明治23年1月までの帳簿。満2年の年限とする。日付と金額、人名を記す。	横半帳 (82丁)	1冊 (82丁)	14.5* 21.1
015	3003	(明治)21年8月7日	「書留封筒」	(東京)平谷藤吉(印)→西京島丸通り五條下ル山中治三郎様	「大急ぎ」。8月8日東京の消印、8月10日京都の受納印あり。【備考】封筒のみ。	封筒	1包	17.7*
016	1003	(明治)21年9月27日	記(引合金算用二付)	柏屋系左衛門・正三郎→山中治三良様	金95兩97銭2厘 216号～225号他1件計、金135兩69銭2厘のうち三井銀行手形送金分算出、引合帳消のことを願う。	切継紙 (2紙)	1通 (2紙)	17.0* 55.9
017	3088	(明治)21年9月	記(扇代金等送金二付)	平谷藤吉(印)→山中治三郎殿	品代、運賃等、合計金25兩50銭3厘について、6月と8月に支払った分を差し引いた皆済金を送ったので、引合の上で帳消にして下さい。【備考】平谷藤吉の印「東京／堀江町二丁目／平谷藤吉」とあり。一紙と二紙の間にも印あり。	横折紙 (2丁)	1綴 (2丁)	12.2* 32.7
018	3096	明治22年丑4月	「諸勘定書綴」	清水栄治郎・西川・野村潜・人見、他→(山中御店)	山中に宛てた、4月30日前後付の勘定書綴。扇関連と思われるものも含む。	綴紙 (28通)	1綴 (28通)	17.5* 156.0
019	3090	明治22年5月31日	覚(扇骨代金請求書)	ケズリヤ松尾清兵衛→山中治三郎様	5月末分の請求書控。扇関係か。	綴紙 (6丁)	1綴 (6丁)	15.3* 27.5
020	3097	(明治22年)丑6月30日	「諸勘定書綴」	西村卯之助・壺井・高橋・吉介・山林静三郎・江田利助、他→(山中御店)	山中宛の勘定書等。白竹など、扇骨に関するものか。【備考】「丑年」6月30日前後の内容。朱筆で「済」とあり。	綴紙 (32通)	1綴 (32通)	18.0* 106.1
021	3099	明治22年10月	「諸勘定書綴」	引喜・西村卯之助・中野・上田・東村山、他→(山中)	山中に宛てられた勘定書の綴り。主に明治22年10月・11月分。扇関連のものが多い。	綴紙 (32通)	1綴 (32通)	15.8* 176.9
022	3094	02 (明治)22年12月31日	「諸勘定書綴」	○ヤ 清水栄治郎・○ 喜多見折之介・折佐、他→八二御店・山中御店	扇加工・扇骨・紙地仕立に関する勘定類。【備考】3094-1～2。	切継紙 (24通)	1綴 (24通)	17.6* 61.5

番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
023	3098		(明治23年)寛3月5日	〔諸勘定書綴〕	西洞院松原西人・江口源五郎・山口市太郎・諸紙類売却 初田伴藏、他→(山中治兵衛・山中様・山中御店)	山中治兵衛(山中御店)にあてられた様々な店からの領収書57通分を貼り綴ぐ。表裏・天地逆のもの有。扇紙など扇屋関係を含め。【備考】途中で長さには加算されない紙有(一枚)。後欠。	切継紙貼(57通)	1巻	116.0*1105.7
024	3102		明治24年1月	金銭渡	山中舗→	明治24年3月から29年10月までの金銭受取証の帳面。日付けと金額、宛先を記し、各証券印紙を貼る。【備考】表紙裏や見返しに新聞等の領収書の貼付有。(明治29年のものまで)。	横半帳	1冊(80丁)	21.3*15.0
025	1073	2	(年未詳)1月23日	〔扇残金送金二付、柏屋孫左衛門書状〕	柏屋孫左衛門・正三郎→山中治兵衛様	扇子残金、金七拾壹円三井銀行手形にて送る。証書を送るので引合しお受け取りの上、帳消にしておし等。【備考】1073-1差込。	切継紙	1通(3紙)	16.6*77.6
026	3089	02	(年未詳)1月31日	〔諸代金受取書綴〕	吉川□七・山口市太郎・清水栄次・うつみ咲・島五倉→(山中様)	山中宛の領収書と扇子代金等の勘定証、計5点。	切紙綴	1綴(5通)	16.5*65.3
027	3074	01	(年未詳)3月4日	〔扇子商売二付書状〕	平谷藤□(吉)→山中治兵衛様御店中江	三ツ井為替にて払い込みにより、不足分皆済のことと、また扇子注文二付、大急ぎで見本送付の依頼。【備考】紙縫一括3074-1〜6。	切継紙	1通(2紙)	15.9*73.6
028	3047		(年未詳)3月9日	〔平谷藤吉書状〕〔扇商売二付〕	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中様	315号〜321号荷物受取、金50両三ツ井為替にて送金のこと、3月9日注文の品不着につき問合せ、大坂よりの船運賃の件、名古屋扇預りなど。	切紙綴	1通(2紙)	15.8*59.1
029	3071		(年未詳)3月23日	〔為替送金二付書状〕	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中	金五拾円を三ツ井為替手形で差送った旨を記す。	切紙綴	1通(1紙)	15.8*33.4
030	3044		(年未詳)9月10日	〔平谷藤吉書状〕〔扇売捌き二付〕	平谷藤吉→山中治兵衛様御店中参	去7月26日案内の314号荷物受取のこと皆済金74円40銭2歩と為替証差上げのこと、山中店扇子高値のため売却きにくいうこと、玉光印の仕入値、箱代高値につき迷惑の旨。	切紙綴	1通(3紙)	15.6*65.6
031	1001		(年未詳)9月27日	〔柏屋孫左衛門・正三郎書状〕	柏屋孫左衛門・正三郎→山中治三郎様	返済金が返引しているが某事情により帳消しにしてほしいという依頼。【備考】1003を受けたものか。	切継紙	1通(3紙)	17.0*85.5
032	1086	02	(年未詳)	〔勘定書付断簡〕	〔 〕佐→(山中)中御店	「佐」「中御店」とあり。【備考】1086-1と一括関係なし。	断簡	1通(3紙)	10.7*3.7

近 代 3 金 融

番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2039		(明治6年)酉7月20日	寛(金子借用二付)	鈴木屋宇兵衛→山田屋お恵ひさま	金2歩を入用につき借用。返済は来戌3月晦日戻とする。	堅紙綴	1通(1紙)	23.9*33.4
002	2015	01	明治9年4月2日	借用申証文之事(写)	下京第式拾四区鳥丸五條下ル町山中治兵衛 判・下京第式拾八区上梅屋町中野弥兵衛 判・城州葛野郡第一区川勝寺村飯村織太郎 判→六嶋又七殿	金186円の借用証文。地所と建物を抵当に入れ、返済が滞ったら引当を残らず売却して支払う。不足の時は連判の者が弁償する。【備考】「田中督次郎判」の奥書署判。	切継紙	1通(2紙)	25.0*55.4
003	2015	02	明治9年4月2日	明治九年四月二日書入質(写)	京都府下京第式拾四区大坂町三百九拾八番地住居 建物持主 山中治兵衛→六嶋又七殿	質に入れた建物の簡略な図に坪数などを記す。【備考】戸長田中督次郎の奥書署名あり。朱字奥書「美濃紙右之通相認メ老牧者学校差置、老牧貸主へ証書相添」。。	切紙綴	1通(1紙)	25.0*34.1

整理番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
004	2041		明治9年4月2日	[連判証文断簡]	下京第貳拾四区烏丸五條下ル町 山中治兵衛(印)・(1名分切取)・城島葛野郡第一区川勝寺村 飯村織太郎(印)→六嶋又七殿	年月日・差出・宛名のみ。差出人1名分切取。【備考】前欠。	堅紙 1通 断簡	(1紙)	32.3* 22.7
005	3009		明治17年12月8日	仮証(利子請取)	竹村藤太郎(印)→山中治兵衛様	金3円44銭5りを利子として、請取る。	切紙	1通	16.0*
006	2027		(年月日未詳)	借用申証文之事	(山中)→	金188円の借用証文。山中治兵衛所持の地所2ヶ所と建物を抵当に入れ、支払が滞った時は、それらの売払代金で返済し、不足分は連判の者が弁う。【備考】端裏「山中様」。	堅紙 1通 (1紙)	18.5 32.5*	22.5* 47.0
007	4096		(年月日未詳)	[山中治兵衛・山本嘉兵衛所持地屋敷坪・代償・絵図綴]	→	大坂町山中治兵衛の家作・抱家2件、同町山中喜兵衛の家作1件の明細書綴り。	堅帳 1綴 仮綴	1綴 (3丁)	23.9* 17.1

Ⅷ 近代 4 借家経営

整理番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4130		平(年月日未詳)	宿料入費帳	山中氏	山中氏所有の質家の家賃徴収簿。平年から平年まで。	横平 1冊 帳	1冊 (135丁)	15.0* 22.4

Ⅷ 近代 5 社会活動

整理番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2006		明治9年11月27日	[学校建設資金差出褒賞状]	京都府→下京第廿四区／上柳町中村佐兵衛	学校建設につき、人材教育の興趣意に賛同し、学校資金6銭2厘5毛を差ししたこと奇特である、白紙の礼紙帯紙あり。	切紙 1通 縦	1通 (2紙)	19.3* 65.4

Ⅷ 近代 6 家族・親族

整理番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	4088		明治7年戊11月	送箱券	愛宕郡第1区岡崎村 石村五頭 西村善五郎・戸長 嶋田半四郎→下京第廿四区烏丸通五條下ル二丁目 中大坂町 戸長御中	岡崎村高津時生妹ふさ、大坂町山中治兵衛妻女につき。	堅紙 1通	1通 (1紙)	25.2* 16.8
002	4046		明治7年11月25日	送箱受取證(写)	下京区廿四区烏丸通五條下ル 大坂町 戸長 蛭子五兵衛 印→山城国愛宕郡第壹区岡崎村 戸長 嶋田半四郎殿	大坂町の山中治兵衛方へ岡崎村のふくが入嫁するため送箱証を差越され、確かに受け取る。裏は書式の見本。	切紙 1通 (1紙)	1通 (1紙)	24.7* 20.8

Ⅷ 近代 7 家政

整理番号	開書	校書	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	法量
001	2024		(明治8年)	[家屋敷地間尺改正表記図]		屋敷地の表口・奥行の間敷を改正間尺により勘算し直したものの。明治8年の折衷尺採用の際のものか。	切紙 1枚	1枚	22.0* 28.3
002	4045		明治10年12月29日	始末書(官地街道妨害二付)	下京第廿四区大坂町 扇子宿 山中治兵衛(印)→京都府知事 横村正直殿	一昨28日、鍵屋町西入の私有地の悪水抜樋破損につき、修繕のため掘返した際、許可なく隣接の官地に土を差し置き、街道を妨害した際の始末書。朱書により「贖金75銭ヲ徴ス」と記す。	野紙 1通 (1紙)	1通 (1紙)	22.8* 31.6

整理番号	開書校番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	分量
003	4145	明治17年甲9月	諸雑費記	山中氏	明治17年9月1日から、明治19年10月までの諸々の出費を記す。日付・金額・品物や人名などを記す。月末にはその月ごとの小計をうけている。	横帳 1冊 (180丁)	11.7* 32.0	
004	4146	明治20年10月吉日	金銭出入帳	山中氏	明治20年10月22日から明治24年1月2日までの金銭の出入を記した帳面。【備考】途中に15枚白紙有り。	横帳 1冊 (155丁)	11.5* 32.4	
005	3094 01	(明治) 22年12月1日	〔諸勘定書綴〕	市大屋・安田新七・鳥五舎・米忠・良兼、他→(山中次様・鳥丸扇屋様など)	1 2月分の薪炭・量・蓮・寿司などの諸買物につき。【備考】端裏「廿式年十二月中店内共」。3-94-1~2。	切紙 1綴 純紙 (26通)	15.9* 75.2	
006	3005	明治22年8月	〔勘定覚綴〕	西川、中野、西村卯之助、箱常、三共組、西山、高橋重介、筒井新兵衛、江口清七、上田佐、他→山中様	8月末から同年9月にかけての扇用紙・加工賃・大工など勘定書21通の綴。【備考】紙縫一綴。	切紙 反紙 (通)	15.8* 111.5	
007	3007	(明治22年) 丑9月 ~11月	寛(代金受取覚綴)	武田勝造・大工佐々木治兵衛・材木太田通三郎、官兼、他→山中様	大工手間賃・魚・料理代・衣類などの代金受取17通の綴。【備考】紙縫一綴。	切紙 綴 (17通)	16.6* 35.2	
008	4135	明治24年1月吉日	諸雑費記	山中家	明治24年から明治27年12月31日までの諸雑費を記す。	横帳 1冊 (133丁)	11.8* 32.6	
009	4136	明治24年正月	金銭出入帳	山中家	明治24年1月から同29年までの、出方、入方を仕分けした出納簿。	横帳 1冊 (221丁)	11.6* 32.2	
010	4129	明治26年1月	金銭渡	[ ] 山中治三郎	明治26年1月から31年12月中の金銭渡帳。	野紙 1冊 横半 (196丁)	15.0* 22.0	
011	3093	(年未詳) 4月30日	寛〔諸勘定書綴〕	三清→山治様	4月末付けの材木などの領収書等を綴ったもの。	反紙 1綴 (14丁)	15.6* 46.1	
012	3079	(年未詳) 8月31日	〔諸代金受取書綴〕	菱松・小柄・米忠・鳥五舎・良兼・武田勝造・和泉竹・大工作兵衛・魚竹など→(山中治兵衛)	山中に宛てられた諸代金受取証、計20通。差出は菱松、鳥五舎、武田などそれぞれ異なる。	切紙 1綴 (20通)	16.5* 37.0	
013	3089 01	(年月日未詳)	〔諸代金受取書綴〕	鳥五舎・なら新・米忠・漆喜・樽庄など→(山中治兵衛)	2月と3月の山中宛の代金受取証、22点。食品や人別など様々で差出もそれぞれ異なる。	切紙 1綴 (22通)	16.8* 50.0	

近 代 8 書 状

整理番号	開書校番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	員数	分量
001	1007	(年未詳)7月	〔つね書状断簡①〕		【備考】1009、1007、1005一括。1005に記載。			
002	1009	(年未詳)7月	〔つね書状断簡②〕		【備考】1009、1007、1005一括。1005に記載。			
003	1005	(年未詳)7月	〔つね書状断簡③〕	つね→旦那様座下	先日姉の訪問。本日の茶置戴の礼、自身の病状報告、心配せぬよう伝える。服用する茶につき遠藤氏との重複を危惧。病気が全快後帰宅するつもりである旨。【備考】前欠。1007、1009と合わせて1通のりはがれ。	切紙 1通 (3紙)	17.8 *	122.5
004	2003	(年月日未詳)	〔光壽書状〕	光壽→おふミ様まいる	「…其せつ御かし被成候へく候、四しなよふよと、二しな御もらい申候へく候ま、五円一ツ三円一ツと御もらい申候へく候ま、さやうと思しめし遊し、先はほどなくかれこれと致候へく候…」など。	折紙 1通 (1紙)	36.1* 49.6	



Ⅷ 近代 9 信仰

整理番号	調査	採番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	3002		明治15年2月12日	記(神饌料受納二付き)	皇大神宮祈禱所(印)→	小箱(横13mm×縦37mm×厚さ4mm)状の守札4個を包む。神饌料として金30銭を受納する。守札には、「天照皇大神宮」に朱印あり。	切紙 1通 (1紙)		19.0* 16.8

Ⅷ 近代 10 教養・文化

整理番号	調査	採番	年月日	文書名	差出→宛名	内 容	形状	頁数	法量
001	3095		(年月日未詳)	「一新傳社宿札」	(印「掛川藤屋」)→吉野屋跡右衛門	「一新傳社／濱松東入口／吉野屋跡右衛門」と記載有り。「掛川藤屋」の朱印有り。一新傳社の宿紹介札か。	切紙 1 枚		15.4* 5.7

(以上)